

カミヤ遺跡・羽代前田遺跡

はしろまえだ

中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書

2008年3月

島根県浜田県土整備事務所
江津市教育委員会

【カミヤ遺跡・羽代前田遺跡】正 誤 表

遺跡名	ページ・図番号	誤	正
カミヤ遺跡	挿図目次 第9図	S=1/100	S=1/200
羽代前田遺跡	写真目次 図版6	土器層02出土状況	土器層02出土状況
羽代前田遺跡	写真目次 図版9	SE-NW	NE-SW
カミヤ遺跡	P12 23行目	8～18は奈良時代から	8～18は奈良時代から
カミヤ遺跡	P15 7行目	W1～23は濠層で、外面にスラブ文が施される。W7や縁付けが施されるW12などが混在している。	W1～23は濠層で、外面にスラブ文が施される。W7や縁付けが施されるW13などが混在している。
羽代前田遺跡	P20 2行目	胎土などは古墳時代後期遺構の土師器と同じだが、89fは小型の甕で外面にヘラミカキが施されている。	胎土などは古墳時代後期以降の土師器と同じだが、89fは小型の甕で外面にヘラミカキが施されている。
カミヤ遺跡	P31 第33表 2	土師器	弥生土器
カミヤ遺跡	P31 第33表 2	古墳中期	弥生
カミヤ遺跡	P32 第33表 48	葦	輪柱つまが葦
カミヤ遺跡	P42 第40表 W80	棒状貝	板状貝
カミヤ遺跡	P42 第40表 W80	先尖錐	その他
カミヤ遺跡	P42 第40表 W80	縁部炭化	
カミヤ遺跡	P43 第40表 W103	残材	短材
カミヤ遺跡	P43 第40表 W104	残材	短材
羽代前田遺跡	P90 第7表 30	古墳後期	不明
羽代前田遺跡	P90 第7表 55	陶器	葦
羽代前田遺跡	P93 第7表 146	不明	葦
羽代前田遺跡	P94 第7表 168	葦	葦
カミヤ遺跡	写真図版34 写真右上	遺物番号161	遺物番号169

訂正箇所は、太字アウターラインの文字です。

カミヤ遺跡 漆器(容器) における漆の状況一覧

掲載No.	大分類	中分類	小分類	内(下地)	内(仕上)	外(下地)	外(仕上)
W1	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W2	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W3	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W4	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W5	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W6	容器	挽物	漆器皿	黒		黒	
W7	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤(絵付)
W8	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤(絵付)
W9	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W10	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤(絵付)
W11	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	赤(絵付)
W12	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤(絵付)
W13	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤
W14	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤
W15	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W16	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	
W17	容器	挽物	漆器皿	黒		黒	
W18	容器	挽物	漆器椀	—	—	黒	
W19	容器	挽物	漆器椀	黒	赤(絵付)	黒	
W20	容器	挽物	漆器椀	黒	赤(絵付)	黒	
W21	容器	挽物	漆器椀	黒	赤(絵付)	黒	
W22	容器	挽物	漆器椀	黒	赤	黒	赤(絵付)
W23	容器	挽物	漆器椀	黒		黒	

カミヤ遺跡 第40表 建物19計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間(4.14m)				2間(3.15m)			
主軸		N-98.9° -E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径(cm)	26×25	32×30	35×33	37×29	33×25	28×24	30×22	29×22
	底径座標(m)	137.25	137.09	137.12	136.97	137.11	137.06	—	—
柱間距離(m)		1-2	2-3	4-5	5-6	7-8	8-9	1-4	2-5
		2.12	2.02	1.96	2.10	1.91	2.11	1.75	1.71
柱穴 (cm)	番号	9	—	—	—				
	上面径(cm)	32×27							
	底径座標(m)	—							
柱間距離(m)		3-6	4-7	5-8	6-9				
		1.67	1.36	1.40	1.48				

カミヤ遺跡・羽代前田遺跡

中山間総合整備事業に伴う発掘調査報告書

2008年3月

島根県浜田県土整備事務所
江津市教育委員会

序

江津市教育委員会は、島根県浜田農林振興センター（現在機構改革により島根県浜田県土整備事務所となっている）の委託を受けて、平成16年度から文化庁の国庫補助事業を併用し、中山間地域総合整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりましたが、このたび報告書を刊行する運びとなりました。本報告書は平成16年度から平成17年度まで調査された江津市跡市町『カミヤ遺跡』と、平成17年度から平成18年度にかけて調査された江津市二宮町羽代『羽代前田遺跡』の調査成果を取りまとめたものです。

江津の中央を流れ奔る江の川は、中国太郎の異名を持つ中国地方最大の河川として知られていますが、古来より中国路陰陽を結ぶ大動脈として、文化、経済、人の交流を促してきました。15世紀の半ばには既に江の川河口は対外貿易基地の基地となり、環日本海交流の要衝の地として重要視されていたことが中国や朝鮮などの文献などにより明らかになっています。

カミヤ遺跡では、奈良時代から近世に掛けての集落跡が調査され、集落の移動が確認されるとともに、中世には本格的なタタラ製鉄を行っていたことが確認されました。また、羽代前田遺跡の調査では、古墳時代後期に展開した集落遺跡の片鱗を伺うことが出来ました。

両地区での本格的な発掘調査は今回が初めてのことで、江津市にとって大変貴重な歴史資料を得ることとなりました。本書が地域の歴史と文化に理解と関心を高めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の皆様や島根県浜田県土整備事務所、文化庁、島根県教育委員会、島根県埋蔵文化財調査センターをはじめ、調査に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成20年3月

江津市教育委員会

教育長 野上 公 司

平成 18 年度	野上公司	教育長	平成 19 年度	野上公司	教育長
	木村恒夫	生涯学習課長		石田道明	生涯学習課長
	中西一郎	同 課長補佐		中西一郎	同 課長補佐
	山崎香織	同 主任		山崎香織	同 主任
調査担当	梅木茂雄	同 主任	調査担当	梅木茂雄	同 主任
事務補助員	福本和世子	同 嘱託員	事務補助員	福本和世子	同 嘱託員
調査補助員	無川美和子	同 嘱託員	調査補助員	原田朋和	同 嘱託員
調査補助員	原山朋和	同 嘱託員			

- 調査及び報告書の作成に際し、次の組織、個人に指導・助言をいただいた。記して感謝する。
島根県文化財課、島根県埋蔵文化財調査センター：内田律雄、角山徳幸、東山信二
- 報告書の作成は以下のものが携わった。(50音順)
梅木茂雄、榎本(藤本)淳子、上手文子、鹿森三鈴、主原洋子、原田朋和、山田ゆう子
- 挿図で使用した方位は測量法による第3座標系 X 軸方向を指し、平面直角座標系 XY 座標は世界測地系による。標高は海拔高を示す。
- 科学分析は文化財調査コンサルタント㈱に委託した。
- 図版中の柱穴は Pit の省略記号 P で表す。
- 図版の構成上、遺構・遺物の図版掲載順序と本文の掲載順序は必ずしも対応しない。
- 観察表中の径の記載は蓋の場合、以下の通りとする。
口径→底径枠へ
つまみ径及び天井部径→口径枠へ
それぞれ示す。
- 報告書の文責及び調査内容に関する責は全て梅木に帰する。
- 報告書掲載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章	調査の経緯	1
第2章	カミヤ遺跡・羽代前田遺跡の位置と歴史的環境	1
第3章	カミヤ遺跡の調査	2
第1節	カミヤ遺跡の立地	2
第2節	調査区について	2
第3節	調査の結果1(遺構)	4
第4節	調査の結果2(遺物)	12
第5節	カミヤ遺跡総括	16
第4章	羽代前田遺跡の調査	17
第1節	羽代前田遺跡の立地	17
第2節	調査区について	17
第3節	調査の結果1(遺構)	18
第4節	調査の結果2(遺物)	19
第5節	羽代前田遺跡総括	21
第5章	カミヤ遺跡の科学分析	22
参考文献		173

カミヤ遺跡 表目次

第1表 建物01計測表	第22表 土坑計測表
第2表 建物02計測表	第23表 溝計測表
第3表 建物03計測表	第24表 谷計測表
第4表 建物04計測表	第25表 段伏遺構計測表
第5表 建物05計測表	第26表 焼土範囲計測表
第6表 建物06計測表	第27表 流路跡計測表
第7表 建物07計測表	第28表 集石遺構計測表
第8表 建物08計測表	第29表 加工段計測表
第9表 建物09計測表	第30表 I-C区ビット計測表
第10表 建物10計測表	第31表 カミヤ遺跡出土遺物分類表
第11表 建物11計測表	第32表 各時代における器種一覧表
第12表 建物12計測表	第33表 遺物観察表
第13表 建物13計測表	第34表 土錘観察表
第14表 建物14計測表	第35表 櫛刃口観察表
第15表 建物15計測表	第36表 伊織造材・鉄滓観察表
第16表 建物16計測表	第37表 石器観察表
第17表 建物17計測表	第38表 骨製品観察表
第18表 建物18計測表	第39表 鉄器観察表
第19表 柱列01計測表	第40表 木製品観察表
第20表 柱列02計測表	第41表 江津市南部の遺跡一覧表
第21表 性格不明遺構計測表	

カミヤ遺跡 グラフ目次

- グラフ1 調査区別遺物集計グラフ
 グラフ2 調査区別遺物構成比(百分率)

カミヤ遺跡 挿図目次

第1図 江津市南部の遺跡	S = 1/40,000	第13図 I-A区 谷1 遺物出土状況b	S = 1/60
第2図 カミヤ遺跡周辺の状況	S = 1/10,000	(●木製品 ■製鉄関連)	
第3図 カミヤ遺跡調査区配置図	S = 1/2,000	第14図 I-A区 谷1 遺物出土状況c	S = 1/60
I区(A~C) II区(D~G)		(●木製品 ■製鉄関連)	
第4図 本調査及び確認調査範囲指定図	S = 1/600	網かけは集石遺構01	
第5図 調査区全体図	S = 1/400	第15図 I-A区 集石遺構01 実測図	S = 1/20
第6図 I区調査区土層図	S = 1/80	柱列01・02 実測図	S = 1/40
第7図 II区調査区土層図	S = 1/80	第16図 I-A区 加工段01 実測図	S = 1/80
第8図 I-C区調査区土層図	S = 1/60	第17図 I-B区・II-D区燕削 遺構配置図	S = 1/200
第9図 I-A区 谷1 遺構配置図1	S = 1/100	第18図 I-B区 土層図	S = 1/80
第10図 I-A区 谷1 遺構配置図2	S = 1/100	第19図 I-B区 加工段02・03 実測図	S = 1/60
第11図 I-A区 谷1 遺構配置図3	S = 1/100	第20図 I-B区 性格不明遺構01・02 実測図	S = 1/30
第12図 I-A区 谷1 遺物出土状況a	S = 1/60	第21図 I-B区 遺構配置図	S = 1/100

第22図	I-B区 建物01 実測図	S = 1/80	
第23図	II-D区西側 建物02・03 実測図	S = 1/80	
第24図	I-B区 建物04・05 実測図	S = 1/80	
第25図	I-B区 建物06・07 実測図	S = 1/80	
第26図	I-B区 建物08・09 実測図	S = 1/80	
第27図	I-B区 建物10・11 実測図	S = 1/80	
第28図	II-E区西側・F区西側・G区 遺構配置図	S = 1/200	
第29図	II-F区西側 土坑01～03 実測図	S = 1/20	
第30図	II-E区西側 柱列01・建物12・建物13 実測図	S = 1/80	
第31図	II-F区西側・G区 建物14・建物15 実測図	S = 1/80	
第32図	II-D区・E区・F区 遺構配置図	S = 1/200	
第33図	II-D区・E区・F区 調査区土層図	S = 1/80	
第34図	II-F区 トレンチ06 排水溝構及び遺物出土状況	S = 1/30	
第35図	II-D区 築石遺構02 実測図 土坑04 実測図	S = 1/20 S = 1/30	
第36図	II-D区 溝06～10 実測図	S = 1/120	
第37図	II区 性格不明遺構03 土坑05・06 溝11 実測図	S = 1/120 (土 坑06はS=1/40)	
第38図	II-D区 建物配置図	S = 1/100	
第39図	II-D区 建物16 実測図 II-F区 柱列02 実測図	S = 1/80 S = 1/80	
第40図	II-D区 建物17・建物18 実測図	S = 1/80	
第41図	カミヤ遺跡出土遺物実測図1	S = 1/3	
第42図	カミヤ遺跡出土遺物実測図2	S = 1/3	
第43図	カミヤ遺跡出土遺物実測図3	S = 1/3	
第44図	カミヤ遺跡出土遺物実測図4	S = 1/3	
第45図	カミヤ遺跡出土遺物実測図5	S = 1/3	
第46図	カミヤ遺跡出土遺物実測図6	S = 1/3	
第47図	カミヤ遺跡出土遺物実測図7	S = 1/6 (172・ 173はS = 1/3)	
第48図	カミヤ遺跡出土遺物実測図8	S = 1/3	
第49図	カミヤ遺跡出土遺物実測図9	S = 1/1	
第50図	カミヤ遺跡出土遺物実測図10	S = 1/1 (S24 はS = 1/2)	
第51図	カミヤ遺跡出土遺物実測図11	S = 1/2 (S26・ S28はS = 1/3)	
第52図	カミヤ遺跡出土遺物実測図12	S = 1/2 (S40 はS = 1/4 S42・B1は S = 1/1 F1はS=1/3)	
第53図	カミヤ遺跡出土遺物実測図13	S = 1/3	
第54図	カミヤ遺跡出土遺物実測図14	S = 1/3 (W30 はS = 1/6) S = 1/3	
第55図	カミヤ遺跡出土遺物実測図15	S = 1/3 (W62 はS = 1/6)	
第56図	カミヤ遺跡出土遺物実測図16	S = 1/3 (W74 はS = 1/6)	
第57図	カミヤ遺跡出土遺物実測図17	S = 1/3 (W94 はS = 1/6)	
第58図	カミヤ遺跡出土遺物実測図18	S = 1/3 (W6 はS = 1/6) S = 1/3	
第59図	カミヤ遺跡出土遺物実測図19	S = 1/3	
第60図	カミヤ遺跡出土遺物実測図20	S = 1/3	
第61図	カミヤ遺跡出土遺物実測図21	S = 1/3	
第62図	カミヤ遺跡出土遺物実測図22	S = 1/3	
第63図	カミヤ遺跡出土遺物実測図23	S = 1/6 (W176・ W178はS = 1/3)	
第64図	カミヤ遺跡出土遺物実測図24	S = 1/3	
第65図	カミヤ遺跡出土遺物実測図25	S = 1/3 (W194・ W195はS = 1/6)	
第66図	カミヤ遺跡出土遺物実測図26	S = 1/3 (W202 はS = 1/12)	
第67図	カミヤ遺跡出土遺物実測図27	S = 1/3 (W204・ W207・W211は S = 1/6)	
第68図	カミヤ遺跡出土遺物実測図28	S = 1/3 (W214・ W217は S = 1/6)	
第69図	カミヤ遺跡出土遺物実測図29	S = 1/3 (W231 はS = 1/6)	
第70図	カミヤ遺跡出土遺物実測図30	S = 1/6	
第71図	カミヤ遺跡出土遺物実測図31	S = 1/3	
第72図	カミヤ遺跡出土遺物実測図32	S = 1/3 (W256・ W259～262は S = 1/6)	
第73図	カミヤ遺跡出土遺物実測図33	S = 1/3 (W271・ W272は S = 1/6)	
第74図	カミヤ遺跡出土遺物実測図34	S = 1/6 (W281 はS = 1/12) S = 1/6 (W288 はS = 1/12)	
第75図	カミヤ遺跡出土遺物実測図35	S = 1/6 (W288 はS = 1/12)	
第76図	カミヤ遺跡出土遺物実測図36	S = 1/6 (W288 はS = 1/12)	

カミヤ遺跡 写真目次

写真図版表紙	カミヤ遺跡調査区透景 W→E
写真図版 1	上 カミヤ遺跡調査区透景 S→N 下 カミヤ遺跡調査区透景 SE→NW
写真図版 2	上 カミヤ遺跡調査区透景 W→E 下 カミヤ遺跡 I-B 区 調査区透景 S→N
写真図版 3	カミヤ遺跡調査区透景 N→S
写真図版 4	上 カミヤ遺跡 II 区 調査区透景 S→N 下 カミヤ遺跡 II 区 調査区からの透景 NE→SW
写真図版 5	上 カミヤ遺跡 II 区 調査区透景 S→N 下 I-A 区 完掘状況 NE→SW
写真図版 6	左上 I-A 区 A-A' 土層堆積状況 右上 I-A 区 A-A' 土層堆積状況 左中 I-A 区 A-A' 土層堆積状況 右中上 I-A 区 谷 I 遺物出土状況 右中下 I-A 区 谷 I 遺物出土状況 左下 I-A 区 谷 I 遺物出土状況 右下 I-A 区 谷 I 遺物出土状況
写真図版 7	上 I-A 区 集石遺構 01 検出状況 SW→NE 下 I-A 区 谷 I 全景 SW→NE
写真図版 8	上 I-A 区 谷 I 全景 W→E 下 I-A 区 遺構完掘状況透景 S→N
写真図版 9	上 I-B 区 遺構完掘状況 SE→NW 下 I-B 区 建物 01 堆元状況 EN→WS
写真図版 10	上 I-B 区 遺構完掘状況 S→N 下 I-B 区 加工段 02・03 完掘状況 SE→NW
写真図版 11	上 I-B 区 加工段 02・03 P2 半截状況 右上 I-B 区 加工段 02・03 P2 完掘状況 左中上 I-B 区 P188 完掘状況 右中上 I-B 区 P175 検出状況 左中下 I-B 区 P187 半截状況 右中下 I-B 区 P190 半截状況 左下 I-B 区 SK16 完掘状況 右下 I-B 区 P288 完掘状況
写真図版 12	左上 I-B 区 P280 検出状況 左中上 I-B 区 P280 完掘状況 右上 I-B 区 P290 検出状況 右中上 I-B 区 P290 完掘状況 左中下 I-B 区 P291 検出状況 左下 I-B 区 P291 完掘状況 右中下 I-B 区 P295 検出状況 右下 I-B 区 P295 完掘状況
写真図版 13	左上 I-B 区 P309 検出状況 右上 I-B 区 P309 完掘状況 中 I-B 区 調査区完掘透景 E→W

	左下 I-B 区 P281 検出状況
	右下 I-B 区 P281 完掘状況
写真図版 14	上 II 区 調査区完掘状況透景 EN→WS 下 II 区 調査区完掘状況透景 NE→SW
写真図版 15	上 II-D 区 完掘状況透景 NW→SE 下 II-D・E・F 区 完掘状況透景 NW→SE
写真図版 16	上 II-D 区 透景 WS→EN 下 II-D 区 完掘状況透景 NE→SW
写真図版 17	左上 II-D 区 溝 10 完掘状況 WS→EN 右上 II-D 区 集石遺構 02 土坑完掘状況 右中上 II-D 区 集石遺構 02 土坑半截状況 左中下 II-D 区 集石遺構 02 内遺物出土状況 右中下 II-D 区 集石遺構 02 検出状況 左下 II-D 区 集石遺構 02 検出状況 右下 II-D 区 P145 完掘状況
写真図版 18	左上 II-F 区 SK13 検出状況 右上 II-F 区 P64 検出状況 左中上 II-F 区 P32 検出状況 右中上 II-F 区 P34 検出状況 左中下 II-F 区 P61 検出状況 右中下 II-F 区 SK16 検出状況 左下 II-F 区 土坑 06 榎木の巻線検出状況 右下 II-F 区 土坑 06 半截状況
写真図版 19	上 II-E 区 遺構検出状況 SE→NW 下 II-E 区 土坑 06 完掘状況 SW→NE
写真図版 20	上 II-E 区 性格不明遺構 03 検出状況 SW→NE 下 II-E 区 性格不明遺構 03 調査状況
写真図版 21	上 II-E 区 性格不明遺構 03 調査状況 SW→NE 下 II-F 区 擾乱全景 SE→NW
写真図版 22	上 II-F 区 擾乱全景 NW→SE 下 II-F 区 遺構検出状況 ES→NW
写真図版 23	左上 II-F 区 溝 11 検出状況 W→E 右上 II-F 区 溝 11 完掘状況 W→E 左下 II-F 区 溝 04 検出状況 E→W 右中下 II-F 区 P9 検出状況 右下 II-F 区 P9 完掘状況
写真図版 24	上 II-F 区 土坑 01 半截状況 左中 II-F 区 土坑 01 検出状況 右中 II-F 区 土坑 01 遺物出土状況 左下 II-F 区 土坑 02 検出状況 右下 II-F 区 土坑 02 半截状況
写真図版 25	上 II-F 区 土坑 03 調査状況 左中 II-F 区 土坑 03 検出状況 右中 II-F 区 土坑 03 調査状況

	左下	Ⅱ-F区	P6 検出状況	
	右下	Ⅱ-F区	P5 半壁状況	
写真図版 26	上	Ⅱ-F区	集水遺構及び遺物出土状況 SE→NW	
	下	Ⅱ-F区	集水遺構先端状況 SE→NW	
写真図版 27	上	Ⅱ-F区	集水遺構遺景 SE→NW	
	下	Ⅱ-G区	遺構検出状況 E→W	
写真図版 28			カミヤ遺跡出土遺物 1	
写真図版 29			カミヤ遺跡出土遺物 2	
写真図版 30			カミヤ遺跡出土遺物 3	
写真図版 31			カミヤ遺跡出土遺物 4	
写真図版 32			カミヤ遺跡出土遺物 5	

写真図版 33	カミヤ遺跡出土遺物 6
写真図版 34	カミヤ遺跡出土遺物 7
写真図版 35	カミヤ遺跡出土遺物 8
写真図版 36	カミヤ遺跡出土遺物 9
写真図版 37	カミヤ遺跡出土遺物 10
写真図版 38	カミヤ遺跡出土遺物 11
写真図版 39	カミヤ遺跡出土遺物 12
写真図版 40	カミヤ遺跡出土遺物 13

羽代前田遺跡 表目次

第 1 表	谷計測表
第 2 表	跡土層計測表
第 3 表	炭化面計測表
第 4 表	土層計測表
第 5 表	溝計測表
第 6 表	ピット計測表
第 7 表	遺物観察表

第 8 表	木製品観察表
第 9 表	羽代前田遺跡出土遺物分類表
第 10 表	製鉄関連遺物観察表
第 11 表	各時代における層種一覧表
第 12 表	石器観察表
第 13 表	骨製品観察表
第 14 表	江津市中央部の道跡一覧表

羽代前田遺跡 グラフ目次

グラフ 1	調査区別遺物集計グラフ
グラフ 2	調査区別遺物構成比(百分率)

羽代前田遺跡 挿図目次

第 1 図	江津市中央部の道跡	S = 1/20,000
第 2 図	羽代前田遺跡周辺の状況	S = 1/5,000
第 3 図	羽代前田遺跡調査区・トレンチ配置図	S = 1/2,000
第 4 図	Ⅱ区調査区土層図	S = 1/40
第 5 図	調査区全体図	S = 1/200
第 6 図	トレンチ土層図 1	S = 1/60
第 7 図	トレンチ土層図 2	S = 1/60
第 8 図	I区調査区土層図 1	S = 1/60
第 9 図	I区調査区土層図 2	S = 1/60
第 10 図	I区調査区土層図 3	S = 1/60
第 11 図	I-A区 遺構配置図	S = 1/80
第 12 図	I-A区 土器層 01 実測図(上)	S = 1/20
	焼土層 実測図(下)	S = 1/20
第 13 図	I-A区 土器層 02 実測図	S = 1/20
第 14 図	I-B区 溝 01 実測図(上)	S = 1/40
	I-C区 土器層 実測図(下)	S = 1/80

第 15 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 1	S = 1/3
第 16 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 2	S = 1/3
第 17 図	羽代前田遺跡試掘調査出土遺物実測図 3	S = 1/3
第 18 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 1	S = 1/3
第 19 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 2	S = 1/3
第 20 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 3	S = 1/3
第 21 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 4	S = 1/3
第 22 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 5	S = 1/3
第 23 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 6	S = 1/3
第 24 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 7	S = 1/3
第 25 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 8	S = 1/3
第 26 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 9	S = 1/3 (191・192 は S = 1/6)
第 27 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 10	S = 1/3
第 28 図	羽代前田遺跡本調査出土遺物実測図 11	S = 1/3 (S1・S2 は S = 1/1)

羽代前田遺跡 写真目次

写真図版 1	上	羽代前田遺跡調査区透景 EN→WS	写真図版 10	上	I-B区 完備状況透景 E→W
	下	羽代前田遺跡調査区透景 E→W		下	I-B区・C区 完備状況透景 N→S
写真図版 2	上	羽代前田遺跡調査区透景 ES→WN	写真図版 11	左上	I-C区 6-G' 土層堆積状況 EN→WS
	下	羽代前田遺跡調査区透景 W→S		右上	I-C区 6-G' 土層堆積状況 SE→NW
写真図版 3	左上	トレンチ 3 土層堆積状況		右中	I-C区 遺物出土状況 EN→WS
	左中上	トレンチ 5 土層堆積状況		左中	I-C区 遺物出土状況 NW→SE
	右上	トレンチ 24 土層堆積状況		左下	I-C区 土器層検出状況 N→S
	左中下	トレンチ 21 土層堆積状況		右下	I-C区 遺物出土状況 NE→SW
	左下	トレンチ 23 土層堆積状況	写真図版 12	上	I-C区 完備状況透景 EN→WS
	右中下	II区トレンチ 土層堆積状況		左中	I-C区 Pit1 検出状況
	右下	II区トレンチ 遺物出土状況		左下	I-C区 Pit1 半截状況
写真図版 4	上	I-A区 透景 SE→NW		右中	I-C区 Pit2 検出状況
	下	I-A区 透景 NW→ES		右下	I-C区 Pit2 半截状況
写真図版 5	左上	I-A区 焼土面検出状況 SE→NW	写真図版 13		羽代前田遺跡出土遺物 1
	右上	I-A区 焼土面検出状況 SW→NE	写真図版 14		羽代前田遺跡出土遺物 2
	左中	I-A区 焼土面炭化物検出状況 SW→NE	写真図版 15		羽代前田遺跡出土遺物 3
	右中	I-A区 焼土面完備状況 SW→NE	写真図版 16		羽代前田遺跡出土遺物 4
	左下	I-A区 焼土面半截状況	写真図版 17		羽代前田遺跡出土遺物 5
	右下	I-A区 遺物出土状況	写真図版 18		羽代前田遺跡出土遺物 6
写真図版 6	左上	I-A区 土器層 01 検出状況	写真図版 19		羽代前田遺跡出土遺物 7
	右上	I-A区 土器層 01 検出状況	写真図版 20		羽代前田遺跡出土遺物 8
	中	I-A区 土器層 02 検出状況	写真図版 21		羽代前田遺跡出土遺物 9
	左下	I-A区 土器層 02 出土状況	写真図版 22		羽代前田遺跡出土遺物 10
	右下	I-A区 土器層 02 検出状況	写真図版 23		羽代前田遺跡出土遺物 11
写真図版 7	上	I-A区 完備状況透景 NE→SW	写真図版 24		羽代前田遺跡出土遺物 12
	下	I-A区 完備状況全景 NE→SW	写真図版 25		羽代前田遺跡出土遺物 13
写真図版 8	上	I-A区 完備状況全景 ES→WN			
	下	I-A区 完備状況透景 EN→WS			
写真図版 9	上	I-B区 透景 ES→WN			
	左中	I-B区北側 土層堆積状況 SE→NW			
	右中	I-B区北側 土層堆積状況 SE→NW			
	左下	I-B区 溝 01 検出状況 EN→WS			
	右下	I-B区 溝 01 完備状況 SW→NE			

第1章 調査の経緯

中山間総合整備事業に先立ち、島根県浜田農林振興センター（以下浜田農振）は平成14年、江津市教育委員会（以下市教委）へ市内の事業対象地区16箇所に対し埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。これを受けて市教委は平成14年3月から平成15年12月27日まで随時分布調査及び試掘調査を行いながら該当する遺跡について浜田農振と文化財保護の調整に入った。平成16年4月2日浜田農振と江津市は協定を締結し、平成16年4月22日付契約を交わしカミヤ遺跡の調査に入った。翌平成17年度も引き続きカミヤ遺跡の調査を行い、平成17年12月29日まで現場調査を行った。調査の途中で事業箇所の追加が発生したため、分布調査及び試掘調査を行った結果、羽代前田遺跡が取り扱い協議の対象となり、平成18年度に羽代前田遺跡の調査を行うこととなった。当初1月から3月をカミヤ遺跡の整理期間に充てていたが、浜田農振より計画変更の依頼があり、協議の結果平成18年1月6日付け契約を結び、羽代前田遺跡の調査を開始した。平成18年度は引き続き前田遺跡の調査を行っていたが、平成18年9月4日島根県浜田県土整備事務所（以下浜田県土：旧浜田農振）から、事業計画変更による遺跡の全面盛土を希望する協議を受けた。盛土保存となる調査区に対する調査費用については、国庫補助事業（受益者負担分）の対称から除外されるため、江津市が受益者負担分を負担することで平成18年9月4日付け変更契約を行い、調査中の遺跡は盛土保存を前提とする調査に切り替え、水路以外の調査区は盛土保存となった。これを受けて平成19年1月10日付で国庫補助事業の計画変更申請を行い、続いて平成19年2月16日に島根県補助事業の計画変更申請を行い、平成19年3月26日まで調査を行った。

平成19年度はカミヤ遺跡及び羽代前田遺跡の整理作業及び報告書作成を行った。

調査中にカミヤ遺跡で2回、羽代前田遺跡で1回の現地説明会を開催し、その他カミヤ遺跡では国家公務員新任研修受け入れや、美土里ネット協賛で地元小学校の発掘体験などを行い、文化財保護思想の普及啓発に努めた。また、広く市民へ文化財保護思想の普及啓発を行うため、調査結果は随時（年間20件程度）江津市出前講座により活用している。

第2章 カミヤ遺跡・羽代前田遺跡の位置と歴史的環境

江津市は、日本海側の沿岸部に位置し、中国山地より流れ下る江の川により中央で分断されている。市域は準平原の前地斜面で形成されているため、高い山はあまり存在せず、比較的高さの整った低い山並みが連なっている。日本海の沿岸部では、海浜部から丘陵までクロスナ層を挟んだ新・旧砂丘に覆われているが、山間部は河川により形成された細く入り組んだ谷と急峻な山並みが連続し、狭い盆地を繋いでいる。

【カミヤ遺跡】（カミヤ遺跡：第1図・第2図）

カミヤ遺跡は加志岐川により形成された狭隘な山谷の奥部に確認された遺跡で、周辺には他の遺跡がほとんど存在せず孤立した集落を形成しているのが特徴である。近世には遺跡に隣接して近世浜田二次往還が通っており、浜田－有福－跡市－川戸の流通経路となっていた。

【羽代前山遺跡】(羽代前山遺跡：第1図・第2図)

羽代前山遺跡は都野津平野の周辺地域に当たる遺跡で、錯綜する谷の奥部に展開する挿鉢状のやや急斜面に立地し、周囲に古墳時代の遺跡が散在する。谷の下方面では欄干押込遺跡ほか、古墳時代の須恵器窯跡が確認されており、谷伝いに久本奥窯跡まで行けるため、この辺りの谷が窯業生産の場所として活用されていたことが考えられる。

第3章 カミヤ遺跡の調査

第1節 カミヤ遺跡の立地 (第2図・第3図)

カミヤ遺跡は、丘陵中腹の脊せ尾根と両側の谷を埋めた緩やかな斜面に展開しており、眼下に広がる小規模な盆地との比高差はおよそ10mを測るが、境界が崖地となっている。その為、カミヤ遺跡は盆地と隔離された高所に立地しているような印象を受ける。

第2節 調査区について

1. 調査区の設定 (第3図～第5図)

調査区を大きくI区(平成16年度調査)・II区(平成17年度調査)と2分割し、それぞれ調査前の地形に合わせてI-A～C区、II-D～G区とした。調査前の土地は全て近世以降に水田として活用されており、調査中はそれぞれの小区分をさらに水田一枚分の区画に沿って細分割していたが、ここでの報告は割愛する。

II-G区は盛土計画部分であったが、北側に隣接するII-D区の浅い層で遺構が確認されたため、確認調査を行った。また、II-D・E・F区は凡そ半分が盛土計画となっているが、耕作土を一度除去するため、盛土計画箇所は耕作土以下について確認調査を行い、検出した遺構のプランを記録した。

2. 調査区の概要

I-A区 (第6図・第9図)

カミヤ遺跡の西端にある谷地形に当たり、尾根に沿って北東から南西に軸を取り南西へ下っている。谷は調査区の外まで延びており、加志岐川に連結しているようだ。この谷の下層には奈良時代から中世までの遺物が堆積しており、杭列や木製品を廃棄した様子が確認出来た。また、中世の製鉄関連遺物が多量に含まれていることから、付近で製鉄を行っていた事が想定される。谷は中世まである程度土砂の堆積を繰り返していたが、近世までに谷は完全に埋まり、調査前は水田として活用されていた。調査区の南半分は盛土計画の為、遺構の状況を確認する為に試掘調査を行った。

I-B区 (第6図・第17図)

谷から東へ上る丘陵尾根部分を指す。尾根筋の上方は赤土と礫、岩盤からなる土質で傾斜度が強く、近世の棚田によりかなりの部分で削平を受けていた。削平を免れた場所では簡単な加工段や径20～40cmほどの柱穴などがまばらに存在する。尾根は下へ向かうにつれ緩斜面となっており、中腹では建物跡が1棟確認出来た。尾根筋下方の土質は、岩盤をベースとした粘土質の土層が堆積しているため水捌けが悪いが、建物跡はこの辺りに集中している。下方の柱穴には径50～80cmのやや大型のものも含まれてくる。

I-C区 (第7図・第8図)

I-B区から東へ回り込んだ谷地形の頂部にあたる。試掘調査の後で事業対象から外れたが、調査時に柱穴が確認出来た。現在は盛土が施されて平坦な水田になっているが、I-C区の旧地形は緩やかな緩斜面として完全に残っていたことが確認出来た。

II-D区 (第32図・第33図)

I-B区の尾根を東に回り込んだ谷地形からなり、I-C区からの緩斜面が続いていたようだ。II-D区の北側半分は近世の削平を受けており、近世以前の遺構は確認出来なかったが、南側半分と北東側は盛土が施されており、旧地形が残っていた。削平による平坦面のうち、岩盤質の西側半分では少数の柱穴が確認されたに過ぎないが、粘土質の地盤を持つ東側半分では多数の柱穴が尾根と共に確認でき、削平当初は住居跡として活用されていた様子が窺える。II-D区西側は一段落ち込んでおり、I-B区下方と隣接している。粘土質の地盤に多数の柱穴が穿たれている。

II-E区 (第28図・第32図・第33図)

II-D区南側半分からの緩斜面が続いており、遺構は少なく、明確な建物は確認出来なかったが遺物は奈良時代から平安時代のものが一定量確認出来た。西側は一段下がっており、I-B区下方、II-D区西側と隣接している。盛土保存の対象地である。遺構面精査の結果、粘土質の地盤に柱穴が確認出来た。

II-F区 (第28図・第32図・第33図)

II-E区の南側に隣接し、西側、中央部、東側で異なる特長を持つ。西側は、II-E区西側から更に一段下がった平坦地で、盛土保存の為の確認調査を行っている。大まかに2条の溝により区画された範囲に沿って、牛の蹄跡による擾乱が無数に確認できる。その他土坑墓と、数棟の建物跡が確認出来た。中央部は揺鉢状に窪み、集水遺構には木製品が大量に投棄されていた。東側は近世の作田により削平を受けた平地地が広がる岩盤質の地盤で、西側からの溝の続きがかろうじて確認出来る程度であった。

II-G区 (第28図)

II-F区西側の南に隣接する平坦面で、盛土保存の為の確認調査を行った。大型の柱穴を伴う建物跡や溝が確認出来た。

第3節 調査の結果1 (遺構)

縄文時代の石器が多く確認されたが、明確な遺構は確認出来なかった。また、弥生時代から古墳時代を通して遺物はほとんど確認されておらず、当該時期の遺構も確認されなかった。カミヤ遺跡では、奈良時代から近世までの遺物が多く出土しており、遺構もこの時期のものが大半を占めている。I-A区の谷は厳密に言うと自然地形だが、一部人為的な設備を伴っているので遺構として報告する。

1. I-A区

谷 (第5図・第9図～第14図)

谷は調査区北西端では浅くなっており、若下南東寄りにカーブした後で深度を増しながら南西へ下っていく。上砂の堆積状況は、谷の底辺では岩盤上に灰色系の粘質土と青灰色系砂礫層が互層状に堆積し、その上方では茶色系の土砂が短期間で大量に堆積しており、間欠的な流水を繰り返した後に土石流や人工的な造成が行われた可能性が考えられる。

谷の埋土から縄文時代の石器が50点程度確認されたが、土器は1点しか確認出来なかった。石器の石材は黒曜石が多く、次にサヌカイトが多い。石鏃や小型刃物類、小型石器の木製品が多く、核が確認されたので、谷周辺で石器を製作し、主に狩猟を中心とした季節的な活動の場として活用されていたと推定できる。その他各種石斧や石錘などが出土していることから、ある程度の採取・漁撈活動も行われていたようだ。その後、遺物は奈良時代後期から出現増加し、近世までほぼ連続して遺物が確認できる。奈良時代から中世までの遺物は、主に互層状堆積中からの出土だが、流水の為、層序が乱れており、層位ごとの遺物取上げは不可能だった。その他、互層状堆積での出土遺物には製鉄関連遺物と木製品がある。製鉄関連遺物の時期決定を行った結果、鎌倉時代から室町時代前半を示す結果が出た(第5章参照)。これは、互層状堆積中の陶磁器と比べても整合が取れており、層の時期決定根拠とする。互層状堆積中の木製品溜りの時期についても、同様とした。

互層状堆積は中世を以って時期固定される。その後は、上部で茶色系土砂の堆積が始まる。茶色系土砂中の遺物には、中世から近世までの時期幅が認められる。互層状堆積の上で谷底を掘き止めるような配置の集石遺構01が確認出来た。

集石中に鉄屑を含んでいたため時期は中世以降と思われる。集石遺構01より谷下方で杭列が検出出来た(杭列01・02ほか)。杭は谷の両肩部で谷筋に並行して互層状堆積の上から打ち込まれており、両肩部の杭列間の幅は約4mを測る。集石遺構01と杭列は同じ層位に対して働きかけており、関連した遺構の可能性が考えられる。

木製品溜り (第10図～第14図)

木製品は谷の互層状堆積中で万遍無く出土していたが、大きく3箇所と比較的まとまって検出出来た。まず調査区西端上方で南北軸を取って下っていた谷が南西に転換する屈曲点で、右側に開いた窪みに木製品が漂着したような円形に纏まった堆積状況を示している(第12図)。土な組成は用途不明の棒状・板状製品及び木製品、杭などで、廃棄されたような状況を示す。

次に谷が下り、谷幅が極端に狭くなる辺りで、纏まった堆積が見られる(第13図)。ここの主な

組成も、棒状・板状木製品や杭であるが、組箱や曲げ物、漆器碗などが目に付く。杭材などの堆積状況を見ると、谷筋に対し直交しているものが多く、滞水中での堆積と考えられる。ここからは鹿の角も出土しているが、自然のものと思われる。漆器碗や匙状木製品はここより少し上流で纏まって出土している。

谷が開放される辺りで杭材がまばらに出土している（第14図）。杭材は谷の傾斜に対し並行して堆積しているため、流水の中で堆積したようだ。

流路跡（第11図）

五層状堆積層が安定した後に、自然流路が出来ていた。流路の埋土は黄色系の真砂土で、地山十と思われるが、焼土と炭を若干含んでいた。五層状堆積層の上部に堆積している茶色系の土砂が堆積する前に埋没しているので、遺構の時期は中世以降近世以前となるが、山上遺物には龍泉窯系碗・D類と思われる器種があるため、中世後半から近世までの遺構としておく。

集石遺構01（第14図・第15図）

集石の配置方法は、谷を横断する軸に対し、まず浅い土坑を掘り込み、次に大型の石を土坑中に一列に配置し、大型の石で裏込めを施している。谷上方に対し中型の石を充填し、谷下方に対し小型の石を充填している。集石の高さは低く、上部に茶色系粘質土の腐土を行っていた可能性も考えられるが、調査では確認できなかった。集石に隣接し、丸木杭1本と添え杭1本が打ち込まれていたが、用途は不明である。集石の組み方に、谷上方からの力を受け止める意思が認められ、土砂の固定を行った可能性が考えられるが推察の域を出ない。

杭列01・02（第14図・第15図）

谷の両岸部に打ち込まれている杭列の内、左岸は杭の流出や倒壊が多く比較的残りの良い右岸の杭列を凶化した。使用されている杭は板状の大型品と中型の丸木杭で構成されており、50～60cm間隔で整然と打ち込まれている。土砂の固定がその目的と考えられるが、横板など上留めの為の施設が確認出来なかったため、土嚢を使用したか、若しくは土砂の固定以外の用途として使用した可能性がある。

焼土範囲（第10図）

谷の北西端の耕作上直下で、焼上の範囲を検出した。出土遺物は、五徳1、陶器18、染付含め磁器9、石州瓦2があり、時期は幕末から明治時代と思われる。一緒に吹き硝子小容器1点が出土している。硝子は無色透明なため、明治以降の製品と思われ、他の遺物と時期にずれが生じている。おそらく無用となった古い陶磁器を後世に一括廃棄したものと思われる。

加工段01（第16図）

丘陵から谷へ下る斜面の中腹を削平した加工段が検出された。地方は等高線に並行して溝を掘り込み、側面は緩やかに外へ開いている。検出された床面は微傾斜を取っており、そこから不規則で小規模なピットが検出された。段の性格は不明だが、全体的に簡素な造りをしており、一時的な施

設を伺わせる。時期は不明である。

2. I-B区 (第17図・第18図・第21図)

建物02・03は共にII-D区西側にあたるが、I-B区の建物と同一面上の遺構の為、ここで報告する。

加工段02・03 (第17図・第19図)

後述する建物01付近で検出された加工段であるが、加工段03の肩部で連続する浅いピットが検出された。加工段03は緩やかに西から東へかけて上がっており、坂道の可能性が考えられる。

性格不明遺構01・02 (第17図・第20図)

浅い土坑に礫を充填している遺構だが、性格は不明である。性格不明遺構02は同じ埋土が充填されているピットの付属施設と考えられる。柱を埋ける為の地盤補強であろうか。

性格不明遺構01から陶磁器が2点出土している。産地不明だが見込みに点状のハリ跡が確認された為、時期は近世と思われる。

建物について

個別の建物について述べる前に建物の時期について考察しておく。

カミヤ遺跡で検出された柱穴から数棟の掘立柱建物を復元したが、大まかに東西軸を取る一群と、東西軸から南へ軸を振る一群に分かれる。

粘土質の地盤に建てられた建物は柱根の残存するものが多く、加工方法や外皮の有無などが確認出来た。外皮を残す柱は多くは無いが確実に存在している。今回の調査では柱根底部の加工方法に一定の法則が認められたので、I型・II型・III型の3種類に分類を試みた。それぞれの特長は以下のとおりである。

I型・・・ノミでハツって接地面を平坦に造り出している。接地面積が広く、柱を設置する場合は一番安定すると思われる。W282・283など。

II型・・・向き合った2方向から内側へ楔状に削り込み整形している。先端の接地面積は狭く、固い地盤では不安定だが、粘土質の柱穴底へ杭の様に打ち込んでしまえば加工面全体が接地することになり、I型より接地面積を広く取れるうえ、横からの力にもある程度対応できるので安定すると思われる。しかし、当時そこまで考えて加工したものは疑念が残る。W277など。

III型・・・I型より一手間多い加工方法で、先に外周をある程度内側に削り込み、その後平坦面を造り出している。接地面積はやや狭いが、その分平坦面を造りだす手間が少なく済む。W287・288など。

1棟の建物で同型の加工法が採られている事から、ある程度形式的に連続すると思われるが、1棟の建物で3タイプが併存している物も見受けられる。建物の復元に誤りが無ければ設置環境、若しくは同時に使用される材の中で何らかの理由により加工方法が選択されている可能性が有るが、今回の調査では明らかに出来なかった。

建物01 (第22図)

東西に軸を取る2間×3間の側柱建物で、柱穴規模は50cm程、床面積は約30㎡ほどである。建物の南側は近世の水田による削平を受けており、柱穴の下場がかりうじて確認された。時期は中世と思われる。

建物02・03 (第23図)

東西軸を携ら1間以上×2間以上の柱穴配置を取る建物2棟を復元した。柱穴規模は50～70cm程、建て軸は建物01と同じで、I-B区の他の建物も概ね東西軸で建てられている。この2棟は平面上では重複しており、建替えの可能性を持つが、時期的な前後関係は押さえられなかった。時期はおそらく中世と思われる。建物03のP1でII型の柱根が確認された。

建物04 (第24図)

東西に軸を取る1間以上×2間以上の側中建物で、P4から染付けの小片が1点出土しているが、詳細は不明だった。時期は中世後半から近世と思われる。P1でII型の柱根が残っていた。

建物05 (第24図)

東西から南へ軸を振る1間×2間の建物で、P3にI型の柱根を持つ。P3から、口縁が外反する磁器皿の小片1点が出土したが詳細は不明である。時期は中世以降としたい。

建物06 (第25図)

南北軸から若干西へ軸を振る建物1棟を復元した。南北軸を基準にした建物はこれだけで、柱穴配置も他の建物とは若干異なる。遺構の時期等不明である。

建物07 (第25図)

東西軸に乗る1間×2間の建物を復元した。P3から古墳時代後期から奈良時代と思われる土師器片1点が出土している。

建物08 (第26図)

東西へ軸を取る1間×2間の側柱建物だが、南へ1間延びる2間×2間の総柱建物になる可能性が有る。P2・3・4・7でI型の柱根を持つ。

建物09 (第26図)

東西へ軸を取る1間×2間以上の側柱建物で、P1・2はIII型の、P3はI型の柱根を持つ。P2の

柱根には樹皮が残っていた。

建物 10 (第 27 図)

東西軸を取る 2 間×3 間の側柱建物で、図化されていないが、P2 にⅢ型の柱根を持つ。

建物 11 (第 27 図)

東西軸を取る 1 間×2 間の側柱建物で、P2 にⅢ型の柱根を持つ。P3 から乳白色の軸が掛かった磁器小片 1 点が出土した。器種及び時期の詳細は不明であるが、中世から近世のものと思われる。

3. Ⅱ-E 区西側 (第 28 図・第 30 図)

Ⅱ-E 区西側は確認調査のみ、遺構精査が不充分だった。本来は別の柱穴配置や遺構形態を取っている可能性を否定できないが現状を報告する。

柱列 01 (第 30 図)

東西に軸を取り、等高線に沿って並ぶ柱列 01 を復元した。柱穴の規模は 60～80cm ほどで、柱間距離は約 2m ある。大型の建物の可能性が高いが建物として復元できなかった為、柱列として報告する。

建物 12 (第 30 図)

東西に軸を取る 1 間×2 間以上の柱穴配置を持つ建物を復元した。柱穴規模は約 20cm ほどで小型の建物と思われる。

建物 13 (第 30 図)

東西に軸を取る 1 間×2 間の建物で、柱穴規模は約 40cm を測る中型の建物と思われる。建物 12・13 は今回の報告では建物としたが、共に高所にあたる北側の柱列を検出出来なかった。

溝 01 (第 28 図)

直線状を呈す溝 01 を検出した。溝 01 の性格は不明であるが、暗渠の可能性はある。その他の溝状遺構は現水田の暗渠である。

4. Ⅱ-F 区西側 (第 28 図・第 29 図)

土坑 01 (第 28 図・第 29 図)

南北に軸を取る土坑 1 基が確認されたので、遺構の性格を確認する為に調査を行った。土坑の平面形は長方形を呈し、長軸での底部長さは 120cm ほどである。底部北端で十師器坏 1 個体が検出された。おそらく墓坑と思われる。十師器坏を伴う墓坑は埋葬遺跡で確認されており、北頭屈曲木棺直葬であった。この土坑も同様の埋葬形体を取っていると思われる。土坑の時期は十師器坏の形式

から中世であるが、胎土の色調が暗茶色を呈している為、中世後期の可能性が高い。確認調査のため遺物は現地にて埋め戻され保存されている。

土坑 02・03 (第 28 図・第 29 図)

東西に軸を取る浅い土坑で、今回の調査で 5 基確認され、そのうち 2 基について確認調査を行った。長軸での底部長さは両者とも 90cm ほどである。土坑 03 は土坑中に 95 × 40cm の箱型に板材を組んでおり、同様の板で蓋をされている。土坑 02 の土層観察で木板の立ち上がりが確認されたため、この土坑中に残る木質も土坑 03 と同様の箱だったと考えられる。おそらく小型の木棺墓と思われる。土坑 02 から、瓦質土器が出土している。時期は中世後半から近世までと思われる。土坑 03 の時期は、溝 04 との切り合い関係から溝より古い事は確実だが、詳細は不明である。おそらく土坑 02 と同様、中世頃ではないかと考える。

溝 03・04 (第 28 図)

東西に軸を取りながら併走する 1 組の溝を確認した。幅は 6m を測る。溝 03 は途中から屈曲して南東に軸をとり、溝 04 を切って延びているため、時期的には溝 03 の方が新しい。また、溝 04 は土坑 03 を切っているため、溝 04 の時期は土坑 03 より新しく、近世頃と思われる。調査当初は近世浜山二次往還が付近を通っていた為、付け替え前の道路状遺構の可能性を考慮していたが、根拠が弱く、現時点では性格不明とする。現在確認されている浜山三次往還は現県道とほぼ同じ場所を通っていたようだが、途中で一旦カミヤ遺跡の南端崖地中腹に上がり、300m ほど進んだ後でまた現県道位置まで降りている。調査区外南東に細長い畑があるが、これが往還道の痕跡である。

攪乱 01・02 (第 28 図網掛け部分)

粘土質の土層上に偶蹄目の足跡が密集して検出されたので攪乱として調査した。おそらく牛の足跡と思われる。攪乱の埋土は淡灰色粘質土で、水田の耕作土と思われる。攪乱は 2 種類あり、攪乱 02 は土坑 01 及び溝 04 の上でも検出されたので、中世以降のものである。標高 134m 付近の土質は同じで、調査前の水田もこの辺りに区切りは無かったので、この水田が出来る前の行動範囲が攪乱 02 の範囲で規制されていたことが分る。攪乱 01 の行動範囲はほぼ標高 134.7m より低い所で規制されているのが分る。行動が規制されている理由は不明だが、川水田の形状が反映されている可能性がある。

溝 02 (第 28 図)

溝 02 は東西に軸を取っており、裾が広がっている。排水施設の可能性があるが詳細は不明である。出土遺物に奈良時代後半の須恵器坏などがあるが、これを以って直ちに遺構の時期とするには若干根拠が弱い。

5. II-G区 (第28図・第31図)

建物14 (第31図)

東西軸から若干南へ軸を振る中抜け側柱建物で、柱穴規模は40～80cmほどである。建物01とほぼ同等の規模を有し、近い時期の可能性がある。土坑02を始めとする東西軸に乗る上坑と隣接しながらもII-G区の柱穴群は全て土坑群より南に展開しており、建物が建っていた時期には上坑を認識していた可能性が高い。確認調査のため明確な時期は不明だが、土坑と同時期の中世後半以降の建物と思われる。

建物15 (第31図)

南北軸を取り、建物14と重複して建つ側柱建物で、柱穴規模は40～80cmを測る。

P2は、建物14のP4にあたり、建物15のP1がP2を切り込んでいるので、建物15の方が新しい。

溝05ほか溝状遺構 (第28図)

溝04と並行して通る溝で、溝間の幅は2mを測る。現存している近世浜田三次往還の道幅が2m前後なので、こちらのセットの方が溝03・04より旧往還道としての可能性は高いが、遺構の残存状態が悪いことと、確認調査のため情報に乏しく、何れにしる確証は無い。この他にもII-G区から数条の溝が認められたが、いずれも性格は不明である。

4. II-D区・E区・F区 (第32図・第33図)

集水遺構 (第34図)

II-F区中央で検出された遺構で、遺構埋土の上から近世の造成を受けており、水田になっていた。旧地形は播鉢状に窪む谷地形で、集水遺構は谷の集点にあたるため、雨水などはほとんどここに集まっていたと考えられる。ここからは、木製品・未製品等120点程度が集中して出土しているが製品は少なく、ほとんどが木材加工に伴う残材であった。遺構の時期は近世以前と思われるが、土器の出土が無いので、詳細な時期の判断は難しい。

集石遺構02 (第35図)

II-D区の谷地形底部で谷筋に直交して東西に軸を取る集石遺構を検出した。長径1.4mほどの上坑中に石や礫が積み上げられており、I-A区の谷で検出された集石遺構01と良く似ているが、性格は不明である。出土遺物の染付は高台外面に絵付けを施し、端部の軸を欠き取っている。遺構の設置時期は近世と思われる。

土坑04 (第35図)

東西に軸を持ち、倒卵形の平面を持つ長径2mほどの上坑を1基検出した。上坑中には径80cmほどの石が礫数点と共に落ち込んでいる。棒状の木製品1点を伴う。性格時期共に不明である。

土坑 05 (第 37 図)

Ⅱ-E 区で検出された不整形の大型土坑で、長径が 8m 以上ある。2 基の土坑を連結したような造りになっている。遺物は山上しておらず性格及び時期は不明である。

土坑 06 (第 37 図)

Ⅱ-E 区で確認された直径 1.3m ほどの円形土坑で、径 80cm ほどの板木の蓋が土坑中に落ち込んでいたのが確認できる。蓋の上には藁が置いてあり、蓋と一緒に落ち込んでいたようだ。貯蔵穴若しくは土坑墓と思われるが時期は不明である。

性格不明遺構 03 (第 37 図)

プラン検出当初はきれいな隅丸五角形を呈していたため、弥生時代末期の堅穴住居を想定して調査に入ったが、床面施設は何も検出されず不整形で浅い落ち込みとなった。性格時期共に不明である。

溝 06 (第 36 図)

東西軸を取る浅い溝を確認したが、性格時期共に不明である。この辺りは近世の水田により削平を受けている為、近世以降の可能性が有る。

溝 07・08 (第 36 図)

等高線に沿って東西に軸を取る浅い溝で、Ⅰ-B 区の加工段 02・03 から延びている浅い段に繋がると思われる。おそらく集落内の道と思われる。溝 06 で南北軸を取る折れ曲がり部分は、道の分岐と思われる。時期は不明である。

溝 09・10 (第 36 図)

東西軸から若干北に軸を振る溝で、共に一連の遺構と思われる。調査中は溝と認識していたが、加工段の可能性もある。埋土から奈良時代後期の遺物が纏まって出土している為、遺構廃棄時期は奈良時代後期頃と思われる。

溝 11 (第 37 図)

Ⅱ-F 区溝 04 の延長線上に位置する浅い溝で、当初旧往還道の一部の可能性を持って調査を行っていたが、根拠が弱く性格時期共に不明とする。

Ⅱ-F 区柱列 02 (第 39 図)

集水遺構に沿って柱穴列が確認された。柱穴間距離は 2m 程、柱穴径は 50cm 程度で柱根が残っている。P2・3 で外皮の残る I 型の柱根を確認した。それぞれの柱穴内からは、土師器、須恵器や鉄滓が確認出来た。時期は奈良時代後期前後と思われる。

建物 16 (第 39 図)

東西に軸を取る 1 間×2 間の中抜け側中建物で、中央の柱穴にはレキが充填されている。P1 で

Ⅲ型、P2・8でⅠ型、P5でⅡ型の柱根型式を持っている。

建物17 (第40図)

東西に軸を取る1間×2間の建物で、柱穴規模は60～80cmほどあり、P3からⅢ型の柱根が確認された。P4から須恵器が確認されている。

建物18 (第40図)

東西に軸を取る2間以上×2間と思われる建物で、P4から中世上師器坏が確認されている。建物の南側が延びて南北軸を取る建物になる可能性を残す。

建物19 (第32図)

N-98.9°-Eに軸を取る2間×2間の総柱建物で、梁行き4.14m、桁行き3.15mを測る。柱穴規模は30～40cmほどと小形である。柱間距離は梁行きで2m程、桁行きは北側1.7m・南側1.5mほどの2種類を測る。床面積は130㎡ほどになる。柱穴からは古式の土師器細片が出上しているが、詳細な時期は不明である。おそらく奈良時代頃の建物と思われる。

第4節 調査の結果2 (遺物)

縄文時代から古墳時代 (第41図)

1～3は縄文時代から弥生時代の遺物で、古墳時代の遺物は確認出来なかった。1は縄文土器鉢と思われる、浅い沈線が廻っている。2は弥生土器口縁で、端部を掴み出しているが器種は不明である。胎土から末期頃の遺物と思われる。3は弥生土器を転用した円盤型土製品と思われる。薄手の壺若しくは甕胴部の内面を打ち欠いて円形に整形している。時期は末期と思われる。4・5は時期不明の土器容器口縁である。胎土は縄文土器のようで細かい砂粒を含む黒色を呈している。器形は土師器蓮口縁の様になっているが、器壁がかなり厚く土師器の範疇には無い。

奈良時代から平安時代

土師器 (第41図)

6～18は奈良時代から平安時代の甕と思われる。口縁は外反し、頸部との境界が曖昧で、胴部の張りは弱く、ほぼ真っ直ぐ底部へ向かっていく。14・15・17・18は口縁端部を掴み出したり、面を持たせたりしている。

土鉢 (第41図)

19～35は管状土鉢である。大きさが3種類程度、形状で3種類程度に分かれている。大きさは19～30を小型品と考えているが、将来的に2分割出来そうである。中型品として31・32を考えている。34・35は大型品としている。形状では、19などの細形、22などの扁形、34などの依形を確認している。時期は奈良から平安頃としているが、中世の可能性も残している。

須恵器 (第 42 図～第 45 図)

36～54 は須恵器蓋で、須恵器坏に伴うものである。握みの確認できる物は全て輪状握みで、ボタン状握みや、握み無しは見られなかった。ただし、天井部が欠けているものについてはその可能性を残している。44 は回転糸切り痕を留める。47・48・54 は体部の屈曲が弱いもの、若しくは体部が直線的に開くものである。47・48 は端部に丸みを持たせ内側に折り返している。54 の端部は外側へ開いている。49 は高い器高と狭い天井部をもつ。55 は高台付き皿で底部に回転糸切り痕を残している。

56～74 は高台付き杯だが、用途として碗や鉢になりうる物も含まれている。底部調整が判るものに関しては、68 以外は回転ヘラ切り調整であるが、中にはナデ調整を施しているものが含まれている可能性がある。同形式で容量の違うものが有りそうだが、今回は資料数が少ない為考察は控える。焼成は若干甘い物も含まれているが、まったくの焼成不良は無い。56～58 は口径と底径の差が小さく、体部の開きが直立傾向にある。59 は高台が外側に付き、体部は真っ直ぐ外傾している。58 は高台が完全に外側に付いている。58・59 の器形は碗としても良いかと思う。60 は低い器高を持ち、口縁端部は先細り外反している。華奢な高台がやや内側に付く。今回出土した高台付き坏の中では古い部類に入ると思われる。59・61 の高台タタミ付きはナデにより若干歪んでいる。63 は高台の外側が体部と一体化している。高台が外側に付く直前のもと思われる。68 は底部に回転糸切り調整を施し、高い高台が付く。74 は体部が湾曲しており、口縁端部は握み出されて内側に面を持つ。高台端部は先細り内側に段を有する。

75～94 は無高台の坏である。焼成不良が 7 割以上を占め、焼成の甘いものを含めると 9 割ほどに達する。底部調整が確認できるものは回転ヘラ切りだが、切り離し後ナデしているものが含まれている可能性がある。また調整が不明なものも数点ある。75 は器高が高く体部は湾曲傾向を示しながらやや外側に開く。76 は底部付近にヘラケズリ調整を施している。80 は直線的に体部が開き、口縁付近で若干外反気味に握み出している。82 は低い器高を持ち、体部中ほどがナデにより窪んでいる。86 は低い器高と大きな口径を持ち扁平な印象を受ける。

95～101 は坏口縁である。97・99 は体部上方にナデによる窪みを持つ。100 は端部を鋭く握み出している。101 の口縁は直立傾向が強く、坏若しくは壺の口縁と思われる。

102～108 は無高台の坏だが、底部の切り離しに回転糸切りを用いている。ロクロは右 (R) 回転である。102 は若干湾曲傾向を示す体部を持ち、底部切り離しに回転糸切りを用いている。焼成は良好である。103～105 は碗を模倣したと思われる坏で、125 のような土師器坏の祖形になると思われる。

109～116・118・119 は壺である。109 の口縁端部は上方に握み出されている。111・114・115・116 は肩が丸い壺胴部で 112 のような肩部が屈曲するものも見られる。113 は高台の付く小型の壺である。118・119 は大型の壺底部で、底部付近に横方向のヘラケズリを残す。117・120・121 は壺である。117 は直立気味に外反する単純口縁で、端部に面を持ち浅い沈線を廻らせている。122・123 は壺口縁と思われるが、123 は伏せた状態で焼成されていることが自然釉の状態を確認されたため、古八幡付近遺跡で報告されているような器台になる可能性を残す。口縁端部は内側に面を持ち、外面に 3 条の沈線で区画された波状文が施されている。

中世から近世（第45図～第46図）

124～132は土師器で、124は高台の付く坏である。125・129～132は無高台の坏で、底部切り離しに回転糸切りを用いている。128は柱状高台の坏と思われる。126・127は坏口縁部である。127は内面に赤彩が施されている。

135は備前系陶器壺で、太く短い口縁が外反し、底部付近は急激に収束し底部へ至る。肩部にはクシ描き波状文を施す。時期は15世紀後半前後と思われる。136・137は備前系の陶器鉢で、口縁を上方へ拡張しており、放射状の粗いクシ目を通る。15世紀前半のものと思われる。

138～140は磁器である。138は白磁Ⅳ類、139は青磁で見込みに草花文を陰刻し、軸を欠き取っている。140は龍泉窯系青磁碗で外面に細い蓮弁と思われる直線文が通り、内面には輪花文を施している。

141は土師質の上器である。内面黒色を呈す器種不明品である。

142は磁器碗で、おそらく肥前系と思われる。二次的に被熱している。143・144は薄造りの瓦質土器で、精緻なスタンプ文が施されている。145は土師器だが緑色の釉薬が掛けられている。146は瓦質土器の口縁で端部に面を持ち、内面にハケメを施す。147・148は五徳と思われる。147は口縁に切り込みが入る。148は蓋が開いている。149は鉢の口縁と思われるが詳細は不明である。150・151は鉢の口縁で、おそらく火鉢と思われる。151は頸部に3点以上のS字文を施文している。152は土師器のホウロク若しくは土鍋と思われる。内面にハケメが施される。153は火鉢若しくは火壺の底部と思われる。

製鉄関連遺物（第46図～第48図）

154～161は羽口で、製鉄関連のものと思われる。

162～169は炉壁で、胎土にスサを混入している。162・165・166・167・169はそれぞれ粘土単位の剝離痕を残す。162・163・164・167は通風孔が認められる。孔径は約3cmほどである。170は炉底滓で底部前面に床面が溶着している。流出孔付近と思われる。171は炉底滓で碗状滓である。172～173は流出滓で、大量の炭化物を包含している。174～190は鉄滓で、177・178・183は流動滓である。

製鉄関連遺物のほとんどが、I—A区谷の互層状堆積中から出土しており、時期は中世以前と考えている。科学分析の結果では鎌倉時代から室町時代前半と出ており、矛盾はない。

石器（第49図～第52図）

S1～S7は石鏃及び石鏃未製品と思われる。S8は石錐で、使用により端部が磨滅している。S15は断面が台形状の石器で長辺の一方に細かい調整を施している。S23は石匙の破損品と思われる。S24は自然石の一端に両面から刃付けを行っている。チョッパーの用な使用法を考えるが、石鏃未製品の可能性もある。S22の石刃は長辺の一方に刃付けを行っている。S25は石錐である。S26～28は磨石と思われる。S29は打製石斧で、S30も同じく打製石斧と思われる。S31は磨製石斧の欠損品と思われる。S32は扁平磨製石斧で、刃部はハマグリ刃になっている。S34～S38は砥石である。S35は玉作用の溝持ち砥石で、欠損品である。2条の溝を持つ。S39は木の葉状の加工が施されている。用途不明品である。S40は要石と思われる。砥石の転用品である。S41は一部砥石として使用され

ている。S42は基石と思われる。

鉄器その他（第52図）

F1は中世の二又鎌である。B1は角のようなやや軟質の素材を面取りし、先端を細く仕上げている。時期用途共に不明である。

木製品（第53図～第76図）

柱を除く木製品のほとんどはⅠ-A区谷とⅡ-F区集水遺構から出土している。

W1～23は漆器で、外面にスタンプ文が施される。W7や絵付けが施されるW12などが混在している。形体としては、高い高台が付くW1や低い高台が付くW16と刳込み高台のW17などが認められる。低い高台を持つものの中にはW4などの様に厚い底部を持つものがある。体部の立ち上りは内湾気味に上方へ立ち上がるW5と、内湾気味に外傾するW8、真っ直ぐ外反するW7などがある。

W24～29は杓子形木器で、大きさが3種類程度に分かれる。W28は身の側面が失われているが杓子形木器である。W30は大型の剝物匙と思われる。端部上面は若干の盛り上がりを見せる。W31～33は組み物で木釘が残っているものもある。W34は剝物容器で底部に穿孔痕がある。W35～46は曲物で、W35～38は円形曲物底部、W39～46は曲物側板で、W43・46はケビキが確認できる。W44は榎皮1列綴じと思われる、段数は2段確認出来た。W47の形状は木針と同じため木針としておくが、厚みがあるため、針として機能しない可能性がある。W48～50は箸と思われるが、他の用途も考慮し、箸状細棒としておく。W51～52は断面方形の小さな細棒だが、端部を斜めに切り落としている。用途不明である。W54はやや厚みのある細板で、端部を加工している。W55は留針と思われる。端部に加工を加えず身を扁平に作っている。若干の反りがある。W56～62は棒状木製品で、様々な物があるが、加工は雑で単純な造りをしている。端部を先細りさせるものや斜めに切り落とすものなどが見られる。W63は方形の刳込みを持つ脚材と思われる。W64～66は柄と柄穴を持つ棒状品である。W67は把手若しくは工具の柄と思われる。W68は中央の孔周辺に小孔が廻っており、小孔には軸木が挿入されていた。形状はロクロの弾み中に似るが、用途は不明である。W69～71は中央に穿孔された板状品である。いずれも片面に細かい切れ目が入っている。W69は木釘跡が残っている。W72は薄板で、端部を山形に切り落としている。W74は両端部を切り落とした板材で丁寧な面取りがされている。W75・76は片面に細かい切り込みが入る。W77～90は用途不明の板状加工品である。この他様々な板状加工を施された材が出土している。W77・78は端部を丸く仕上げている。W88・89は円形の刳込みを持つ。W96は木栓状と思われる板材である。W97～101は加工品の残材と思われる。W97・99は三角形に切り落とされている。W102は挿入型の留具と思われる。W103～110は角材である。W103・104は短材だが用途不明である。加工品残材の可能性もある。W111・112は円形の穴が大きく開いている。W113～142は乱雑な加工が施されている用途不明品で、大まかに板状のものと棒状のものに分かれる。W143～171は不定形な材の両端部を切り落とした短材で、切り落とし方は様々なものがある。W173～175の板材は木製品溜りで杭と一緒に纏まって出土している。W176の角材は端部を斜めに切り落としている。建物の柱穴から出土しているが、用途は不明である。柱の補助材であろうか。W177は大形材の両面に刳込みを入れている。W178は縦方向に穿孔を施している。W179は細長い角材である。用途は不明である。W185～192は角材や板材の

両端部を切り落とした短材で、ある程度加工された物を短く加工している。用途は不明であるが加工品残材の可能性がある。W193は大型の板材で丁寧に面取りが施され、端部を斜めに切り落としている。W194は薄い板材で、端部を両側から切り落としている。W195は小さな穿孔が施されている。W196・197は方形の刳込みを入れている。いずれも用途は不明である。W198は角材の両側面を方形に切り落とし、木栓状に仕上げている。W199～201は厚い材に乱雑な加工を施し、台形状に切り落しを行っている。用途は不明である。W202は長い角材で端部を細く削り出している。W203は大型の板材で長方形を呈している。壁板であろうか。

W204～213は板材若しくは角材を加工した杭材で、矢板のような使われ方をしたのももあったのではないかと考える。大型の材を使用しているものが多く、中には転用材も含まれていると思われる。先端の加工方法は、両側から切り込んで先端を山形にするものと、斜めに切り落とすものが見られる。

W214～230は丸木を半裁、若しくは3から4分割している杭材で、大型の丸木を割って用いているものが多い。先端に対する加工は、割れていない部分に対し行われているものが多く、割れ口をそのまま利用している。

W232～268は丸木杭で、ほとんど細丸木を使用しているが、大型のものもある。

先端部の加工以外は未加工のものが多い。先端の加工は鉛筆を削るように全周囲を細かく切り落としていくものと、大きく4方向を切り落とし仕上げ調整をするもの、2方向から切り落として楔状に仕上げるもの、斜めに切り落とすものに分かれる。単純な加工は細丸木に多く、加工方法が材の大きさによって使い分けられている事がわかる。

W270は楔状の杭で端部を鋭角に切り出している。W271・272は棒状品の端部を細く削り出している。杭と思われるが大きく反っており、別の製品の可能性が考えられる。

W273は鹿の角である。自然物だが、他の木製品と共に廃棄されており、角製品素材の可能性も残す。

W274～289は柱材である。外皮を剥ぎ取っているものと、残すものがある。底部加工については建物の説明で触れているので省く。W281のように外周の加工を施すものがあるが、設置のためのハツリ加工と思われ、裝飾的な加工は認められない。W276は断面が台形になる刳込みを施している。W287は長方形の穴が開いている。

第5節 カミヤ遺跡総括

調査の結果、古代から近世までほぼ連続して遺構が検出され、集落の変遷が近世まで迫ることが解った。最新の建物跡は調査区外の北側に有り、古代に丘陵下方から発生した集落が徐々に水田を拡大しながら丘陵上方へ移動していく様子が伺える。また、中世の一時期に製鉄を行っていたことが調査結果及び科学分析結果から明らかとなった。

I区の谷から出土した木製品には主に建築部材、食器具、生活道具、杭があり、中世にはある程度土地を区画改良して活用していたことが解った。木製品に関してはその他にも特徴的な傾向が見受けられるので何点か挙げておく。まず1点目は、多くの木製品が一部炭化していることである。遺物包含層にも炭化物や焼土などが確認されるため、この集落が火災にあっている可能性がある。

次に目に付いた特徴は、短い木材の両端を切り落とした短材が大量に出土している点である。目的は不明だが、木製品製作に伴う廃材と捉えれば、木材の加工は現地で行われていた可能性が考えられる。3点日の特徴は、多くの木製品を谷に廃棄している点である。通常不要な木材などは薪として燃料に再利用すると思われるが、何故かカミヤ遺跡では短材などの補助燃料向きの小さな木片まで無造作に廃棄している。おそらく何らかの理由があると思われるが今回の調査では判明しなかったため、今後の課題とした。

また、カミヤ遺跡ではまとまった石器製品と未成品が出土しており、縄文時代にこの地を活動の場として利用していたことが解った。石材は黒曜石とサヌカイトが多いが、中でも黒曜石は剥離しきれていないものが多く、製作技術の未熟さか、若しくは原石が剥離しにくい特徴を持っている可能性が考えられる。どちらにしても短期間（個人単位、若しくは同一原料単位）での製作と見ることが出来る。

第4章 羽代前田遺跡の調査

第1節 羽代前田遺跡の立地（第2図）

遺跡の立地する槽鉢状の斜面は、南北に延びる谷の分岐点付近の緩斜面に形成されており、遺跡の主要な時期である古墳時代後期から中世には東西にも谷が伸びていたようだ。遺跡は中世以降に土砂の堆積を受けて谷が埋まっている。

遺跡本体は調査区より上方に当たる西側にあると思われ、今回の調査区は、遺跡本体の外周部と考えられる。

第2節 調査区について

1. 調査区の設定（第3図）

試掘調査の結果、網掛け部分が木調査対象地になった為南北に2分割し、南側をⅠ区、北側をⅡ区とし、調査に入った。Ⅰ区は調査の都合で変則的に南からⅠ-D区・Ⅰ-A区・Ⅰ-B区・Ⅰ-C区としている。北側は調査区設定前に計画変更があったため、Ⅱ区とする。

2. 概要

試掘調査（第3図・第6図・第7図）

試掘調査は緩斜面全体で行った。調査の結果、緩斜面全体で遺跡が確認され、斜面上方の方がより遺跡密度が濃い事がわかった。Ⅱ区にあたる地点では、建物跡と思われる遺構や古墳時代後期の土器溜りを検出している。谷底は深い低湿地となっており、土器と共に自然木などが確認された。おそらく低湿地も何らかの活用が図られていたのではないかとと思われる。

I-A区(第5図・第8図・第9図)

は場整備の切り盛りの関係により調査区を東西に2分割して、調査を行った。西側は標高78m付近まで調査を行い、尾根を検出した。

東側では東西に延びる谷と尾根の一部を検出した。谷底では中世の焼土面を検出し、下層からは土器溜りや集石遺構と共にレキの堆積が検出された。集石遺構とレキの堆積層下の調査を行う前に事業計画の変更があったため調査を中止し、盛土保存となった。

I-B区(第5図・第9図)

東西に延びる尾根と、そこから北側へ展開する緩斜面を検出した。緩斜面には遺物包含層や東西へ流れる流路などを検出した。

I-C区(第5図・第10図)

西から東へ下る緩やかな緩斜面と、土器溜り、及び柱穴と思われるピットを検出した。斜面下方にあたる東端は低湿地になっている。

I-D区(第5図)

遺物包含層を検出したが、調査途中で事業計画の変更があり、調査を中断した。

II区(第3図・第4図・第5図)

耕作土除去後トレンチを設定し、調査を行った。調査後事業計画の変更があり、全面盛土保存となった。

第3節 調査の結果1(遺構)

I-A区

谷(第5図・第8図・第9図)

東西軸を取りながら南へ下る細い谷で、谷の下場は完全に調査区内に入っているが、南側の土場は調査区の外にある。谷はレキの堆積後に一度安定しており、集石遺構や土器溜りが検出されている。その後、浅く土砂の堆積があった後、焼土が堆積している。その後はある程度まで土砂の堆積を受けた後で水田として整地されている。

集石遺構(第11図)

土器溜りと共に検出された遺構で、散漫なレキの堆積中に数箇所石が集中して堆積している状況が確認出来た。尾根から転落した石が帯状に堆積していると考えられるものもあるが、中には独立して不整円形の平面プランを持つ集石が確認出来た。性格時期など不明だが、中世以前と思われる。

土器溜り（第11図・第12図・第13図）

集石遺構と共に土器溜りが2箇所で見出された。土器溜り01の器種構成は須恵器甕で、その他土師器甕や坏、高杯、甕などを含んでいる。時期は古墳時代後期と奈良時代が混在している。土器溜り02の主な器種構成は須恵器甕や土師器甕で、その他に須恵器の甕や坏、高杯などを含んでいる。主な時期は古墳時代後期だが、一部奈良時代の遺物も含まれている。

焼土面（第12図）

谷筋に沿って東西に軸を取る不整形帯状の浅い溝で、木炭と共に焼土や炭化面が纏まって堆積していた。検出面で中世遺物が出土しており、時期は中世頃と考えられる。

I-B区

溝01（第5図・第14図）

緩斜面に対して直交する不整形帯状の溝を検出した。遺物を伴っておらず時期は不明だが、直上の遺物包含層が古墳時代後期以降のため、それ以前の遺構と思われる。

I-C区

土器溜り（第14図）

土製支脚や移動式カマドを中心とした土器溜りで、須恵器甕や土師器甕などを含んでいる。時期は古墳時代後期から奈良時代頃と思われる。

柱穴（第14図）

等高線に並行して2基の柱穴を確認した。時期性格共に不明である。

第4節 調査の結果2（遺物）

試掘調査の遺物

試掘調査で出土した遺物をまとめて報告する。主に土器溜りの遺物で、大量の土師器甕と少量の須恵器が出土している。

1～23は土師器甕で、古墳時代中期からの流れを引き継いで胴部は球形の丸底を呈すものと、胴部最大径が下方に下がり、なで肩になる新しい傾向を示すものがある。外面にハケメが施される。ハケメの種類には、粗いものと密なものが見られる。口縁から頸部にかけて数種類の特長が見られる。口縁を外反させ、丸く収める5などの他に、端部を薄く引き上げている1や、端部を玉縁状に丸める2・3などが認められる。頸部は肩部から屈曲して立ち上がる1や、肩部から口縁まで連続した緩やかな曲線を持つ6などが見られる。また、頸部の長さが短い18などや、頸部と口縁を意識して分けている4・20・23などがある。

24～26は小型の甕で口縁は直線的に外反する。28は坏の口縁でヘラミガキを施している。30は厚底の底部を持つ土師質の土器で、胎土などは古墳時代後期遺構の土師器と同じだが、類例が無い。器種は甕のようなものになると思われるが、時期は不明である。31は手捏の坏で、増高若しくはミニチュア土器と思われる。32は須恵器模倣の土師器坏で体部中ほどに稜線を持つ。時期は古墳後期と思われる。34・35は甕の把手で、大型のものと小型のものが見られる。

36・37は須恵器蓋で肩部に稜線が入っており、端部が若干窪んでいる。38は須恵器坏で口縁端部が若干窪んでいる。39は須恵器坏と思われる。径が小さく体部から受部が直線的に伸びている。蓋の可能性はある。ここまでは古墳時代後期の須恵器である。40・41は奈良時代前期の蓋坏で40の蓋にはボタン状の握みが付く。41の坏はしっかりとした高台が付く。42～43は須恵器坏で回転糸切り痕が残る。44は須恵器坏で低い高台が付いている。45～48は土師器坏で中世のものである。49はハソウ胴部で、肩部には沈線により区画されたクシ状の連続刺突文が廻る。50～55は龍泉窯系青磁で、50・51はⅡ類、52・53はB4類、54・55はC類辺りだと思われる。56は蒔造りの陶器で数条の沈線が交差している。器種及び時期不明である。

本調査の遺物

57～103は土師器甕で、特長については試掘調査の遺物とほぼ同様だが、57・58のように頸部の長いものがある。57は複合口縁の退化したもので、古墳時代中期である。59は口縁端部を摘み出し、外側へ折り返している。89は小型の甕で外面にヘラミガキが施されている。91は小型の甕と思われる。96～100は胴部最大径が下がる器種で、大部分が奈良時代の甕と思われるが、99などは甕の口縁になる可能性がある。また100は口縁に指頭汗痕が残る調整の雑なもので、移動式カマドの可能性が有る。103は厚く短い口縁が強く外反している大型の器種である。104は厚い底部と内湾する短い口縁を持つ。

105～115は土師器坏の口縁で高杯のものと思われるが、108は須恵器を模倣した土師器の可能性はある。高杯の坏部は全体的に小型で、見込みが深い。ヘラミガキ調整が残っているものが確認できる。116～119は高杯の脚部で、脚幅があまり広がらない。118は脚充填部の粘土量が多く、重たい。120は短い脚が付く脚付きの甕のような器種になると思われる。121～123は土製支脚である。

124～133・135・136は甕である。124は甕と思われるが、把手の付き方が通常の甕と違い、上下に把手接合部がある。上下2つの把手が付いていたか、環状の把手が付いていた可能性がある。接合部形状を見ると、円管状の把手を貼り付けた痕があり、把手の接合部付近は中空だった可能性がある。121・129～133・135・136は甕の把手部分である。121は甕の把手で端部が先細り、くびれを持つ。129は細長い把手で、緩やかに上方へ反っている。130は短く扁平な把手である。133は太い棒状の把手で、あまり反りが無い。

134・137～141は移動式カマドである。134は肩部が張り出している。137はなで肩で、風防が無い。扉の有無は不明である。粘土組積み上げ法で作られており、内部の調整は雑である。139は扉部分だが、風防は付かない。142は丸球状の土錘である。

143～147は須恵器蓋で、146は高いボタン状の握みを持つ。147の輪状握みは小さいものが付いている。148～153は須恵器坏である。150は口縁の立ち上がりが高く、受部も小さい。152は

高台の付かない坏である。153は高台付き坏で、低部調整は回転ヘラ切りと思われる。

154～165は須恵器高杯で、脚部に透かしの入るものは見られないが、沈線で脚部を上下に区画する159などが見られる。坏部は、有蓋の154・155と無蓋の156・157が見られる。165は脚摺と思われるが、貯蔵具の口縁になる可能性がある。166～195は須恵器貯蔵具である。器種は甕が多いが、166は玉縁口縁を持つ瓶類のものである。167は広口の壺若しくは甕口縁と思われる。168は壺肩部で、奈良時代以降のものと思われる。173～176は壺と思われる。176は細口の甕で肩部に2条の沈線が廻る。191は甕で口縁は無文である。192は焼き歪みが激しい。193が192の口縁になるとと思われる。

198～202は須恵質の瓦である。198は中世以降の燻し瓦と思われる。199は焼成不良で、並行に縄目が通る。平安時代から中世のものと思われる。202は頸部を失っている。

203は土師質の甕と思われる。204～208は土師器坏である。209・210は青磁碗である。211は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類口縁である。

213は備前系の甕底部である。212は土師器描鉢で在地系と思われる。

S1は石椀である。S2は黒曜石の核で周辺を打ち欠いてある。I1～3は鉄滓で、I1は焼成が弱いため、色彩が浅く磨滅している。W1～4は木製品で、W1は低い高台の付く漆器椀である。W3は穿孔が施されている。W4は周辺を削り矢板状になる。B1は骨片である。

第5節 羽代前山遺跡統括

調査の結果、古墳時代後期・奈良時代・中世の遺物が纏まって確認された。一番多いのは古墳時代後期で、付近に集落があると思われる。古八幡付近遺跡・高津遺跡の調査で集落の移動に一定の決まりが認められ、古墳時代後期と奈良時代の集落地が共に丘陵斜面のやや高所を利用していることがわかっている。今回の調査でも丘陵斜面高所で古墳時代後期と奈良時代の遺物が纏まって出土していることから、追認資料として有効なのではないかと思われる。

土器溜りは、丘陵裾から谷底にかけての変化点に堆積しており、各時期の遺物が混在していることから、各時期で廃棄した遺物が谷底へ転落堆積しているのではないかと考える。ただし、谷中の堆積は層位の逆転、攪乱が頻繁に起こるため、各時期の遺物の混在がどの段階で行われていたのかは不明である。中世に関しては、焼土面の検出面より上層で遺物が確認できるが、若下の層位攪乱を受けており、土器溜り01では中世の遺物も1点見られる。

第5章 カミヤ遺跡の科学分析

文化財調査コンサルタント株式会社

AMS 年代測定結果

AMS 年代測定結果を別表 1 に示す。また、巻末資料に暦年校正結果を示す。別表 1 には、3 種類の年代と、 $\delta^{13}\text{C}$ 値を示してある。

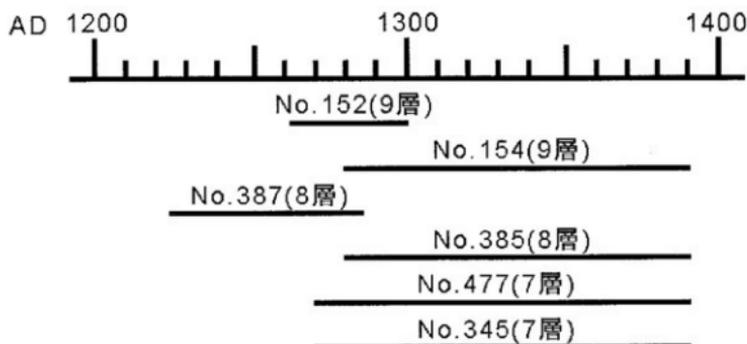
補正 $\delta^{13}\text{C}$ 年代は、 ^{13}C 濃度が環境により変動することから、 $\delta^{13}\text{C}$ を測定し、 $\delta^{13}\text{C} = -25\text{‰}$ に規格化した ^{13}C 濃度を求め、年代値を算出したもの（暦年校正年代）を 5 年単位で丸めた値である。

上記の年代は、いずれも西暦 1950 年からさかのぼった年代値で示してある。

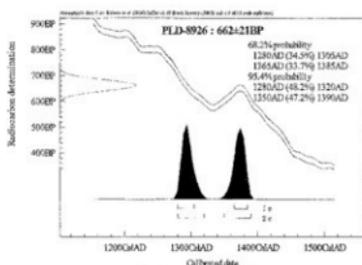
一方暦年代は、時代（時間）とともにランダムに変化している大気中二酸化炭素の ^{13}C 濃度を、樹木の年輪や海底堆積物のしま状粘土、サンゴの年輪から明らかにして得られた暦年代校正データ (INTCAL04) を用いて、校正したものである。校正には OxCal ver. 3.1 を用いている。

別表 1 AMS 年代測定結果

No.	試料 遺構名	状態	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{13}C (yrBP)	年数正周年 (yrBP)	暦年校正年代		測定番号 (PLD-)
						1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
No.385 (9KA-1)	1区 8層	炭	-27.10 \pm 0.12	660 \pm 20	662 \pm 21	AD1280-1306(34.5%)	AD1280-1320(48.2%)	8926
						AD1365-1385(32.7%)	AD1350-1390(47.2%)	
No.154 (9KA-2)	1区 9層	炭	-25.90 \pm 0.18	650 \pm 20	652 \pm 21	AD1285-1305(27.7%)	AD1280-1320(43.0%)	8927
						AD1360-1385(40.6%)	AD1350-1390(52.4%)	
No.345 (9KA-3)	1区 7層	炭	-27.45 \pm 0.13	665 \pm 20	666 \pm 21	AD1285-1300(27.3%)	AD1270-1320(51.4%)	8928
						AD1365-1385(30.9%)	AD1350-1390(44.0%)	
No.152 (9AK-4)	1区 9層	炭	-27.77 \pm 0.13	715 \pm 20	717 \pm 21	AD1270-1290(68.2%)	AD1260-1300(95.4%)	8929
No.477 (9KA-6)	1区 7層	炭	-25.70 \pm 0.20	680 \pm 25	681 \pm 24	AD1270-1300(50.7%)	AD1270-1310(64.0%)	8930
						AD1360-1380(17.6%)	AD1350-1390(31.4%)	
No.387 (9KA-8)	1区 8層	炭	-24.28 \pm 0.16	760 \pm 20	760 \pm 20	AD1295-1280(68.2%)	AD1225-1285(95.4%)	8931

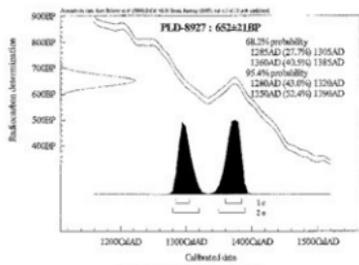
図1 暦年代校正年代 (2 σ 領域) の分布

暦年校正結果



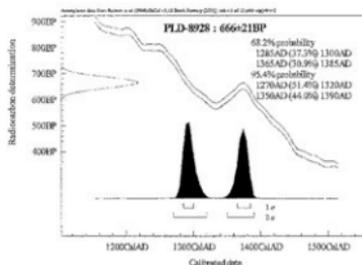
暦年校正結果: GKA-1 (No.385)

GKA - 1



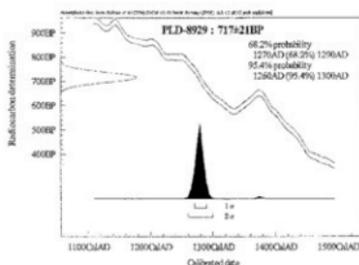
暦年校正結果: GKA-2 (No.194)

GKA - 2



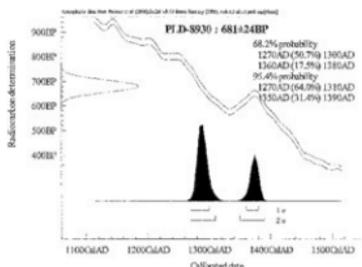
暦年校正結果: GKA-3 (No.345)

GKA - 3



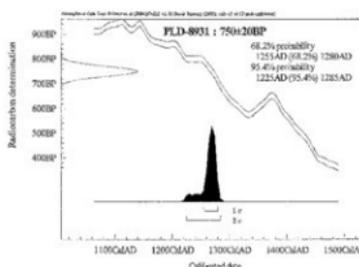
暦年校正結果: GKA-4 (No.182)

GKA - 4



暦年校正結果: GKA-5 (No.477)

GKA - 5



暦年校正結果: GKA-6 (No.307)

GKA - 6

第1表 建物01計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		3間 (7.33m)				2間 (3.76m)			
番号		S-84.0°-E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径 (cm)	54×44	53×44	39×30	70×49	33×32	56×50	31×30	53×47
	底径座標 (m)	138.43	138.43	138.44	138.56	138.37	138.33	138.38	138.25
柱間距離 (m)	1-2	2.09	2.3	1.4	4-6	6-8	3-5	5-7	7-9
		2.09	1.67	2.30	2.28	2.75	2.25	2.24	2.92
柱穴 (cm)	番号	9							
	上面径 (cm)	45×36							
	底径座標 (m)	138.25							
柱間距離 (m)	8-9	3.76							
		3.76							

第2表 建物02計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		2間 (5.24m)				1間 (2.52m)			
番号		N-88.5°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4				
	上面径 (cm)	76×38	70×50	48×42	38×27				
	底径座標 (m)	136.45	136.44	136.58	136.58				
柱間距離 (m)	1-2	2.68	2.3	1-4					
		2.68	2.56	2.52					

第3表 建物03計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		2間 (4.67m)				1間 (3.56m)			
番号		N-88.4°-E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4				
	上面径 (cm)	73×51	46×46	67×53	82×62				
	底径座標 (m)	136.40	136.33	136.23	135.67				
柱間距離 (m)	1-2	2.32	2-3	1-4					
		2.32	2.35	3.56					

第4表 建物04計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		2間 (6.21m)				1間 (2.99m)			
番号		N-78.6°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5			
	上面径 (cm)	35×24	54×39	36×34	52×32	46×40			
	底径座標 (m)	135.67	135.76	136.08	135.63	135.71			
柱間距離 (m)	1-2	3.29	2-3	1-4	4-5				
		3.29	2.92	2.99	3.45				

第5表 建物05計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		2間 (6.24m)				1間 (2.96m)			
番号		N-78.8°-E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径 (cm)	30×24	28×24	56×45	34×32	22×22	41×36		
	底径座標 (m)	135.70	135.96	135.68	135.36	135.62	135.71		
柱間距離 (m)	1-2	2.89	2-3	1-4	4-5	5-6	3-6		
		2.89	3.35	2.96	3.25	2.63	2.66		

第6表 建物06計測表

規模		梁行き				桁行き			
主軸		2間 (4.72m)				2間 (3.24m)			
番号		N-20.5°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径 (cm)	23×21	38×28	112×51	30×30	38×30	60×60~	23×22	25×21
	底径座標 (m)	135.74	135.49	135.32	135.48	135.44	135.82	135.34	—
柱間距離 (m)	1-2	2.24	2-3	1-4	4-6	2-5	5-7	3-8	6-7
		2.24	2.36	1.66	1.58	1.57	1.55	3.04	2.40
柱穴 (cm)	番号	—							
	上面径 (cm)	—							
	底径座標 (m)	—							
柱間距離 (m)	7-8	2.32							
		2.32							

第7表 建物07計測表

規模		梁行き					桁行き	
		2間 (4.77m)					1間 (2.86m)	
主軸		N-86.4° -E						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5		
	上面径 (cm)	108×49	49×47	79×73	68×68~	64×56		
	底径座標 (m)	135.50	135.41	135.18	135.19	135.32		
柱間距離 (m)		1-2	1-3	3-4	4-5	2-5		
		4.69	2.86	2.28	2.49	2.76		

第8表 建物08計測表

規模		梁行き					桁行き	
		2間 (5.47m)					1間 (2.15m)	
主軸		N-81.5° -W						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7
	上面径 (cm)	52×37	78×54	117×70	44×42	48×32	72×31	52×27~
	底径座標 (m)	135.96	135.82	135.54	135.57	136.08	136.36	135.51
柱間距離 (m)		1-2	2-3	1-4	3-7	4-5	5-6	6-7
		2.74	2.73	2.15	2.10	2.30	0.41	2.72

第9表 建物09計測表

規模		梁行き					桁行き	
		2間 (5.12m)					1間 (2.54m)	
主軸		N-83.5° -W						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5		
	上面径 (cm)	45×39	116×109	35×31	38×31	29×23		
	底径座標 (m)	135.79	135.42	135.57	135.73	136.12		
柱間距離 (m)		1-2	2-3	4-5	3-5			
		2.60	2.52	2.23	2.60			

第10表 建物10計測表

規模		梁行き					桁行き	
		3間 (6.91m)					1間 (2.56m)	
主軸		N-87.5° -W						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5		
	上面径 (cm)	38×28	47×44	32×25~	64×59	76×42		
	底径座標 (m)	136.04	136.12	135.91	136.12	135.68		
柱間距離 (m)		1-2	2-3	3-4	1-5			
		2.38	2.07	2.46	2.56			

第11表 建物11計測表

規模		梁行き					桁行き	
		2間 (3.33m)					2間 (2.57m)	
主軸		N-3.25° -W						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	
	上面径 (cm)	66×52	56×47~	42×39	44×26	30×27~	38×36	
	底径座標 (m)	135.87	135.47	136.28	136.00	135.72	—	
柱間距離 (m)		1-2	2-3	1-5	3-4	4-6		
		1.76	1.57	2.38	1.43	1.14		

第12表 建物12計測表

規模		梁行き					桁行き	
		2間 (3.68m)					1間 (1.40m)	
主軸		N-86.5° -E						
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	
	上面径 (cm)	26×20	40×28	23×22	39×36	21×11	30×25	
	底径座標 (m)	—	—	—	—	—	—	
柱間距離 (m)		1-6	3-5	5-6				
		1.40	1.67	2.01				

第13表 建物13計測表

規模		梁行き				桁行き	
		2間 (4.70m)				1間 (3.05m)	
主軸		N-87.0° -W					
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4		
	上面径 (cm)	53×48	54×49	53×34	49×36		
	底径座標 (m)	—	—	—	—		
柱間距離 (m)		1-4	2-3	3-4			
		3.05	2.34	2.36			

第14表 建物14計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間 (7.02m)				1間 (4.41m)			
主軸		N-85.6°-E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径 (cm)	67×43	77×54	74×58	64×45	109×75	48×45	56×49	66×56
	底径座標 (m)	—	—	—	—	—	—	—	—
柱間距離 (m)		1-2	2-4	4-5	1-6	6-8	4-7	7-10	5-11
		2.40	2.03	2.30	1.99	2.09	1.92	1.96	4.41
柱穴 (cm)	番号	9		10		11			
	上面径 (cm)	74×70		62×55		70×44			
	底径座標 (m)	—		—		—			
柱間距離 (m)		8-9		9-10		10-11			
		2.61		2.20		2.21			

第15表 建物15計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間 (5.22m)				2間 (5.56m)			
主軸		N-1.4°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	
	上面径 (cm)	73×60	64×43	60×43	64×39	55×44	54×50	28×20	
	底径座標 (m)	—	—	—	—	—	—	—	
柱間距離 (m)		1-3	3-4	1-5	5-7	4-6			
		3.18	2.04	3.03	2.53	2.84			

第16表 建物16計測表

規模		梁行き				桁行き			
		3間 (7.74m)				1間 (3.99m)			
主軸		N-79.0°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
	上面径 (cm)	130×72	34×34~	139×67~	96×64	110×66	82×66	71×58	104×40
	底径座標 (m)	137.74	137.48	137.84	137.74	137.78	137.55	137.70	138.02
柱間距離 (m)		1-2	1-3	3-5	5-8	2-4	4-7	7-9	5-6
		3.92	2.29	2.43	3.02	2.44	2.46	2.83	1.94
柱穴 (cm)	番号	9		—					
	上面径 (cm)	86×46		—					
	底径座標 (m)	137.90		—					
柱間距離 (m)		6-7		8-9					
		1.97		3.99					

第17表 建物17計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間 (5.96m)				1間 (2.48m)			
主軸		N-78.2°-E							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径 (cm)	62×56	102×73	63×55	61×51	60×54	97×64		
	底径座標 (m)	138.38	137.99	138.08	137.75	137.88	137.83		
柱間距離 (m)		1-2	2-3	1-4	4-5	5-6	3-6		
		3.00	2.93	2.48	2.88	3.08	2.38		

第18表 建物18計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間 (5.13m)				2間 (3.87m)			
主軸		N-76.5°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3	4	5	6		
	上面径 (cm)	40×37	60×43	54×42	60×53	48×42	55×50		
	底径座標 (m)	138.40	138.06	138.08	138.86	138.85	138.12		
柱間距離 (m)		1-2	2-3	1-4	4-6	3-5			
		2.18	2.95	1.95	1.92	1.94			

第19表 柱列01計測表

規模		梁行き				桁行き			
		2間 (5.13m)				2間 (3.87m)			
主軸		N-89.9°-W							
柱穴 (cm)	番号	1	2	3					
	上面径 (cm)	96×84	75×64	82×70					
	底径座標 (m)	—	—	—					
柱間距離 (m)		1-2	2-3						
		2.41	2.22						

第20表 柱列02計測表

柱穴 (cm)	主軸			N-71.9° -W		
	番号	1	2	3		
	上面径 (cm)	52×48	50×46	86×80		
底径座標 (m)	134.41	134.56	134.53			
柱間距離 (m)	1-2	2-3				
	2.08	1.98				

第21表 性格不明遺構計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)		短軸 (cm)		深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	不整形円形		230.00~	165.00	28.00	N-89.0° -W	弥生土器		
			104.00~	61.00					
02	不整形		298.00	200.00~	71.80	N-76.8° -W	陶器		
			455.00	390.00					
03	隅丸五角形		440.00	—	24.00	N-22.3° -W			
			420.00	—					

第22表 土坑計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)		短軸 (cm)		深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	長方形		146.00	87.00~	59.00	N-1.0° -W	土師器坏		
			118.00	32.00					
02	長方形		110.00	71.00	16.00	N-82.2° -E			
			85.00	48.00					
03	長方形		116.00	64.00	15.00	N-87.7° -W			
			95.00	38.00					
04	倒卵形		196.00	140.00	55.00~	N-88.0° -E			
			154.00	95.00					
05	不整形円形		530.00	244.00	60.00	N-31.4° -W			
			140.00	56.00					
06	円形		128.00	112.00	54.00	N-69.0° -W			
			—	—					

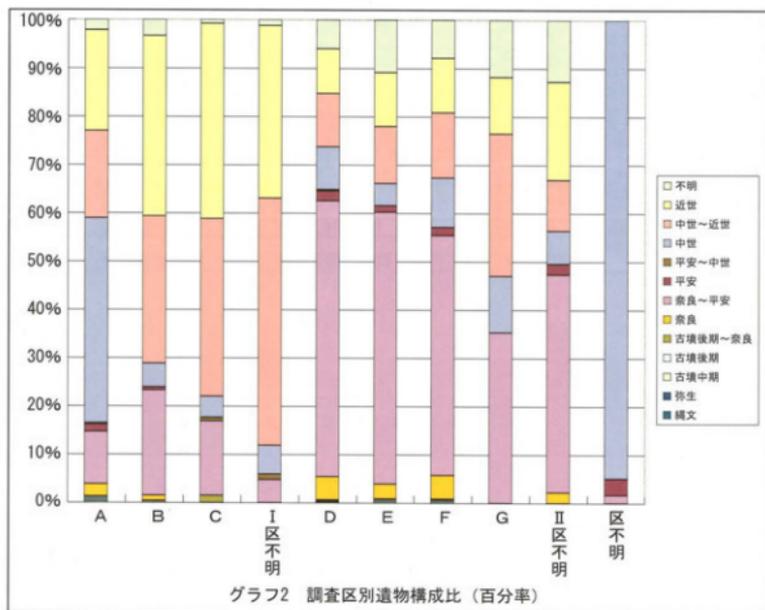
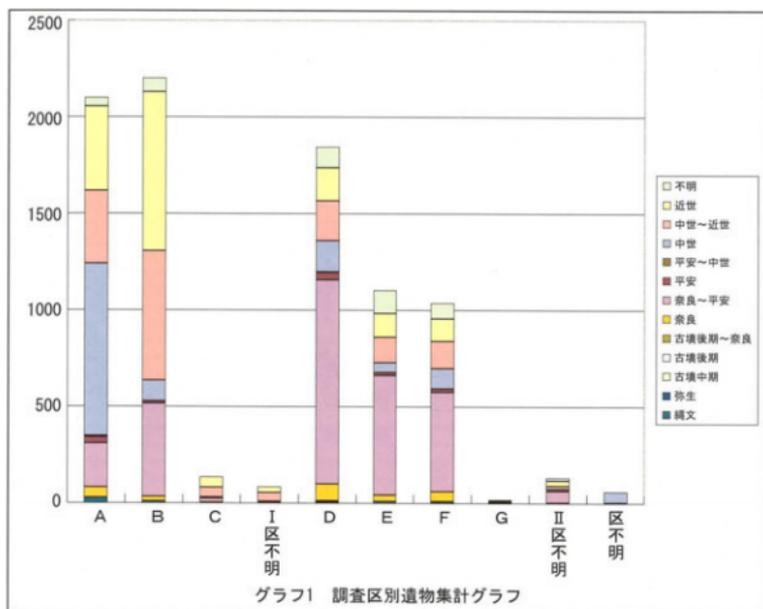
第23表 溝計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)		短軸 (cm)		深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	南に下る直線形		185.00	40.00	—	N-21.2° -E			
02	等高線に沿う直線系		1,285.00	370.00	—	N-29.4° -W			
			—	—					
03	等高線に沿う浅いL字形		136.50~	50.00	—	N-88.2° -W			
			—	—					
04	等高線に沿う直線形		267.50~	85.00	—	N-82.1° -E			
05	等高線に沿う直線系		250.00	22.00	—	N-84.6° -E			
			—	—					
06	等高線に沿う直線系		286.00	50.00	10.00	N-89.0° -W			
			260.00	35.00					
07	等高線に沿う直線系		374.00	70.00	6.00	N-89.6° -E			
			316.00	40.00					
08	等高線に沿う浅いL字形		118.00	98.00	20.00	N-76.1° -W	陶器		
			114.00	60.00					
09	等高線に沿う直線系		1,090.00	60.00	20.00	N-86.4° -W			
			1,080.00	30.00					
10	等高線に沿う直線系		1,854.00	—	70.00	N-82.0° -E			
			1,820.00	—					
11	等高線に沿う直線系		540.00	80.00	10.00	N-81.3° -E			
			510.00	52.00					

遺構計測表第24～第30表は79ページに掲載

第31表 カミヤ遺跡出土遺物分類表

時代	時期	種別	I区				I区集計	II区				II区集計	不明集計	総計	
			A	B	C	不明		D	E	F	G				
縄文		石器	25	9			34	3	8	7		不明	18	52	
		縄文土器	1				1							1	
弥生		弥生土器						5					5	5	
		弥生土器		1			1	1					1	2	
古墳	中期	土師器						2					2	2	
	後期	須恵器						1	1	2			4	4	
古墳～平安		土師器						1					1	1	
古墳後期～平安		須恵器		2	3		5	3					3	8	
奈良		須恵器	54	24			78	89	34	51		3	177	255	
		土師器	53	241	12		306	588	317	263		14	1,182	1,488	
奈良～平安		須恵器	176	240	9	4	429	467	302	251	6	46	1,072	1,502	
平安		土師器	2				2	1					1	3	
		須恵器	29	13			42	37	15	17		3	72	2,116	
平安～中世		土師器	3			1	4	2					2	6	
		須恵器	1		1		2	2					2	4	
平安末～中世		土師器	2				2						2	2	
中世		土器						1					1	1	
		土師器	38	13			51	45	27	54		3	129	180	
		須恵器	8				8	3	2				5	13	
		磁器	92	89	5	5	191	29	18	37	2	6	92	283	
		陶器	5				5			7			7	12	
		銅鉄遺物	747	4	1		752	86	4	8			98	56	906
		古銭		1			1							1	1
		金属製品	1				1							1	1
中世前期		磁器						1					1	1	
中世～		石製品	1	1			1			1			1	2	
中世～近世		土師器					1						1	1	
		陶器	374	659	42	43	1,118	198	126	132	5	13	474	1,592	
		瓦器	6	15	8		29	7	4	8		1	20	49	
		土器				1	1						1	1	
近世		土師器	10	11			21		1				1	22	
		土製品									1		1	1	
		瓦器	1	1		1	3		2				2	5	
		磁器	310	602	50	26	988	145	77	76		17	315	1,303	
		陶器	113	205	4	2	324	25	40	39		10	114	438	
		古銭	2				2		1					3	
		金属製品	1	2	1		4	1	2	2	1		6	10	
		不明		1			1							1	
近世～現代		磁器			1	2	3						3	3	
		石器	2	4			6			1	1	1	3	9	
不明		土器	28	63	1	1	93	90	93	60		13	256	348	
		土師器	2	1			3	4					4	7	
		粘土塊	5				5	1	22	9		1	33	38	
		須恵器	1				1						1	1	
		瓦器								1			1	1	
		古銭							1				1	1	
		金属製品	6	4			10	14	3	10	1	2	30	40	
		自然物	1				1							1	
総計			2,100	2,206	138	86	4,530	1,852	1,100	1,036	17	133	4,138	59	8,727



第32表 各時代における器種一覧表

時代	種別	器種	合計
縄文	サヌカイト	石刀未製品	2
		石刀	2
		石筒未製品	2
		打製石斧	1
		磨製石斧	1
		鹿角製石斧	1
		未製品	4
		鹿角	1
		鹿角	1
		石錘	1
	凝灰岩系	打製石斧	1
		磨製石斧	1
		石鏃	1
		石鏃	1
		石鏃	1
	黒曜石	石刀未製品	1
		石筒未製品	1
		多形石鏃	1
		鏃	1
		不明	5
石英	石筒未製品	1	
	石鏃	1	
	磨石	1	
	石チップ	1	
	不明	3	
弥生	縄文土器	不明	1
	土器	不明	5
古墳後期	須恵器	甕	3
		甕(若しくはほ)	3
古墳後期～平安	須恵器	甕(若しくはほ)	4
		杯	164
奈良	須恵器	甕	72
		横吹つまみ付甕	13
		つまみ付甕	2
		若しくはほ	3
		甕	1
	不明	1	
	杯	30	
	土師器	高台付杯	2
		高台	8
		須恵土器	1
甕		28	
甕若しくはほ		6	
奈良～平安	焼成不良須恵器	カマド	3
		カマド若しくは須口	7
		甕	37
		粘土塊	26
		不明	1,341
	須恵器	甕	13
		甕	4
		不明	1
		杯	569
		高台付甕	10
平安	土師器	高台付甕	43
		甕(高台付)	1
	須恵器	甕	103
	甕若しくはほ	20	
	甕若しくはほ類	2	
平安～中世	土師器	甕若しくはほ類	2
		甕	2
	須恵器	甕	726
	不明	1	
	不明	1	
中世	土師器	甕若しくはほ	2
		不明	1
	土師器	杯	177
	須恵器	甕若しくはほ	1
	須恵器	須恵系雑鉢	11
	白磁	甕	1
		不明	1
	青磁	不明	177
		甕	4
		不明	98
天目系		不明	1
陶器		甕	1
須恵器		雑鉢	1
須恵器		雑鉢	4
備前焼		不明	7

時代	種別	器種	合計		
中世	鉄器	鉄鍔	66		
		製鉄遺物	1		
		伊模造材	173		
		百鍊	1		
		不明	1		
	土師器	鉄類	1		
		瓦質土器	48		
		天目系	27		
		甕	1		
		不明	2		
中世～近世	陶器	銅系雑鉢	3		
		こね鉢	6		
		楕円鉢	1		
		火鉢	3		
		ほんど	4		
		五徳	5		
		七徳	13		
		土器類研製	1		
		灯明皿	8		
		鏡鈿	4		
片口	9				
近世	土器	大	41		
		不明	1,428		
		鉢類	1		
		ぼろろく	1		
		七徳	1		
	瓦質土器	五徳	2		
		七徳若しくは五徳	1		
		不明	18		
		鉢類	3		
		鉢	1		
近世以降	磁器	不明	1		
		不明	35		
		碗	2		
		皿	7		
		不明	1		
	陶器	染付	仏懸具	1,525	
		雑鉢	93		
		土器	2		
		雑鉢	9		
		不明	39		
近世以降	陶器	陶製人形	陶製人形	2	
		石見焼	不明	1	
		石見焼	不明	2	
		古銭	寛永通宝	3	
		銅製品	カセリ	6	
	近世以降	陶器	銅製鉢	1	
			不明	3	
			窯道具	不明	1
			瓦	1	
			瓦	1	
不明	土師器	瓦	28		
		手ヤート系	磁石	1	
		不明	1		
		凝灰岩系	磁石	1	
		磁石系	磁石	1	
	不明	鉄製品	不明	1	
			不明	1	
			不明	3	
			高台	4	
			不明	343	
不明	土師器	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	鉄製品	不明	5	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
			不明	1	
不明	不明	不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
		不明	1		
	不明	不明	不明	1	
			不明	1	
			不明		

第33表 建物観察表

棟数	地区	道種	土色	地質	傾斜	口深	積土 (cm)	電柱	1次	2次	3次	特徴	内照	外照	新築	地上	積載	年代	備考
1	1区 A		灰青色粘質土層	粘土層	不明	2.1~			ナシ	無し		3本の土管を 掘す 口深約1.5m	灰青色	暗灰色	灰青色	掘土の自然斜面 見出し、崖下の 切取を造り、	やや不良	構文	掘土の自然斜面 見出し、崖下の 切取を造り、 1.5m以下に 1.5m以下に
2	1区 B		赤褐色粘質土層 (粘土層、硬含む)	土層	不明	20.0	3.5~		ヨコナシ			切取を造り、	赤褐色	暗褐色	赤褐色	やや硬い、掘土の 切取を造り、	良好	古物埋納	掘土の自然斜面 見出し、
3	1区 C		暗赤色粘質土層	土層	不明	2.8~			ヨコナシ			切取を造り、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	やや硬い、掘土の 切取を造り、	やや不良	不定	掘土の自然斜面 見出し、
4	1区 B		暗赤色粘質土層 (粘土層、硬含む)	土層	不明	3.7~			ナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	不明	不明	掘土の自然斜面 見出し、
5	1区 B		暗赤色粘質土層 (粘土層、硬含む)	土層	不明	3.7~			ナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	やや不良	不明	掘土の自然斜面 見出し、
6	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	14.0	4.5~		掘土あり			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
7	3区 D		暗赤褐色粘質土層	粘土層	不明	17.4	2.1~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
8	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	18.2	5.0~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
9	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	11.0	2.15~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
10	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	16.0	4.4~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
11	1区 A		暗赤褐色粘質土層 粘土層	土層	不明	13.6	3.0~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
12	2区 F		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	12.8	2.1~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
13	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	21.0	3.4~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
14	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	21.9	8.6~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
15	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	19.4	3.9~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
16	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	22.0	3.75~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
17	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	23.2	3.4~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
18	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	22.5	2.75~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
19	2区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	7.6	2.0~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
20	1区 B	F275	暗赤褐色粘質土層	土層	不明	7.6	1.5~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
21	1区 B	F275	暗赤褐色粘質土層	土層	不明	18.4	2.0~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
22	3区 D		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	15.4	2.2~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
23	3区 D	SK09	暗赤褐色粘質土層	土層	不明	15.9			ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
24	1区 A		暗赤褐色粘質土層 (粘土層、硬含む)	土層	不明	9.4	2.1~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
41	1区 B		暗赤褐色粘質土層 (粘土層、硬含む)	土層	不明	8.3	2.2~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、
42	1区 A		暗赤褐色粘質土層	土層	不明	7.6	1.4~		ヨコナシ			掘土の自然斜面 見出し、	暗褐色	暗褐色	暗褐色	掘土の自然斜面 見出し、掘土の 切取を造り、	良好	不明	掘土の自然斜面 見出し、

區画	地区	道標	土色	類別	規模	口数	延床 (㎡)	延床	1次	2次	3次	料数	内積	外積	積土	積成	料代	備考
43	1区 B	建設04	褐色色粘質土層	須磨砂	築	2.0~			回転子子				褐色色	褐色色	安土、1m以下砂積を 敷く。	やや不良	奈良	
44	1区 A		褐色色・黄色色砂 L-1層	須磨砂	掘り込み	4.9	1.5~		回転子子				褐色色	褐色色	安土、あまり砂積を 敷かない。	やや不良	奈良 大和郡 廣野町	
45	3区 D		褐色色粘質土層	須磨砂	築	12.6	1.8~		回転子子				褐色色	褐色色	やや硬、あまり砂 積を敷かない。	良好	奈良	掘り込み有り、 中層に、
46	1区 B		褐色色粘質土層 (褐色層、泥色砂)	須磨砂	築	1.8~	1.8~	13.8	13.1	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下砂 積を敷く。	良好	奈良	中層に砂有り、 掘り込み有り、
47	1区 A		褐色色土層	須磨砂	掘り込み	7.2	3.3	13.7	13.2	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下砂 積を敷く。	良好	奈良	掘り込み有り、 コソ口。
48	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	築	5.4	2.9	13.9	13.5	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、あまり砂積を 敷かない。	良好	奈良	コソ口。
49	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	掘り込み	5.0	3.3	13.0	12.9	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	掘り込み有り、掘り 込み有り。
50	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	掘り込み	2.6~		12.0	11.7	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
51	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	掘り込み	6.9	2.9	12.6	12.2	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、あまり砂積を 敷かない。	良好	奈良	
52	1区 A		褐色黄色粘質土層	須磨砂	掘り込み	6.9	3.05	12.5	12.2	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
53	1区 B		褐色色粘質土層	須磨砂	掘り込み	1.8~	1.8~	12.4	12.2	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	不良	奈良	
54	1区 A		褐色色・黄色色砂 L-1層	須磨砂	掘り込み	7.0	2.3	13.6	13.4	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	コソ口。
55	3区 D	建設04	褐色色粘質土層	須磨砂	高付付床	6.45	3.7	14.0	13.8	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
56	3区 D		褐色色粘質土層	須磨砂	高付付床	5.2~			9.3	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
57	1区 A		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	13.8	6.0	14.0	9.2	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
58	1区 A			須磨砂	高付付床	14.0	5.9~	14.2	11.3	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
59	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	14.2	7.7	14.3	7.3	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
60	1区 B		粘土	須磨砂	高付付床	13.5	4.3	12.6	9.3	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
61	3区 D		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	3.2~			7.6	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
62	3区 D		粘土	須磨砂	高付付床	2.2~			8.4	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
63	1区 A		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	10.8	4.3	11.0	7.8	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
64	1区 A		褐色黄色粘質土層 (おもろ層)	須磨砂	高付付床	11.6	4.7	11.8	7.5	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	併せて掘り込み、 コソ口。
65	1区 B		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	3.8~			7.8	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	
66	1区 A		褐色黄色粘質土層	須磨砂	高付付床	11.0	5.2	11.05	6.7	回転子子			褐色色	褐色色	やや硬、1m以下の砂 積を敷く。	良好	奈良	掘り込み有り。

試験 區	地区	土色	種類	口徑	寸法 (mm)	層厚	1次	2次	3次	特徴	内径	外径	断面	粘土	強度	年代	備考
67	1区 A	粘土	須磨層	11.8	5.2	12.0	7.4	回転子	回転子 切り取 り	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	中、あまり厚粒を 含まない。	やや不具	奈良	ロクロ。
68	1区 B	褐色色灰質土層	須磨層	14.2	6.75	14.3	7.6	回転子	回転子 切り取 り	深青灰色 三層部に なる	深青灰色	深青灰色	深青灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	良好	奈良	ロクロ。
69	1区 A	(粘土) 灰質土層 (粘土) 灰質土層 (粘土) 灰質土層 (粘土) 灰質土層	須磨層	11.5	5.5	11.6	5.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	中、あまり厚粒を 含まない。	不具	奈良	褐色の塊状不具
70	1区 B	褐色色灰質土層 (粘土) 灰質土層 (粘土) 灰質土層	須磨層	12.6	5.7	12.7	6.2	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	やや不具	奈良	褐色の塊状不具
71	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層		3.1~		8.05	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
72	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.1	5.3	12.4	7.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
73	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	13.8	6.6	14.0	8.0	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	良好	奈良	ロクロ。
74	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.4	5.4	12.8	6.7	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	良好	奈良	ロクロ。
75	1区 B	褐色色灰質土層	須磨層	14.2	5.5	14.4	6.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
76	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	13.2	4.75	13.4	6.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
77	3区 D	褐色色灰質土層	須磨層	12.7	4.4	12.8	6.0	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
78	3区 D	褐色色灰質土層	須磨層	12.0	4.5	12.2	7.0			口徑以下 の砂を含む。	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
79	1区 D	褐色色灰質土層	須磨層	11.5	4.3	11.6	7.4	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
80	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.6	5.0	12.7	7.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	良好	奈良	褐色の塊状不具
81	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	11.4	3.75	11.5	6.7	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
82	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	11.2	3.5	11.4	7.0	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
83	1区 B	褐色色灰質土層	須磨層	11.2	3.1	11.4	7.8	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
84	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.8	3.8	12.9	8.2	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
85	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.3	3.8	12.4	7.9	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
86	1区 D	褐色色灰質土層	須磨層	13.2	3.75	13.4	8.0	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
87	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層	12.15	3.6	12.2	7.9	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
88	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層		2.0~		7.2	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
89	1区 A	褐色色灰質土層	須磨層		2.6~		7.0	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
90	1区 D	褐色色灰質土層	須磨層		1.4~		6.5	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具
91	1区 A		須磨層		2.7~		4.9	回転子	回転子 切り取 り	深灰色	深灰色	深灰色	深灰色	やや細い、1mm以下の砂 を含む。	不具	奈良	褐色の塊状不具

種別 No.	地区	遺構	土色	埋藏	深達	寸法 (cm)			1次	2次		3次	特徴	内面	外周		加工	状況	時代	備考
						長さ	幅	高さ		深達	1次				2次	土質				
52	1区 B		黄灰色砂土層	須磨器	坪	2.5~		6.5						灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
53	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	1.6~		8.6	凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
84	1区 B		黄灰色粘質土層 (包含物、灰赤土)	須磨器	坪	1.5~		7.2	凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
95	1区 B		黄灰色粘質土層 (包含物、灰赤土)	須磨器	坪	12.4	4.25~		凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
96	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	11.6	3.5~		凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
97	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	12.6	4.2~	12.7	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
98	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	12.2	3.0~	12.3	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
99	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	11.9	3.7~	12.2	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
100	1区 B		黄灰色粘質土層 (包含物、灰赤土)	須磨器	坪	17.5	4.15~	17.6	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
101	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	13.6	6.6~		凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
102	1区 A		黄灰色粘質土層 (包含物、灰赤土)	須磨器	坪	11.5	4.05	11.6	凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
103	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	12.6	4.8	12.8	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
104	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	2.6~		6.7	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
105	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	1.6~		5.3	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
106	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	1.7~		6.2	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
107	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	2.6~		6.2	凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
108	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	2.0~		9.1	凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
109	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	13.2	2.5~		凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
110	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	4.3~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
111	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	14.1~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
112	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	4.2~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
113	1区 B		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	3.0~		8.6	凹坑子					灰白色	灰白色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
114	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	4.4~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
115	1区 A		黄灰色粘質土層	須磨器	坪	3.55~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	
116	1区 A		黄灰色粘質土層 (包含物、灰赤土)	須磨器	坪	5.0~			凹坑子					黄灰色	黄灰色		やや粗い、Im以下の砂粒を含有し、Im以上の砂粒を含有し、Im以下の砂粒を含有し。	不良	奈良-平安	

院名	地区	種類	土色	樹種	樹種	寸法 (cm)			葉裏	葉裏	特徴	色調			樹土	気候	時代	備考	
						口径	樹高	樹穴径				1次	2次	3次					内面
117	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	18.1	6.1~		1次	2次	3次	暗褐色平頭	灰色	灰色	淡灰色	やや硬、黒色斑を帯び、limb下の砂粒を含有。	良好	奈良	
118	1区 B		淡灰色粘質土層	栲樹類	葉		6.7~		20.1	19.5	19.0	長楕圓形にへつろみ	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	外側に斑入っている。
119	1区 C		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉		5.7~		12.2	12.0	11.8	短楕圓形にへつろみ	淡灰色	暗灰色	淡灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
120	1区 D		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉		6.1~		9.9	9.8	9.7	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
121	1区 B		暗灰色粘質土層 (石灰質、斑入心)	栲樹類	葉		8.1~		4.9	4.8	4.7	楕圓形	淡灰色	淡灰色	淡灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
122	3区 D		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	42.6	13.0~		22.4	22.3	22.2	楕圓形横し、面を滑つ	灰色	灰色	灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有、斑入心を含む。	良好	平安	外側に暗褐色、口縁を平滑に滑らし、面を滑つ
123	3区 D		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	9.4~			7.4	7.3	7.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
124	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	11.6	3.85	11.8	4.4	4.3	4.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
125	1区 B		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	7.9	1.8~	8.0	3.7	3.6	3.5	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
126	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.45~			5.0	4.9	4.8	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
127	1区 A		粘土	栲樹類	葉	1.45~			4.2	4.1	4.0	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
128	2区 F		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.9~			7.4	7.3	7.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
129	1区 A		淡灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.8~			5.4	5.3	5.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
130	1区 A		淡灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.6~			9.9	9.8	9.7	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
131	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.5~			不定形	不定形	不定形	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
132	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	1.8~			5.4	5.3	5.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
133	1区 C		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	4.0~			9.9	9.8	9.7	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
134	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	2.85~			外: 7.4	7.3	7.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
135	1区 A		淡灰色土層	栲樹類	葉	13.2	22.85~		20.8	20.7	20.6	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	
136	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	20.9	7.8~		楕圓形	楕圓形	楕圓形	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
137	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	4.15~			11.8	11.7	11.6	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
138	3区 D		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	18.4	4.8~		4.8	4.7	4.6	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
139	3区 D		淡灰色土層	栲樹類	葉	1.6~			4.8	4.7	4.6	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
140	3区 F		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	3.0~			4.6	4.5	4.4	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	中世	
141	1区 A		暗灰色粘質土層	栲樹類	葉	2.1~			12.4	12.3	12.2	楕圓形	暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや硬、limb下の砂粒を含有。	良好	平安	

第34表 土錐観察表

標識	地区	土色	層別	層厚	寸法 (cm)			形成方法	特徴	色調		土質	環境	時代	備考	
					長さ	幅	高さ			孔徑	重さ (g)					内面
26	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	3.5	2.4	0.3~0.55	17	手取ね	内面 灰褐色 外面 灰褐色	灰褐色	灰褐色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	縄文 中期	
27	Ⅰ区 8	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	4.0~	2.7	2.4~0.7	18	手取ね	内面 暗灰色 外面 暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	やや不良	縄文 中期	2羽文層
28	Ⅱ区 E	暗灰色粘質土層	土錐芯	土錐	4.3	2.6	2.5 0.9~1.0	21	手取ね	内面 灰白色~暗灰色 外面 暗灰色	暗灰色	暗灰色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	縄文 中期	
29	Ⅰ区 A	灰白色粘質土層	土錐芯	土錐	4.2	2.9	2.7 0.7	27	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を少量含む。	良好	縄文 中期	
30	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	2.7~	2.7	2.55 0.5~0.7	17	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	縄文 中期	
31	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	5.55	3.1	2.6 0.7~0.9	52	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	粗、1mm以下の砂粒を含む。	良好	縄文 中期	
32	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	5.8	3.9	3.2 0.8	51	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	縄文 中期	
33	Ⅱ区 F	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	5.4	2.6	2.5 0.6	25	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	縄文 中期	
34	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	7.1	4.35	3.5 0.75~0.9	111	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	縄文 中期	
35	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	土錐	7.6	4.15	4.1~0.55	98	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2~3mm以下の砂粒を含む。	良好	縄文 中期	

第35表 櫛形口観察表

標識	地区	土色	層別	層厚	寸法 (cm)			形成方法	内面	外面	断面	土質	環境	時代	
					長さ	幅	高さ								
154	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	8.1	4.7	3.6	8.4	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世
155	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	0.7	3.2	3.2	7.4	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世
156	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	0.6	3.2	3.6	7.6	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	中世
157	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	9.0	3.0	3.3	9.4	手取ね	内面 暗褐色 外面 暗褐色	暗褐色	暗褐色	やや粗、2mm以下の砂粒を含む。	良好	中世
158	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	8.6	4.2	4.6	8.7	手取ね	内面 暗褐色 外面 暗褐色	暗褐色	暗褐色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世
159	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	6.8	4.0	4.7	9.0	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、あまり砂粒を含まない。	良好	中世
160	Ⅱ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	9.0	6.2	3.6	8.0	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世
161	Ⅲ区 0	暗茶褐色粘質土層	土錐芯	櫛形口	6.6	2.1	—	—	手取ね	内面 灰白色 外面 灰白色	灰白色	灰白色	やや粗、2mm以下の砂粒を少量含む。	良好	中世

第36表 炉構造材・鉄滓観察表

掲載No.	地区	土色	種別	器種	重さ(g)	備考
162	I区 A	暗灰色・青灰色砂レキ層	炉構造材	炉壁	2,000.00	通風孔の傾斜が10度。設置角が5度。
163			炉構造材	炉壁	102.00	
164	I区 A	埴土	炉構造材	炉壁	225.00	
165	I区 A		炉構造材	炉壁	1,000.00	
166	I区 A	暗灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	1,200.00	
167	I区 A	暗灰色・青灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	1,800.00	
168	I区 A	暗灰色粘質土層	炉構造材	炉壁	315.00	
169	I区 A	青灰色砂レキ層	炉構造材	炉壁	3,000.00	通風孔の傾斜が5度。設置角が30度。
170			鉄滓	炉底滓	7,000.00	炉床が溶着している。流出孔付近と思われる。
171			鉄滓	炉底滓	4,000.00	中央部窪む。
172	I区 A	淡灰色粘質土層	鉄滓	流出滓	481.00	再結合。
173	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流出滓	337.00	
174			鉄滓	炉内滓	600.00	
175	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	800.00	
176	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	1,200.00	炉床土を含む。
177			鉄滓	流動滓	212.34	
178	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	292.91	上下2層に分離している。
179	I区 A	淡灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	167.82	
180	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	235.71	工具跡残る。
181	I区 A	暗灰色・青灰色粘質土層	鉄滓	炉内滓	294.24	炭化物多く含む。炉壁付着。
182	I区 A	暗灰色粘質土層	鉄滓	流出孔滓	358.78	
183	I区 B	暗茶色粘質土層	鉄滓	単位流動滓	98.17	
184	I区 A		鉄滓	流動滓	60.43	
185	I区 A		鉄滓	流動滓	84.71	
186	I区 A		鉄滓	流動滓	25.12	
187	I区 A	埴土	鉄滓	流動滓	67.16	
188	I区 A	埴土	鉄滓	流動滓	53.02	
189			鉄滓	流動滓	159.88	
190			鉄滓	流動滓	82.81	

第37表 石器観察表

掲載No.	地区	土色	器種	石材	寸法 (cm)				備考
					長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
S1	I区 A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	2.1	1.65	0.3	0.93	凹基型。
S2	I区 A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	2.2	1.6	0.4	1.14	凹基型。
S3	I区 A	淡茶色土層	石器未製品	サヌカイト	2.6~	2.1~	0.6	2.31	
S4	I区 A	淡灰色粘質土層	石鏃	サヌカイト	1.9~	1.7~	0.4	1.44	凹基型。
S5	I区 A	暗灰色粘質土層	石器未製品	サヌカイト	2.1~	1.55~	0.4	1.16	凹基型。
S6	II区 E	暗茶色粘質土層	石器未製品	石英	2.2	1.5	0.8	1.88	
S7	I区 A	暗灰色砂質土層 おたけ層含む	石器未製品	黒曜石	2.5	2.1	0.9	3.33	凹基型。
S8	I区 B	淡茶色土層	石鏃	黒曜石	3.4	1.5	0.65	1.79	
S9	I区 B	淡茶色土層	未製品	黒曜石	3.55	2.2	1.1	5.64	石鏃の未製品の可能性有り。
S10	I区 A	青灰色土層	未製品	黒曜石	3.25	2.1	1.0	5.50	
S11	I区 A	埴土	未製品	サヌカイト	2.3	2.0	0.55	2.74	
S12	I区 A		未製品	サヌカイト	2.3	2.3	0.35	1.66	
S13	I区 A	暗灰色・青灰色粘質土層	未製品	黒曜石	2.2	1.6	0.5	1.62	
S14	I区 A	淡灰茶色土層	未製品	サヌカイト	3.5	2.5	0.6	3.86	
S16	I区 A	淡灰色粘質土層	台形石器	黒曜石	3.4	1.8	0.9	5.31	

第37表 石器観察表

掲載No.	地区	土色	器種	石材	寸法 (cm)				備考
					長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
S16	I区 A	緑土	石刀未製品	サヌカイト	4.0	2.4	0.75	7.19	
S17	I区 A	淡灰茶色土層	石刀未製品	サヌカイト	4.2	3.2	0.9	11.18	
S18	I区 A		核	黒曜石	2.55	2.25	1.15	6.01	
S19	I区 A	茶灰色粘質土層	未製品	黒曜石	2.4	2.2	0.65	2.80	
S20	I区 A	淡灰茶色土層	未製品	黒曜石	2.1	1.95	1.0	5.00	
S21	I区 A	緑土	未製品	サヌカイト	3.1	2.3	0.7	6.01	
S22	I区 A	淡茶色土層	石刀未製品	黒曜石	6.0	2.7	1.3	15.03	
S23	I区 B	淡灰色粘質土層	石匙	粘板岩系	4.0	3.1	0.6	6.82	
S24	I区 A	淡茶色土層	チャップパー		6.9	6.6	1.5	104.70	
S25	I区 B		石錘	凝灰岩系	5.5	5.6	2.0	92.40	
S26	II区 D	暗茶色粘質土層	磨石		9.6	9.0	4.1	563.00	P289
S27	I区 A	淡灰茶色粘質土層	磨石	安山岩系	5.2	4.7	1.7	69.41	
S28	II区 D	淡灰色粘質土層	磨石	凝灰岩系	10.0	8.6	4.25	498.00	
S29	I区 A	緑土	打製石斧	凝灰岩系	9.9	4.1	1.6	77.89	風化による磨滅が著しい。
S30	I区 A	茶灰色粘質土層	打製石斧	サヌカイト	8.0	3.5	0.8	26.67	風化による磨滅が著しい。
S31	I区 A	緑土	磨製石斧	凝灰岩系	6.2~	4.7~	4.1	179.38	
S32	I区 B		磨製磨製石斧	サヌカイト	13.2	5.4	2.2	215.83	
S33	I区 A	緑土	磨製石斧	サヌカイト	3.9~	2.9~	0.6~	7.99	
S34	II区 G	淡灰茶色粘質土層	砥石	砂岩系	6.6	5.2	1.7	80.27	P92
S35	I区 B	淡茶色土層	砥石	チャート系	8.06	3.6	0.9	29.73	棒状の物を研ぐ砥石。
S36	I区 B		砥石	粘板岩系	3.6~	3.6~	0.8	10.27	
S37	I区 A		砥石	粘板岩系	3.5~	4.8~	0.3	6.97	
S38	I区 A		砥石	凝灰岩系	3.8~	3.0~	1.1	15.13	
S39	II区		不明	チャート系	5.6~	2.8~	0.85	16.03	木の葉形石製品。
S40	I区 B		磨石		29.5	11.5	9.1	5000.00	全面砥石として使っている。
S41	I区 B	淡茶色粘質土層	砥石	粘板岩系	9.0	5.15	0.8	33.43	
S42	I区 B		磨石状石製品	安山岩系	2.1	2.1	0.5	3.03	砥石の可能性有り。

第38表 骨製品観察表

掲載No.	地区	土色	種別	器種	寸法 (cm)				備考
					長さ	幅	厚さ	重さ(g)	
B1	I区 A	淡灰茶色粘質土層	骨製品	棒状骨製品	2.45	0.6	0.6	1.61	棒状に直取りを施し端部とがらせる。

第39表 鉄器観察表

掲載No.	地区	土色	種別	器種	寸法 (cm)				備考
					全長	鋸身幅	鋸部長	重さ(g)	
F1	I区 A	茶灰色粘質土層下層	鉄器	鉄鋸	12.3	4.7	4.8	28.42	二又鋸。柄抜けし。

第40表 木製品観察表

標識No.	地区	産種	土色	木分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱頭形式	節目の 有無
81	1区 B	〔注:不明産種〕		管胞	植物	浸染材	節が深い	管胞 5.0~	管胞 4.2~	管胞 7.8			
82	1区 A		褐色色土層	管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 4.2~	管胞 3.1~	管胞 6.6			
83	1区 A			管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 4.0~	管胞 4.0~				
84	1区 A		褐色色粘質土層	管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 2.0~	管胞 6.2~	管胞 7.8			
85	1区 A			管胞	植物	浸染材	節が深い	管胞 6.2~	管胞 7.8	管胞 7.8			
86	1区 A		褐色色砂土層	管胞	植物	浸染材		管胞 1.05~	管胞 4.8	管胞 4.8			
87	1区 B	P240		管胞	植物	浸染材		管胞 13.8	管胞 6.55	管胞 7.1			
88	1区 A			管胞	植物	浸染材	節が深い	管胞 16.8	管胞 6.05	管胞 8.7			
89	1区 A		茶灰色粘質土層	管胞	植物	浸染材		管胞 16.4	管胞 4.8~	管胞 4.8~			
90	1区 A		褐色色粘質土層	管胞	植物	浸染材		管胞 19.0	管胞 6.7~	管胞 6.7~			
91	1区 A			管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 1.85~	管胞 3.4~	管胞 9.2			
92	1区 B	〔注:不明産種〕		管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 3.4~	管胞 5.4	管胞 5.4			
93	1区 A			管胞	植物	浸染材	管胞	管胞 18.8	管胞 4.0~	管胞 4.0~			
94	1区 A			管胞	植物	浸染材	管胞	管胞 18.2	管胞 4.1~	管胞 4.1~			
95	1区 A			管胞	植物	浸染材	節が深い	管胞 2.2~	管胞 7.8	管胞 7.8			
96	1区 A		褐色色粘質土層	管胞	植物	浸染材	厚皮	管胞 2.2~	管胞 5.9	管胞 5.9			
97	1区 A			管胞	植物	浸染材		管胞 1.5~	管胞 6.4	管胞 6.4			
98	1区 A		褐色色粘質土層 (砂中砂土層)	管胞	植物	浸染材	管胞付く	管胞 2.6~	管胞 6.4	管胞 6.4			
99	1区 A		褐色色粘質土層	管胞	植物	浸染材		管胞 2.2~	管胞 8.2	管胞 8.2			
990	1区 A			管胞	植物	浸染材		管胞 1.5~	管胞 8.75	管胞 8.75			

製造地	地区	選種	土色	大分種	中分種	小分種	特徴	長さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考	柱形形式	根元の 有無
855	1区 A		青灰色土層	不明品	棒状農具	その他	その他	25.3	2.0	1.95	根節硬化。		
856	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	その他	15.35~	2.3	1.15			
857	1区 A		褐色色粘質土層上層	不明品	棒状農具	青灰質	根節硬化	25.3	1.0	0.9			
858	1区 A		青灰色砂し牛糞土層	不明品	棒状農具	赤灰質	赤土層	6.3~	1.1	0.8			
859	1区 A		赤色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	その他	14.5~	1.2	0.7			
860	1区 A		青灰色砂し牛糞	不明品	棒状農具	赤土層	赤土層	11.9~	1.0	0.9			
861	1区 A		青灰色土層	不明品	棒状農具	その他	その他	16.2~	1.35	1.3			
862	1区 A		青灰色土層	不明品	棒状農具	その他	その他	41.3	2.9	0.8			
863	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	26.8	4.25	3.7			
864	1区 A			不明品	棒状農具	赤土層	赤土層	19.9~	3.2	1.25			
865	1区 A			不明品	棒状農具	赤土層	赤土層	19.5~	3.5	1.7			
866	1区 A		青灰色砂し牛糞土層	不明品	棒状農具	赤土層	赤土層	20.4~	4.2	1.5			
867	1区 A			不明品	棒状農具	赤土層	赤土層	20.4~	4.2	1.5			
868	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	その他	10.8	1.9	1.8			
869	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	その他	10.35	2.0~	2.3	は2.5の厚の可能種。		
870	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	青灰質	中心に赤灰、周囲5分には褐色が混る	10.25	9.0	0.8			
871	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	青灰質	根節硬化り層とし	9.8	4.2	0.8			
872	1区 A		青灰色砂し牛糞土層	不明品	棒状農具	青灰質	根節硬化り層とし	6.8	4.9	0.55			
873	1区 A			不明品	棒状農具	その他	2.5の厚り層とし	29.8	5.6	0.25			
874	1区 A		赤土層	不明品	棒状農具	その他	その他	33.4	4.1	0.6			
875	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	根節硬化り層とし	35.9	18.35~	1.3			
876	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	その他	14.25~	5.1	0.55			
877	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	赤土層	14.6	3.9	0.65			
878	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	根節硬化り層とし	9.3	4.3	0.5			
879	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	その他	根節硬化り層とし	12.8	4.8	0.7			
880	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	12.8	4.8	0.7			
881	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	8.9~	3.5	0.4			
882	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	10.4~	2.9	0.4			
883	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	12.75	3.75	0.55			
884	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	16.0	3.7	0.65			
885	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	13.0~	3.1	0.6			
886	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	10.2~	1.85	0.3			
887	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	11.1~	1.85	0.3			
888	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	9.55	3.75	0.55			
889	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	7.10~	2.85	0.4			
890	1区 A		褐色色砂し牛糞	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	16.8~	5.65~	0.6			
891	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	13.0~	1.1~	0.6			
892	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	12.8	3.85	1.0	木釘が混る。		
893	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	7.7	3.8	0.9			
894	1区 A		褐色色粘質土層	不明品	棒状農具	赤土層	根節硬化り層とし	4.4	3.15	0.55			

種類名	地区	通稱	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱組形式	地区の 有無
K172	1区 A		褐色包垢質土層	不明品	板状土	その他		62.8	5.55	1.3			
K174	1区 A		褐色包垢質土層	不明品	板状土	その他		62.5	5.3	1.3			
K175	1区 A		褐色包垢質土層	不明品	板状土	その他		62.5	10.8	1.95			
K176	1区 B P106		不明品	不明品	その他		31.5	8.6	3.95				
K177	1区 B P106		不明品	不明品	その他		30.7	21.15	5.15				
K178	1区 A		褐色包垢質土層	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	38.3	8.19	4.3			
K179	1区 A		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	18.46	1.15	0.75			
K180	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	20.2~	1.0	0.75			
K181	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	18.8	2.1	1.95			
K182	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	23.25~	2.05	1.3			
K183	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	21.46	2.0	1.5			
K184	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	20.46~	2.9	0.85			
K185	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	12.15~	9.7	2.45			
K186	1区 D P182		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	6.6	3.75	1.8			
K187	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	4.6	4.0	1.15			
K188	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	5.9	3.06	1.1			
K189	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	7.66	3.5	2.5			
K190	1区 E P122		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	4.1	3.7	2.25			
K191	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	5.8	3.45	1.0			
K192	1区 E P122		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	4.8~	2.7	0.65			
K193	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	32.1~	5.6	1.1			
K194	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	74.15	10.75	1.1			
K195	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	37.8~	7.1	1.8			
K196	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	34.2~	4.0	2.8			
K197	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	34.4	9.7	2.25			
K198	1区 D P193		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	12.66	6.25	3.8			
K199	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	15.9	14.25	6.4			
K200	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	7.4	6.4	3.6			
K201	1区 F		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	11.06	6.2	4.1			
K202	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	19.8	7.65	7.6			
K203	1区 F 土枕20		不明品	不明品	その他	赤/白板状	切り込み	64.1	6.75	0.8			
K204	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	35.0	6.25	4.4			
K205	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	38.5~	6.4	4.4			
K206	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	32.3~	7.6	5.3			
K207	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	52.2	5.1	3.0			
K208	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	28.4~	5.7	2.0			
K209	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	11.9~	5.85	2.05			
K210	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	20.8	3.4	1.9			
K211	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	38.1~	7.15	3.7			
K212	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	27.3	3.2	2.7			
K213	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	21.6~	7.9	3.1			
K214	1区 A		褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	褐色包垢質土層	51.5~	6.7	4.4			

植物名	科名	種類	土色	木分類	中分類	小分類	特徴	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	柱頭形式	根元の 特徴
樹15	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	28-6~	5.0	4.9			
樹16	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	28-1~	4.6	4.6			
樹17	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	32-15~	3.0	2.8	根化		
樹18	1区 A				植	半灌木本植	375高切り草丈上	10.2~	3.6	2.15			
樹19	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	5.8	2.7	1.9	4.9		
樹20	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	32.5~	5.4	3.0	半根		
樹21	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	34.0~	2.9	2.4	根化		
樹22	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	31.2~	6.1	3.0	半根		
樹23	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	22.6~	5.35	2.0	半根		
樹24	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	20.3~	5.0	2.8	半根		
樹25	1区 A				植	木本植	675高切り草丈上	20.5~	5.4	3.3	1根化		
樹26	1区 A				植	木本植	475高切り草丈上	32.7~	6.6	3.2	根化		
樹27	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	24.0~	5.4	2.9	半根		
樹28	1区 A				植	半灌木本植	375高切り草丈上	28.6~	2.7	1.2	1根化		
樹29	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	30.0~	5.5	2.2			
樹30	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	42.5~	5.2	2.3	半根		
樹31	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	64.5	5.6	3.8	275高切り草丈上		
樹32	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	68.0~	5.2	3.8			
樹33	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	44.0	4.2	2.8			
樹34	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	51.5~	5.5	3.0	少草丈加工		
樹35	1区 A				植	木本植	樹入植	41.8	3.9	3.8			
樹36	1区 A				植	木本植	樹入植	37.35	4.1	3.75	樹根		
樹37	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	52.4	3.4	2.6	樹根		
樹38	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	47.3~	5.5	5.25	根		
樹39	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	42.8~	7.0	3.15			
樹40	1区 A				植	木本植	275高切り草丈上	41.7	3.4	2.4			
樹41	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	51.6	5.85	4.8			
樹42	1区 A				植	木本植	375高切り草丈上	41.5~	3.05	2.8			
樹43	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	66.9	3.2	2.8			
樹44	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	10.7	1.5	1.26			
樹45	1区 A				植	木本植	475高切り草丈上	38.6~	5.9	3.1			
樹46	1区 A				植	木本植	575高切り草丈上	29.5~	5.6	5.7			
樹47	1区 A				植	木本植	475高切り草丈上	29.0~	4.9	4.4			
樹48	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	24.3~	4.3	3.3	根化		
樹49	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	29.1~	3.6	3.2			
樹50	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	33.4	3.6	2.7			
樹51	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	27.6	4.2	3.5	根化		
樹52	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	33.4	3.3	2.8	根化		
樹53	1区 A				植	木本植	475高切り草丈上	23.7~	4.2	2.85			
樹54	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	18.7~	3.3	3.0			
樹55	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	15.1	3.0~	3.0			
樹56	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	16.3~	3.9	3.2			
樹57	1区 A				植	木本植	175高切り草丈上	18.0~	2.5	2.4			

材料名	地区	通稱	土色	大分類	中分類	小分類	特徴	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考	仕組形式	自重の 単位
K058	1区 A			砕石	砕	丸木杭	225角切り溝とシ	29.7	3.8	2.95			
K059	1区 1A		褐色色粘質土層	砕石	砕	丸木杭		65.5	6.4	5.7			
K060	1区 1A			砕石	砕	丸木杭	225角切り溝とシ	60.1	5.5	4.8			
K061	1区 A			砕石	砕	丸木杭	175角切り溝とシ	65.6	3.4	3.1			
K062	1区 A			砕石	砕	丸木杭	425角切り溝とシ	88.5	4.1	2.9			
K063	1区 A			砕石	砕	丸木杭		80.6	3.0	2.6			
K064	1区 A			不物品		角鉄骨							
K065	1区 A					丸木杭	225角切り溝とシ	12.6	1.5	1.3			
K066	1区 A					丸木杭	175角切り溝とシ	21.3	3.3	2.4			
K067	1区 A		灰色粘質土層	砕石	砕	丸木杭	225角切り溝とシ	28.9	3.9	2.6			
K068	1区 A			砕石	砕	丸木杭	325角切り溝とシ	35.9	3.0	2.9			
K069	1区 A			砕石	砕	丸木杭	375角切り溝とシ	17.5	2.5	2.1			
K070	1区 A			砕石	砕	丸木杭	175角切り溝とシ	34.0	4.6	2.1			
K071	1区 A			砕石	砕	丸木杭	425角切り溝とシ	32.0	2.5	2.5			
K072	1区 A			不物品		角鉄骨		43.9	3.0	2.6			
K073	1区 A		褐色色土層	砕石	砕	丸木杭	225角切り溝とシ	32.0	2.5	2.5			
K074	1区 3	P143		砕石	砕	丸木杭	225角切り溝とシ	19.4	17.0	3.6			
K075	1区 3	建築09 P2		建築部材	建築部材	その他		46.5	13.6	12.3			
K076	1区 3			建築部材	建築部材	その他		20.5	13.25	11.2			
K077	1区 3	P134		建築部材	建築部材	その他		44.65	16.15	14.5			
K078	1区 3	P134		建築部材	建築部材	その他		40.6	18.1	18.4			
K079	1区 3	P134		建築部材	建築部材	その他		47.3	12.3	9.5			
K080	1区 3	P134		建築部材	建築部材	その他		31.2	12.65	11.1			
K081	1区 3	建築09 P1		建築部材	建築部材	その他		22.3	15.7	12.4			
K082	1区 3	P132		建築部材	建築部材	その他		20.2	20.15	14.0			
K083	1区 3	P132		建築部材	建築部材	その他		46.5	15.4	13.1			
K084	1区 3	P132		建築部材	建築部材	その他		21.4	20.7	16.4			
K085	1区 3	建築09 P2		建築部材	建築部材	その他		19.1	17.05	12.1			
K086	1区 3	建築09 P2		建築部材	建築部材	その他		34.75	13.05	10.75			
K087	1区 3	P137		建築部材	建築部材	その他		48.55	16.4	13.65			
K088	1区 3	P137		建築部材	建築部材	その他		45.1	19.2	14.5			
K089	1区 3	P137		建築部材	建築部材	その他		38.05	25.6	26.4			
K090	1区 3	P137		建築部材	建築部材	その他		32.4	12.05	8.4			

第1表 谷計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
-	等高線に直交する直線系		1,445.00	132.00	279.00	N-38.5° -E	
			82.00~	550.00~			

第2表 焼土面計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
-	帯状堆積		265.00~	47.00~	70.00	N-20.3° -E	
			-	-			

第3表 炭化面計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
-	不整形		295.50~	112.50~	28.00	N-20.3° -E	
			-	-			

第4表 土器溜計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	不整形		335.00	210.00	-	N-50.6° -E	土師器 須恵器
02			348.00	190.00			

第5表 溝計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	等高線に直交した浅い字形		452.00	84.00	13.00	N-60.7° -E	
			140.00	36.00			

第6表 ビット計測表

報告番号	平面形	上面 底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
			長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	円形		56.00	48.00	40.00	N-86.7° -E	
			46.00	40.00			
02	楕円形		38.00	20.00	26.00	N-71.6° -E	
			24.00	12.00			

第7表 遺物観察表

花巻	地区	通稱	土色	種類	調様	寸法 (cm)			種類	内面	外面	断面	胎土	気味	付代	備考	
						口径	最大径	底径									
1			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.4	12.9~		1次	2次	3次		褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	底面の気味不鮮、 口縁部外面入 行ず。
2			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.5	7.95~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
3			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	14.0	4.9~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	底面の気味不鮮、 口縁部外面入 行ず。
4			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.6	5.7~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
5			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	15.2	6.2~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
6			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.2	9.0~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
7			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	18.1	5.8~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
8			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.8	20.5~	23.6					褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
9			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	24.0	3.7~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
10			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	19.3	2.26~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
11			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	25.2	4.9~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
12			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	12.6	5.3~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
13			黄色粘土・黄褐色の層 赤土の層(下層に存在) 赤土の層(上層に存在)	土師器	小皿蓋		6.3~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	外面気味不鮮、 口縁部外面入 行ず。
14			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	19.4	5.6~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	底面の気味不鮮、 口縁部外面入 行ず。
15			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	17.6	7.5~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
16			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	19.6	16.6~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
17			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	14.4	7.4~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
18			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	16.5	6.5~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
19			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	19.9	29.8	26.0					褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
20			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	18.0	11.9~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
21			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	13.9	7.65~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
22			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	20.6	6.1~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
23			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	15.8	7.1~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
24			褐色粘質土層	土師器	小皿蓋	10.2	12.5	12.55					褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
25			褐色粘質土層	土師器	小皿蓋		7.5~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
26			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	10.4	4.65~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
27			褐色粘質土層	土師器	楕圓口蓋	12.9	3.5~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
28			褐色粘質土層	土師器	平	11.8	3.7~	12.0					褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。
29			褐色粘質土層	土師器	小皿蓋	8.8	3.4~						褐色	褐色	褐色	やや不貞 古銅色調	口縁部外面入 行ず。

植号	地区	遺構	土色	種類	特徴	口徑	高さ	直径	深さ	用途	1次	2次	3次	種類	内径	色調	附土	構成	時代	備考
30		H2/1	褐色粘土層	土層	遺し付		10.2~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
31		H2/1	褐色粘土層	土層	遺し付	4.0	2.6	4.5							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	中の溝、断面斜り。
32		H2/1	褐色粘土層	土層	灰	14.0	6.6~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
33		H2/1	褐色土層	土層	灰		1.15~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
34		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		7.5~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
35		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		4.5~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
36		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		4.3~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
37		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		5.2								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
38		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		12.6	5.0~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
39		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		8.8	7.6~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
40		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.5~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
41		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.45~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
42		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.8~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
43		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.5~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
44		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.1~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
45		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.2~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
46		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.3~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
47		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.8~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
48		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		1.15~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
49		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.55~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
50		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.5~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
51		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.6~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
52		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		9.9	3.2~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
53		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.6~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
54		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.7~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
55		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.4~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
56		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		2.15~								褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
57		A	褐色粘土層	土層	灰		15.4	5.6~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
58		A	褐色粘土層	土層	灰		15.3	8.7~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
59		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		18.6	7.4~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
60		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		20.4	6.1~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
61		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		18.8	17.6~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
62		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		16.6	5.7~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	
63		H2/1	褐色粘土層	土層	灰		18.0	5.8~							褐色	褐色	土質の硬い層	やや不良	古墳前期	

現産	地区	産種	土色	種類	器種	口径	標準	最大径	面積	1次	2次	3次	特徴	色調	胎土	焼成	時代	備考
64		11221	硬質粘土層(成谷石)	土師器	壺形口蓋	15.9	7.7~			1次				内面	硬質	良好	古銅期	
65		11217	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	13.8	7.6~			1次			口縁上部にク リ線	灰色	硬質	良好	古銅期	
66		11218	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	12.6	9.35~			1次			内面	灰色	硬質	良好	古銅期	
67		11219	粘土層	土師器	壺形口蓋	17.6	7.9~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
68		11220	粘土層	土師器	壺形口蓋	18.9	4.0~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
69		11221	灰色粘土層 (灰化物多(成谷))	土師器	壺形口蓋	15.7	6.0~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
70		11222	粘土層	土師器	壺形口蓋	15.2	4.55~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
71		11223	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	19.8	8.5~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
72		11224	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	17.6	4.3~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
73		11225	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	15.4	4.3~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
74		11226	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	17.0	3.9~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
75		11227	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	14.4	3.5~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
76		11228	粘土層	土師器	壺形口蓋	18.0	6.9~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
77		11229	粘土層	土師器	壺形口蓋	17.0	8.35~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
78		11230	粘土層	土師器	壺形口蓋	19.2	5.4~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
79		11231	粘土層	土師器	壺形口蓋	18.0	5.6~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
80		11232	粘土層	土師器	壺形口蓋	21.0	4.55~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
81		11233	粘土層	土師器	壺形口蓋	17.0	6.65~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
82		11234	粘土層	土師器	壺形口蓋	20.1	6.3~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
83		11235	粘土層	土師器	壺形口蓋	17.3	4.7~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
84		11236	粘土層	土師器	壺形口蓋	15.5	4.55~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
85		11237	粘土層	土師器	壺形口蓋	16.8	4.4~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
86		11238	粘土層	土師器	壺形口蓋	16.0	4.1~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
87		11239	粘土層	土師器	壺形口蓋	10.0	14.0			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
88		11240	粘土層	土師器	壺形口蓋	12.5	5.6~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
89		11241	粘土層	土師器	壺形口蓋	7.25	3.9~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
90		11242	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	12.5	6.35~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
91		11243	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	13.0	3.6~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
92		11244	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	16.7	3.4~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
93		11245	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	16.1	4.1~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
94		11246	灰色粘土層	土師器	壺形口蓋	16.1	4.1~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	
95		11247	粘土層	土師器	壺形口蓋	16.1	4.1~			1次			内面	褐色	硬質	良好	古銅期	

編制	地区	遺構	土色	種類	管径	口径	高さ	最大径	長さ	1次	2次	3次	特徴	穴掘	色別	断面	出土	構成	時代	備考
96	I	C	黄灰色粘土層 (小片を含む)	土砂層	縦口調整	16.3	5.6~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期	
97	I	C	暗茶色粘土層	土砂層	縦口調整	19.5	4.5~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	やや中、1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	
98	E	A	灰黄色粘土層	土砂層	縦口調整	24.0	4.2~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	やや中、1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期	外側に土が付着。
99	I	A	砂しき層	土砂層	縦口調整	17.5	5.0~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	
100	I	C	茶黄色粘土層	土砂層	縦口調整	18.6	5.0~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	
101	II	A	灰黄色粘土層	土砂層	縦口調整	16.5	8.0~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	
102	I	A	粘土	土砂層	縦口調整	14.3	3.2~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	不良	古墳	
103	I	A	砂しき層	土砂層	縦口調整	25.1	4.35~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		穴掘	赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期	裏面に「1」の字が ある。
104	I	A	土砂層	土砂層	鉄	15.8	12.4	16.6	8.65					穴掘は丁寧に 掘る。	赤褐色	赤褐色		やや不良	古墳前期	
105	I	C	灰褐色 土質の砂利を伴う土層	土砂層	鉄	15.3	2.4~							赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
106	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	13.6	5.1~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
107	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	12.5	4.0~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
108	II	A	灰黄色粘土層	土砂層	鉄	18.8	4.25~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
109	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	19.5	6.3~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
110	I	A	灰黄色粘土層 (灰化層多く含む)	土砂層	鉄	14.4	3.7~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	灰化の気配が不明。 穴掘良好。	
111	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	15.3	2.8~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
112	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	19.0	6.1~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
113	I	A	土砂層 (灰黄色粘土層を含む)	土砂層	鉄	18.6	3.6~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
114	I	A	土砂層 (灰黄色粘土層を含む)	土砂層	鉄	17.9	4.2~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期	外側に彫刻。	
115	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	15.4	5.3~			ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
116	I	A	土砂層	土砂層	鉄	10.8				ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
117	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	3.55~				ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
118	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	12.8				ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
119	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	9.3				ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
120	I	A	砂しき層	土砂層	鉄	7.95~				ココナシ	ココナシ	ココナシ		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
121	I	C	灰黄色粘土層	土砂層	土板調整	高さ: 10.7~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
122	I	C	灰黄色粘土層	土砂層	土板調整	高さ: 12.5~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	やや不良	古墳前期		
123	I	C	粘土	土砂層	土板調整	高さ: 7.8~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
124			明灰色粘土層 (灰を含む)	土砂層	土板調整	高さ: 10.7~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
125	II	A	灰黄色粘土層	土砂層	土板調整	高さ: 10.35~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		
126	I	A	土砂層	土砂層	土板調整	高さ: 25.1 9.25~				手掘	手掘	手掘		赤褐色	赤褐色	土質の砂利を 含む。1m以下での砂 を伴う。	良好	古墳前期		

院名	地区	通稱	土色	種類	面積	口徑	高さ (cm)	直径 (cm)	構造	1次	2次	3次	神域	色類	方位	開基	出土	傾斜	時代	備考
127	1	A	土曜型	せしき層	土曜型	24.5	7.8~													
128	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		10.1~													
129	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		7.55~	33.3												
130	1	C	土曜型	せしき層	土曜型		2.4~													
131	1	B	土曜型	せしき層	土曜型		6.35~	34.1												
132	1	C	土曜型	せしき層	土曜型		4.7~	31.25												
133	1	C	土曜型	せしき層	土曜型		4.2~	33.3												
134	E	土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		25.25													
135	1	B	土曜型	せしき層	土曜型		3.9~													
136		土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		4.55~	34.4												
137		土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		22.2	28.0	30.7	30.5	30.3ナ									
138	2	土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		13.9~													
139	3	土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		8.0~													
140	2	土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		5.7~	24.8	24.6											
141	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		4.45~	23.2	23.0											
142	1	C	土曜型	せしき層	土曜型		3.8	13.8	13.8	12.2	12.2									
143	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		4.4~	12.4	14.8	14.8	14.8									
144	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		8.1	3.6	14.9	14.8	14.8									
145	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		5.6	3.4	11.6	11.5	11.5									
146	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		1.25~													
147	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		2.0~													
148	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		9.8	5.0	12.3											
149	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		11.1	3.25~	13.0											
150	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		3.6~	13.9												
151	3	土曜型	せしき層	土曜型	土曜型		13.1	4.3~	16.0											
152	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		15.0	4.9	15.3	5.7	15.3									
153	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		1.55~													
154	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		3.61~	11.7	14.2	10.0	10.0									
155	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		8.51~													
156	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		14.5	3.8~	14.6											
157	1	C	土曜型	せしき層	土曜型		12.2	2.7~												
158	1	A	土曜型	せしき層	土曜型		5.8~		10.3	10.3	10.3									

国産	増産	産地	土色	種類	穀類	口積	粒重	最大粒	容積	原産	1次	2次	3次	特徴	内産	外国	販出	販入	原土	産感	時代	備考
139	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	6.55~			同紐子字	1次	2次		同紐子字	乳白色	乳白色	乳白色		要、hantvの粘土層	不良	古墳前期	
140	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	5.3~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
141	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	5.3~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
142	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.65~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	不良	古墳前期	
143	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	5.1~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
144	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.55~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
145	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.4~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
146	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	2.3~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
147	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	12.8	4.6~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
148	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	12.0	5.3~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
149	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	3.25~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
149	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.4~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
170	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.8~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
171	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	2.4~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
172	II	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	13.0~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
173	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	11.25~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
174	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	9.7~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
175	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	10.7	4.2~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
176	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.5	13.5~	15.2	同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
177	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.25~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
178	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	4.8~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
179	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	16.6	3.5~		同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
180	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	16.2	2.2~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
181	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	2.55~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
182	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	41.7	5.65~		同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
183	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	17.4	3.3~		同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
184	II	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	5.5~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
185	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	12.3~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
186	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	12.8	4.25~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
187	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	3.65~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
188	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	11.5	3.9~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
189	I	C	赤色粘質土層	須恵器	高坪	2.0~				同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	
190	I	A	土色(1)	赤色粘質土層	須恵器	高坪	6.8~			同紐子字				同紐子字	赤褐色	赤褐色	赤褐色		要、hantvの粘土層	良好	古墳前期	

地区	通称	土色	類別	産地	口径	高さ	口径×高さ	重さ	1次	2次	3次	特徴	内面	外面	胎土	積成	時代	備考
191	I A	土曜型 灰色短口土層 (砂心筒状土層)	須磨型	須磨	24.7	52.4	47.6			内・同心 外・同心	外・平行	口縁縁部二重 生群?	淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	外口外、青白磁 群。
192	I A	土曜型 砂心土層	須磨型	須磨	55.4	61.2				内・同心 外・同心	外・平行		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
193	I B	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	2.8					凹紐子字			淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
194	I A	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	3.6					内・同心 外・同心	外・平行		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
195	I A	須磨型 砂心土層	須磨型	須磨	13.7					内・同心 外・同心	外・平行		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
196	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	5.55					凹紐子字の 変形文	内・同心 外・同心	有刻付系 折片一組?	淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
197	I C	不明 褐色色短口土層	不明	不明	19.4	2.1				凹紐子字			淡灰色	淡灰色	灰	不明	古墳前期	
198	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	11.0	9.0	9.2			生群横目 夕夕キ	外・同心		褐色	褐色	灰	不明	古墳前期	
199	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	7.15	7.1	7.15			夕夕キ	外・同心		褐色	褐色	灰	不明	古墳前期	
200	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	7.3	7.3	2.15			夕夕キ	外・同心		褐色	褐色	灰	不明	古墳前期	
201	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	6.05	6.7	2.1			夕夕キ	外・同心		褐色	褐色	灰	不明	古墳前期	
202	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	11.8	9.6	2.65			内・横方 斜の夕夕キ	外・横方 斜の夕夕キ		褐色	褐色	灰	不明	古墳前期	
203	I A	土曜型 褐色色短口土層 (砂心筒状土層)	須磨型	須磨	27.3	4.9				夕夕キ			淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
204	I A	土曜型 砂心土層	須磨型	須磨	1.45					5.8 凹紐子字	凹紐子字		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
205	I A	土曜型 砂心土層	須磨型	須磨	17.05	2.0				7.6 凹紐子字	凹紐子字		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
206	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	2.0					5.95 凹紐子字	凹紐子字		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
207	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	1.65					8.2			淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
208	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	1.45					5.7			淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
209	I B	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	2.4					5.6			淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
210	I B	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	10.0	1.7							淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
211	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	3.05								淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
212	I C	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	4.3								淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	
213	I B	須磨型 褐色色短口土層	須磨型	須磨	3.1					16.6 凹紐子字	凹紐子字		淡灰色	淡灰色	灰	良好	古墳前期	

第8表 木製品類表

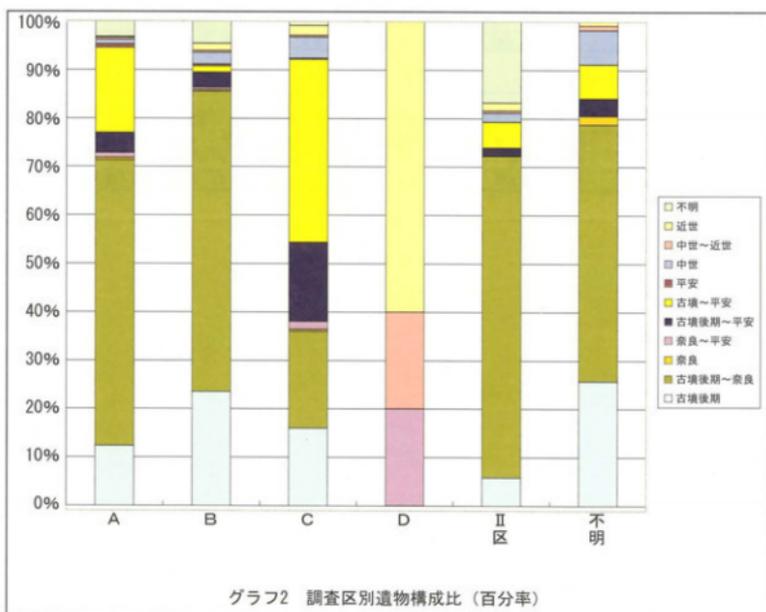
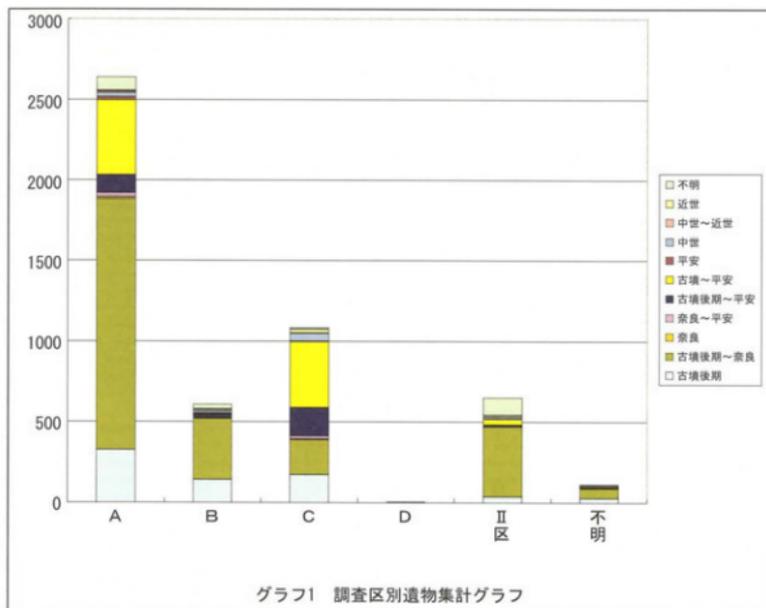
地区	通称	土色	類別	産地	口径	高さ	口径×高さ	重さ	1次	2次	3次	特徴	内	外	備考
91	I A	褐色色短口土層	木製品	須磨	2.9							溝い溝り、環形切跡。	黒漆	黒漆	低い台を持つ。
92	I B	褐色色短口土層	木製品	須磨	5.65	2.4		0.3				溝い溝り、環形切跡。	黒漆	黒漆	低い台を持つ。
93	I C	褐色色短口土層	木製品	須磨	9.6	3.35		0.7				知母灰に形成、折片有り。			
94	I B	褐色色短口土層	木製品	須磨	21.9	6.75		1.8				左腕状に加工。			環形切跡。

第9表 羽代前田遺跡出土遺物分類表

時代	時期	種別	I区				I区合計	II区合計	試掘合計	総計	
			A	B	C	D 不明					
縄文	弥生後期～古墳後期	石器		2	3		5		1	6	
		土師器	1				1			1	
古墳	中期	土師器	1				1			1	
		土師器	4				4			4	
古墳	後期	土師器	17	2	15		35	9		44	
		須恵器	308	141	158		607	29	28	664	
古墳後期～奈良		土師器	1,594	378	301		2,297	467	43	2,807	
		須恵器	110	19	176		305	11	4	320	
奈良		須恵器	12	2	4		18		2	20	
奈良～平安		須恵器	26	3	18	1	48			48	
古墳～平安		土師器	429	7	325		762			762	
平安		土師器	11		1		12			12	
		須恵器	7	2	1		10			10	
平安～中世		瓦			1		1			1	
		須恵器	1		1		2			2	
平安～中世		陶器		1			1			1	
		瓦			1		1			1	
中世		土器			1		1			1	
		土師器	19	14	43		79	7	3	89	
中世		須恵器				3	0	4	2	6	
		磁器	6	1	3		10	1		11	
中世～近世		磁器	1		1		2			2	
		瓦器					0	2	1	3	
中世～近世		瓦			1		1			1	
		不明	10	1	2	1	14	1		15	
近世		土器			3		4			4	
		瓦器	5	9	14	3	31	11		42	
近世		不明			5		5			5	
		石器	2				2	1		3	
不明		土器	10	19	1		30	16		46	
		土師器	24		1		25			25	
不明		須恵器	45	8			53	17		70	
		製鉄遺物	2		7		9	75		84	
不明		自然物		1			1			1	
		不明	2				2			2	
総計			2,646	611	1,087	5	30	4,379	651	84	5,114

第10表 製鉄関連遺物観察表

捕獲No.	地区	土色	種別	器種	寸法 (cm)			備考		
					長さ	幅	厚さ			
11	I	B	橙茶色粘質土層	鉄滓	流動滓	4.1	4.2	3.05	44.80	メタル度高い。
12	I	C	灰茶色砂質層	鉄滓	流動滓	10.6	3.6	7.2	678.00	
13	I	C (西側)	淡灰色粘質土層	鉄滓	流動滓	5.4	3.6	2.0	34.64	激しく風化している。



第11表 各時代における器種一覧表

時代	種別	器種	合計		
縄文	黒曜石	核	1		
		磨製石鏃	2		
	石器	石鏃	1		
		石鏃	1		
弥生後期～古墳後期	土師器	甕	1		
		高坏	4		
古墳中期	土師器	甕	25		
		高坏	17		
		不明	33		
		坏	7		
		甕	25		
		坏若しくは甕	26		
		甕	2		
		甕	461		
		甕若しくは壺	2		
		不明	107		
古墳後期	須恵器	坏	62		
		小型甕	14		
		甕	1		
		甕	321		
		甕若しくは壺	907		
		移動式カマド	125		
		甕	42		
		土製支脚	12		
		不明	1,323		
		五色土器	土師器	坏	1
				坏	14
				甕	1
				甕	12
		須恵器	土師器	甕	153
甕	1				
不明	136				
坏(臺台付)	12				
奈良	須恵器	甕	4		
		木タン状つまみ付甕	2		
		輪状つまみ付甕	2		
		短頸甕	1		
		坏	8		
奈良～平安	須恵器	坏	1		
		坏若しくは壺	25		
		不明	14		

時代	種別	器種	合計
古墳～平安	土師器	甕	137
		不明	625
		坏	2
平安	土師器	不明	10
		坏	5
		甕	3
		不明	2
		平瓦	1
平安～中世	瓦	瓦	1
		瓦	2
		壺	1
古墳後期～中世	須恵器	不明	70
		土器	漆鉢
		土師器	坏
		不明	47
		漆鉢	42
		不明	3
		須恵器	甕若しくは壺
		不明	2
		不明	107
		不明	1
中世	白磁	坏	1
		合子	3
		不明	5
		坏	2
		青磁	1
中世～近世	青磁	不明	1
		瓦	1
		平瓦	1
		瓦質土器	不明
		不明	3
		不明	15
		土器	不明
土師器	不明		
近世	土器	実付	39
		脚器	2
		甕	1
		不明	2
		漆	3
		不明	46
		不明	1
不明	土師器	土師器	5
		土師器	1
		土師器	19
		製鉄遺物	84
		骨	1
合計	不明	不明	2
			5,114

第12表 石器観察表

掲載No.	地区	土色	種別	器種	長さ	寸法 (cm)			石材	備考
						幅	厚さ	重さ(g)		
S1	I B	橙茶色粘質土層	石器	石核	6.6	2.7	0.9	16.17	サヌカイト	風化の為調整不明瞭
S2	I B	橙茶色粘質土層 (青灰色土含む)	石器	石核	4.95	3.5	2.2	44.53	黒曜石	

第13表 骨製品観察表

掲載No.	地区	土色	種別	器種	寸法 (cm)			
					長さ	幅	厚さ	重さ(g)
B1	I B	橙茶色粘質土層	自然物	骨	4.9	3.1	1.85	8.67



第1図 江津市南部の遺跡 S = 1/40,000

第41表 江津市南部の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	所在地	時代	概要	備考
1	山根家墓地	古墳	桜江町 市山	古墳	近世墓地	
2	湯浅家墓地	古墳	桜江町 市山	古墳	畿内～江戸期	
3	阿刀城跡	城跡	跡市町 跡市	中世	郭	
4	たつ川城跡	城跡	跡市町 小原	中世		
5	城山城跡	城跡	桜江町 後山	中世	郭	
6	福田城跡	城跡	有福温泉町 本明	中世	郭、土塁、堀切	
7	草ノ城跡	城跡	金城町 今福	中世	郭、土塁	
8	鷹敷城跡	城跡	桜江町 長谷	中世		
9	市山城跡	城跡	桜江町 市山	中世	山城、削平地	
10	江尾城跡	城跡	桜江町 市山 江尾	中世	山城	
11	川上氏宅裏経塚	経塚	跡市町 徳田	中世	一字一石経	
12	仏峠遺跡	集石	跡市町 小原	近世		
13	沢津Ⅱ 鈔跡	製鉄遺跡	金城町 追原	近世		
14	沢津Ⅰ 鈔跡	製鉄遺跡	金城町 追原	近世		
15	福原鈔跡	製鉄遺跡	金城町 追原 福原	近世		
16	清見山崎鈔跡	製鉄遺跡	清見町	近世		
17	徳の谷鈔跡	製鉄遺跡	清見町 徳の谷	近世		
18	蛭田鉄穴跡	鉄穴跡	桜江町 長谷 蛭田	近世	天塚、溝、切羽	
19	山中鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 長谷 山中東	近世	鉄滓	
20	長谷鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 長谷 南郷谷	近世	鉄滓	
21	田尻鉄穴跡	鉄穴跡	桜江町 長谷 田尻	近世	洗池	大きく破壊
22	八戸Ⅱ 鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 八戸 八戸東	近世	鉄滓	
23	八戸鍛冶跡	鍛冶跡	桜江町 八戸 八戸東	近世	平組歯2	
24	八戸Ⅰ 鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 八戸 八戸東	近世	鉄滓	
25	鉦ヶ谷鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 後山 鉦ヶ谷	近世		一部破壊
26	下管畑鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 後山 下管畑	近世		
27	糸谷Ⅲ 鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 江尾	近世		
28	糸谷鍛冶跡	鍛冶跡	桜江町 江尾 糸谷	近世	金屋子神、鉄滓少々	
29	糸谷Ⅱ 鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 江尾	近世	鉄滓	
30	糸谷Ⅰ 鈔跡	製鉄遺跡	桜江町 江尾	近世	鉄滓	
31	鎌物師跡	生産遺跡	桜江町 市山	近世		
32	後山常光寺跡	寺院跡	桜江町 後山	—		
33	千手院跡	寺院跡	桜江町 市山	—		
34	市山常光寺跡	寺院跡	桜江町 市山	—		
35	醍醐院跡	寺院跡	桜江町 市山	—		
36	瀬三寺跡	寺院跡	桜江町 市山	—	仏像	
37	神宮寺跡	寺院跡	桜江町 市山	—	仏像	
38	宝珠寺跡	寺院跡	桜江町 市山 小市川	—	模札、古文書	
39	江尾常光寺跡	寺院跡	桜江町 江尾	—		
40	順誓寺跡	寺院跡	桜江町 江尾	—		
41	観音院跡	寺院跡	桜江町 江尾 観音	—		
42	香伝庵跡	寺院跡	桜江町 今田	—	延命地藏菩薩	
43	浜田三次往還	街道跡		近世	近世街道跡	
★	カミヤ遺跡	集落跡	跡市町 舞立	縄文～近世	須惠器、土師器、鉄滓、 炉壁、羽口、木製品、 中世陶磁器、石器	



第2図 カミヤ遺跡周辺の状況 S = 1/10,000



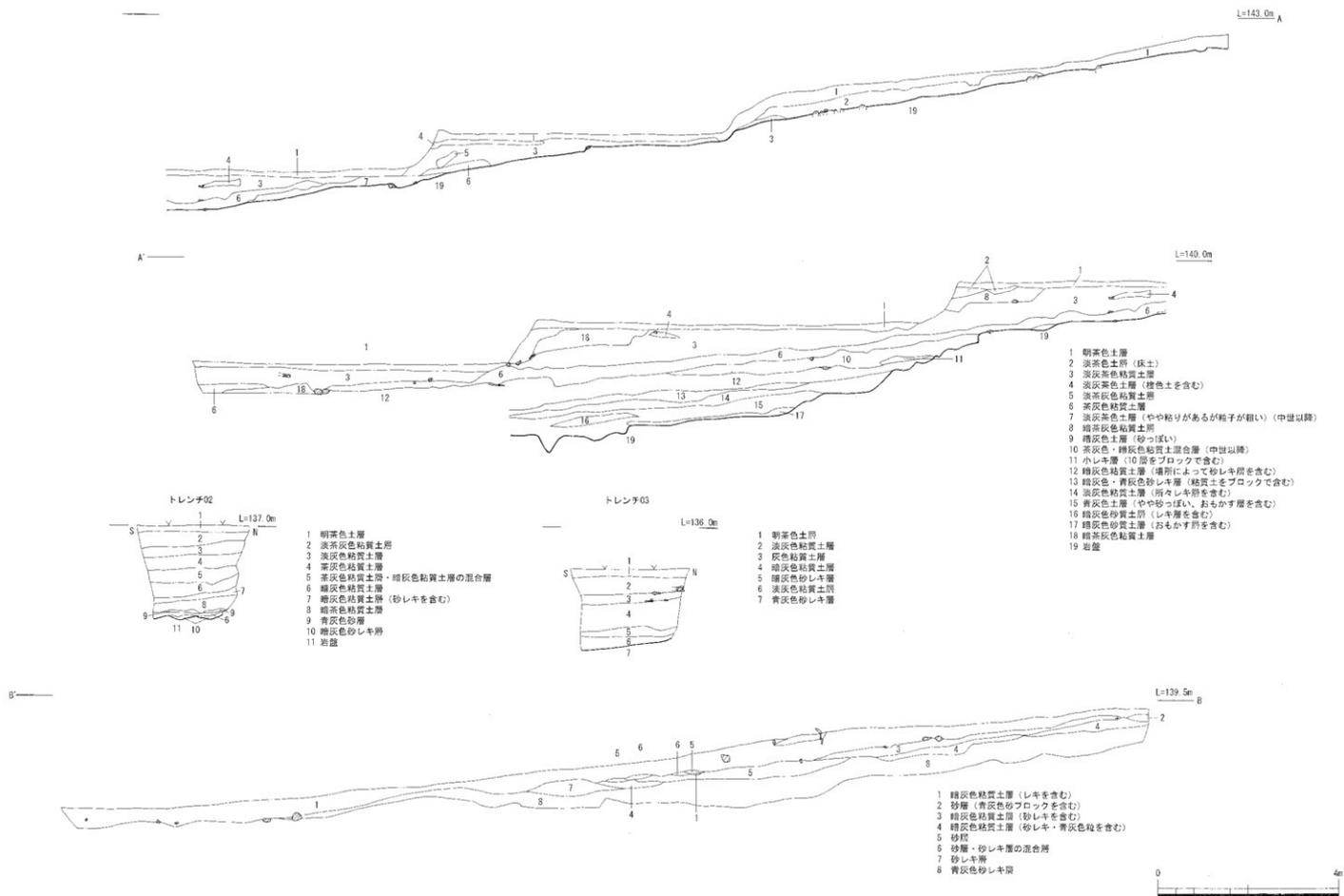
第3図 カミヤ遺跡調査区配置図 I区 (A~C) II区 (D~G) S=1/2,000



第4図 本調査及び確認調査範囲指定図 S = 1/600

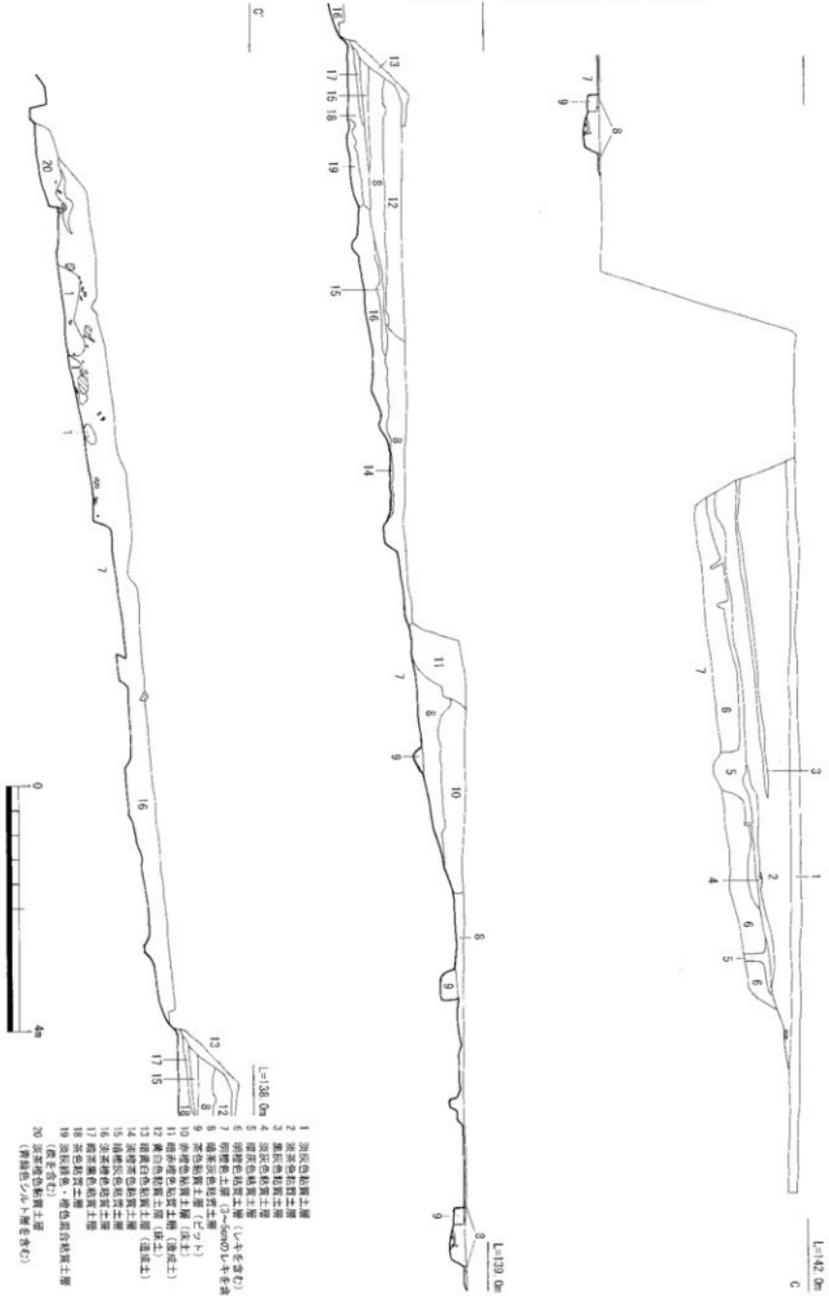


第5図 調査区全体図 S = 1/400

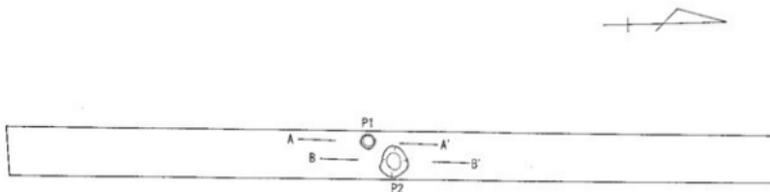


第6図 I区調査区土層図 S=1/80

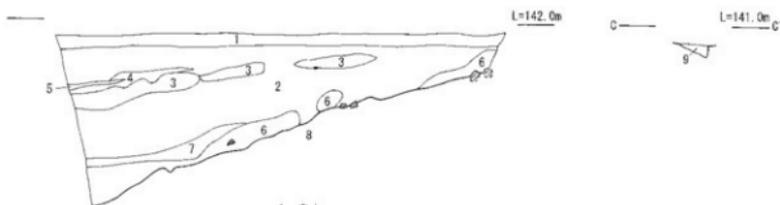
第7図 Ⅱ区調査区土層図 S=1/80



- 1 赤褐色粘質土層
- 2 黄褐色粘質土層
- 3 黄褐色粘質土層
- 4 赤褐色粘質土層
- 5 黄褐色粘質土層
- 6 黄褐色粘質土層 (シキ生草付)
- 7 黄褐色粘質土層 (シキ生草付)
- 8 黄褐色粘質土層 (シキ生草付)
- 9 黄褐色粘質土層 (シキ生草付)
- 10 赤褐色粘質土層 (赤土)
- 11 赤褐色粘質土層 (赤土)
- 12 黄褐色粘質土層 (黄土)
- 13 黄褐色粘質土層 (黄土)
- 14 黄褐色粘質土層
- 15 黄褐色粘質土層
- 16 赤褐色粘質土層
- 17 黄褐色粘質土層
- 18 赤褐色粘質土層
- 19 赤褐色粘質土層
- 20 赤褐色粘質土層 (黄褐色シルト層を伴む)



- 1 暗灰色粘質土層 (炭を含む)
- 2 褐色粘質土層
- 3 淡茶色粘質土層



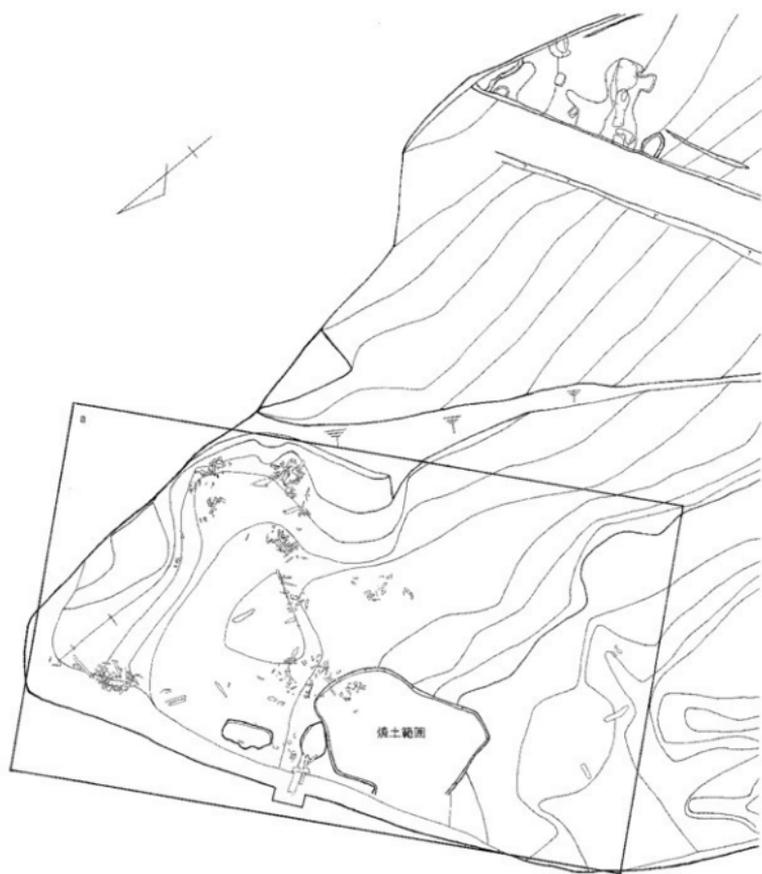
- 1 表土
- 2 淡茶色粘質土層
- 3 褐色土層
- 4 淡茶灰色土層
- 5 褐色L牛層
- 6 暗茶色粘質土層
- 7 褐色粘質土層
- 8 明黄茶色粘質土層 (地山)
- 9 暗灰茶色粘質土層



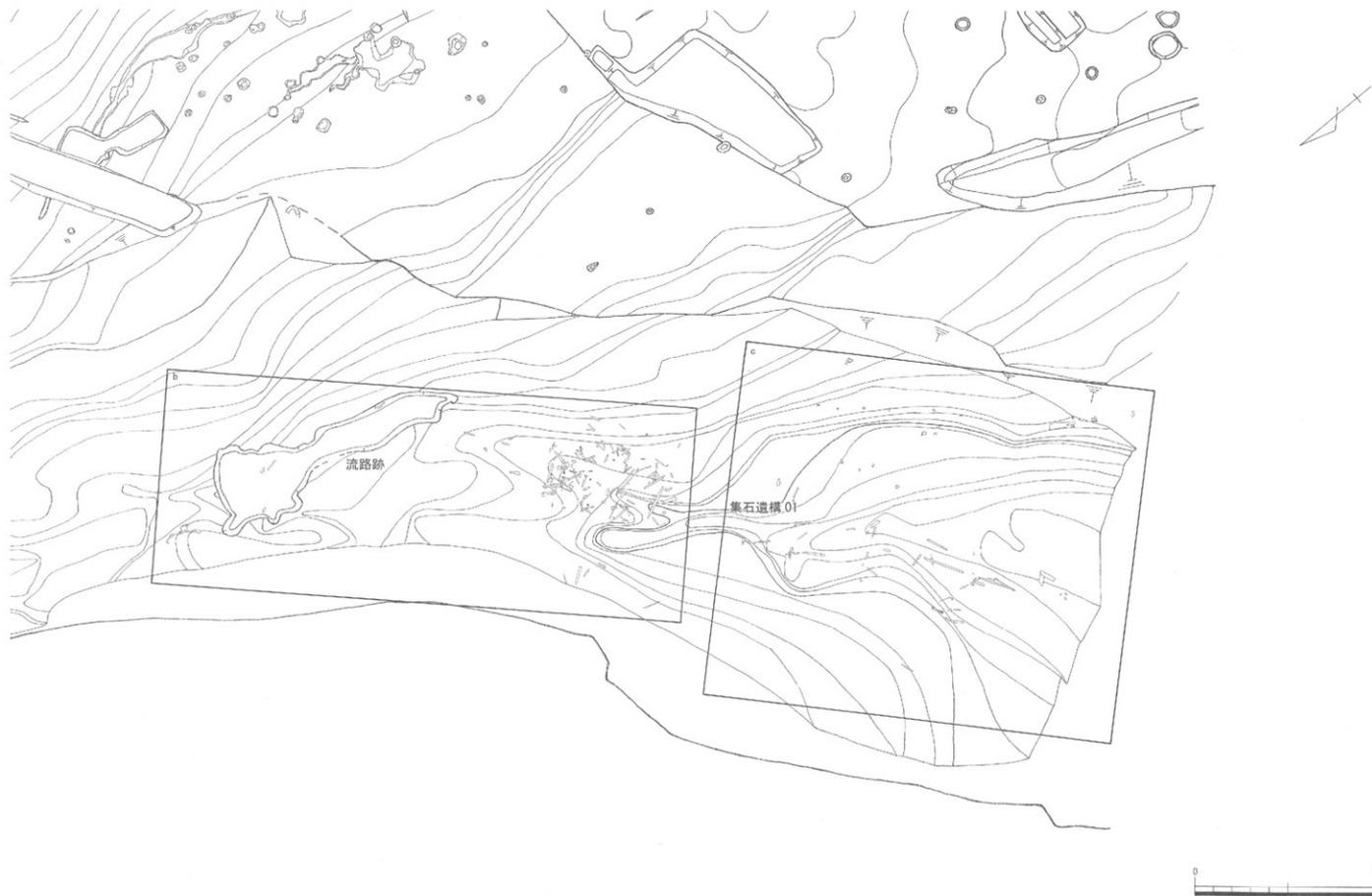
第8図 I-C区調査区土層図 S=1/60



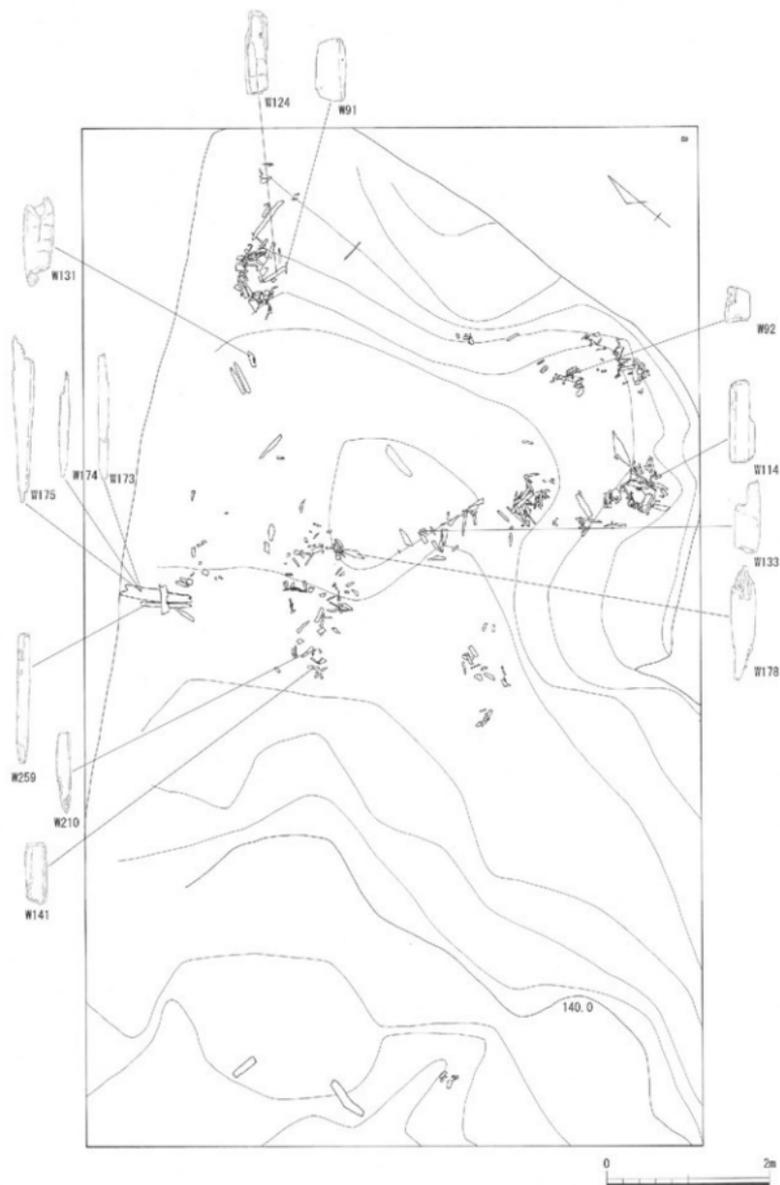
第9図 I-A区 谷1 遺構配置図1 S=1/200



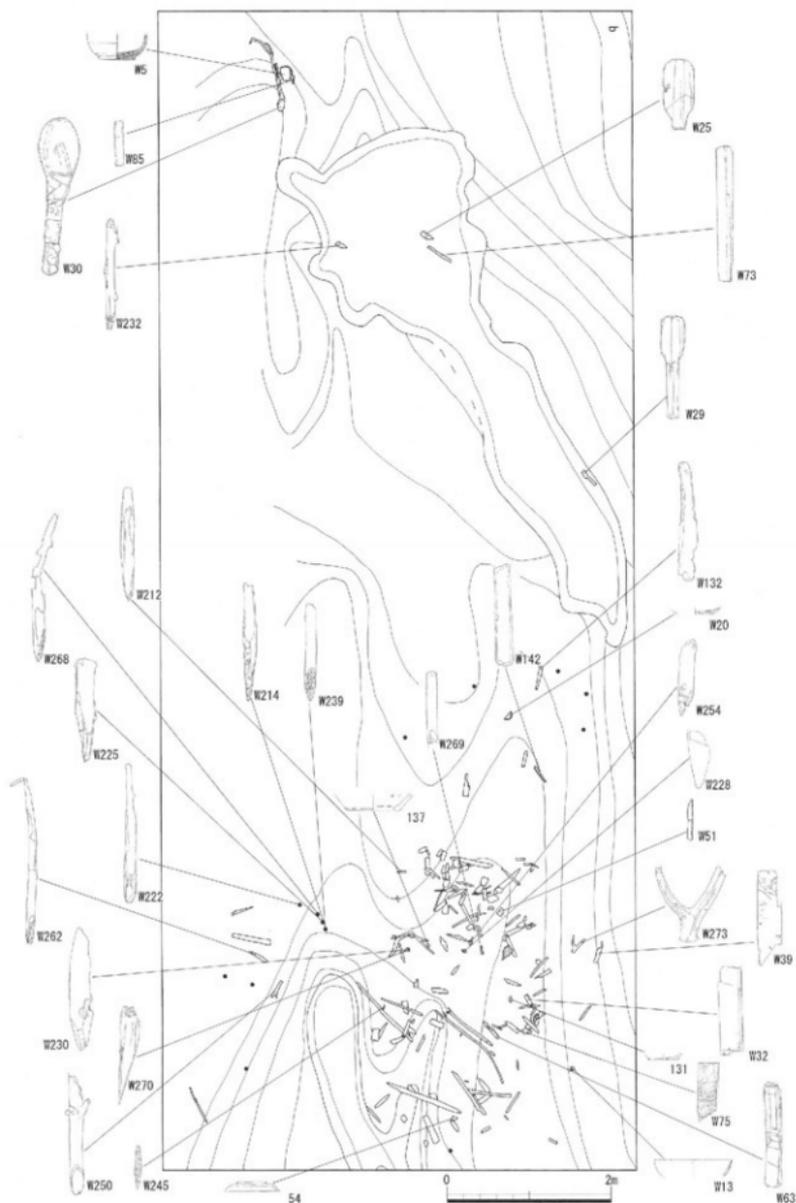
第10図 I-A区 谷1 遺構配置図2 S=1/100



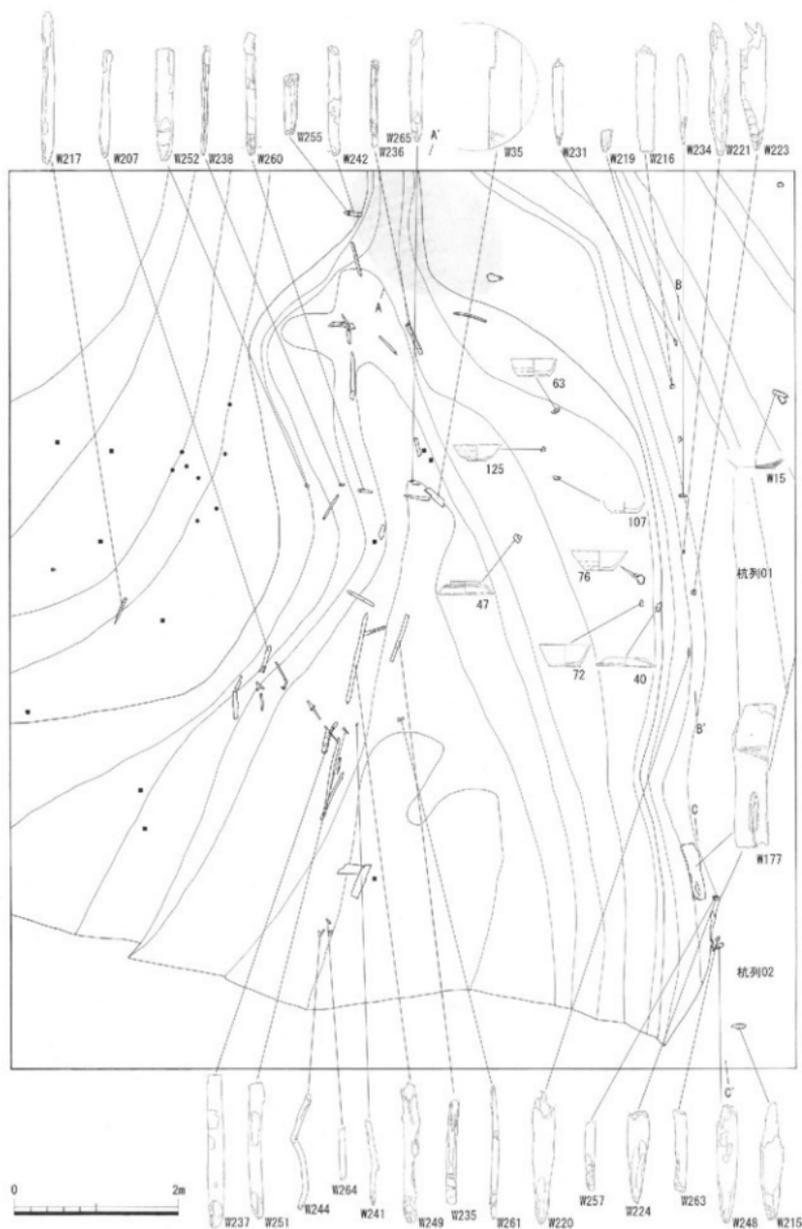
第11図 1-A区 谷1 遺構配置図3 S=1/100



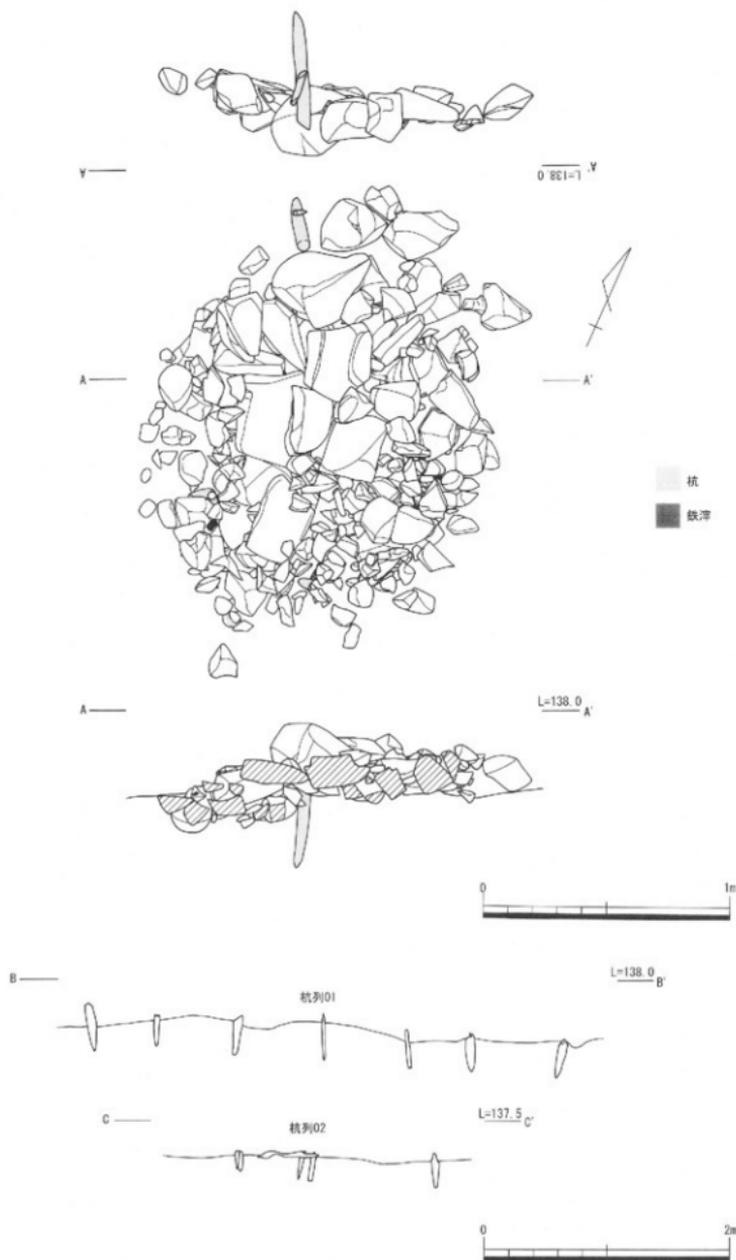
第12図 I-A区 谷I 遺物出土状況 a S=1/60



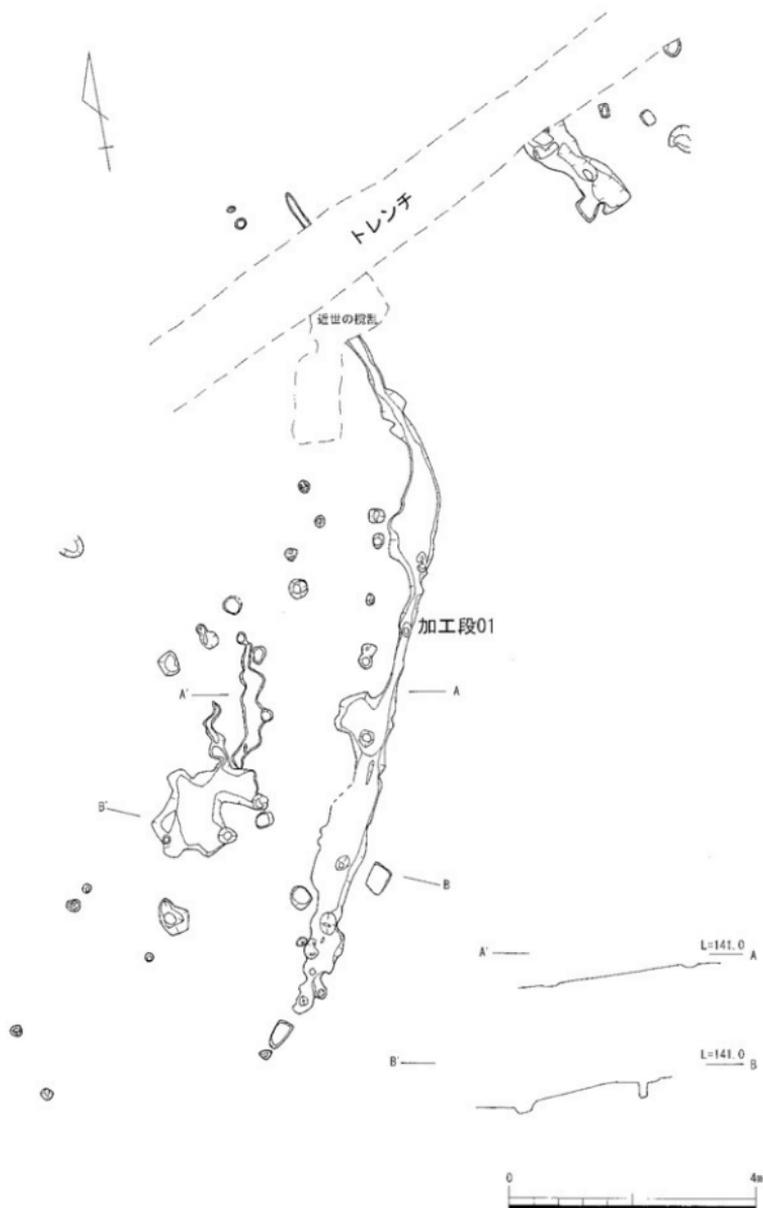
第13図 I-A区 谷1 遺物出土状況 b (●木製品 ■製鉄関連) S = 1/60



第14図 I-A区 谷1 遺物出土状況 (●木製品 ■製鉄関連) 網かけは集石遺構 01 S=1/60



第15図 I-A区 集石遺構01 実測図 S=1/20 杭列01・02 実測図 S=1/40



第16図 I-A区 加工段01 実測図 S=1/80

第24表 谷計測表

報告番号	平面形	幅	上場 (m) 下場 (m)	全長 (m)	深さ (m)	主軸	出土遺物
I-A区	等高線に直交する直線系		7.75 2.48	72.30	2.10	N-44.2° -E	土師器 須恵器 磁器 陶器 製鉄遺物 木製品

第25表 段状遺構計測表

報告番号	平面形	上面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
		底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
I-C区	不整形円形		130.00	47.00	15.00	N-0.5° -E	
			115.00	39.00			

第26表 焼土範囲計測表

報告番号	平面形	上面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
		底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
I-A区	不整形円形		362.00	237.00	9.00	N-66.7° -E	磁器 陶器 ガラス
			354.00	225.00			

第27表 流路跡計測表

報告番号	平面形	上面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
		底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
I-A区	不整形直線形		725.00	210.00	27.00	N-17.1° -E	土師器 青磁
			680.00	185.00			

第28表 集石遺構計測表

報告番号	平面形	長さ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	高さ (cm)	主軸	出土遺物
01	楕円形		226.00	141.00	-	N-1.5° -E	土師器 須恵器 磁器
02	長円形		143.00	52.00	48.00	N-78.0° -W	須恵器 磁器

第29表 加工段計測表

報告番号	平面形	上面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
		底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	等高線に沿う浅いL字形		876.00	90.00	32.00	N-23.5° -E	
			884.00	72.00			
02	等高線に沿う不整形		570.00	235.00	22.00	N-86.0° -E	
			535.00	207.00			
Pit (cm)	番号	4					
	上面径 (cm)	134 × 232 ~					
	底径座横 (m)	137.70					
03	等高線に沿う不整形		660.00	205.00	89.00	N-84.0° -E	
			643.00	140.00			
Pit (cm)	番号	1	2	3			
	上面径 (cm)	103 × 81	105 × 81	82 × 64			
	底径座横 (m)	137.61	137.50	137.48			

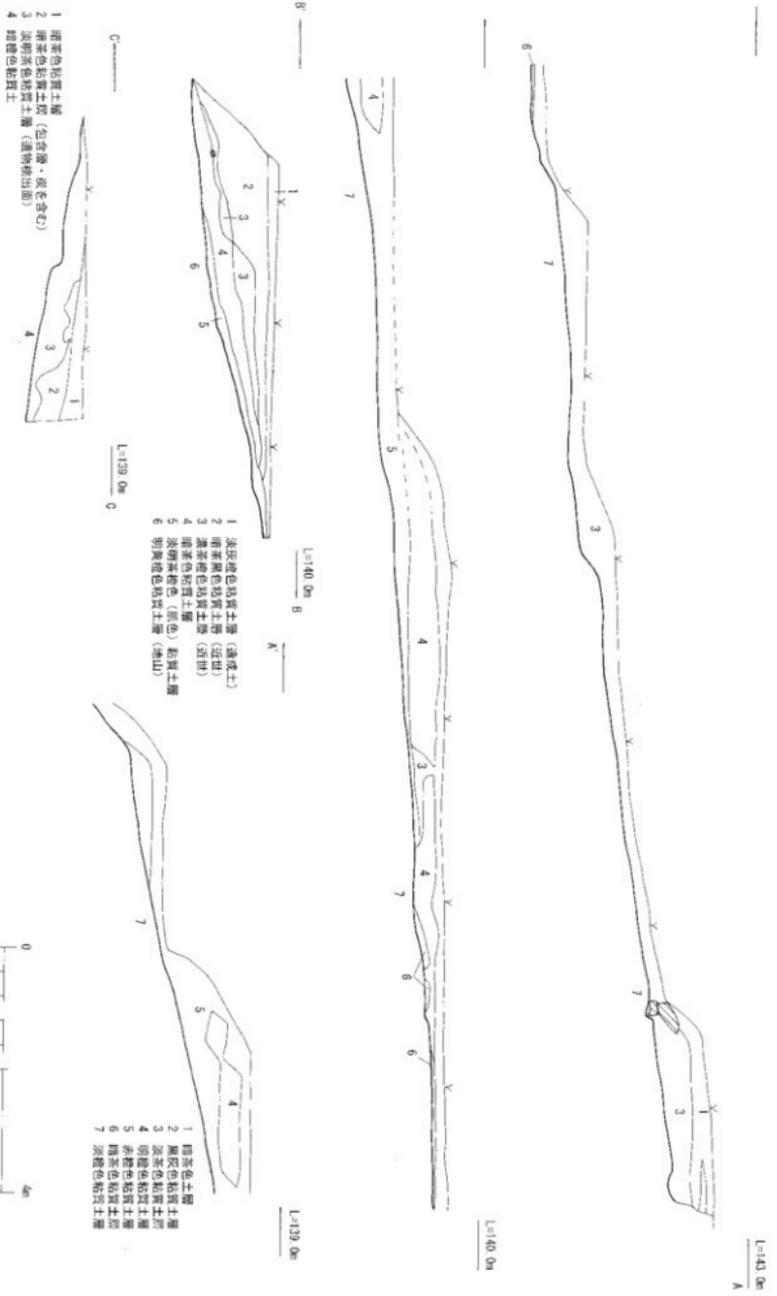
第30表 I-C区ピット計測表

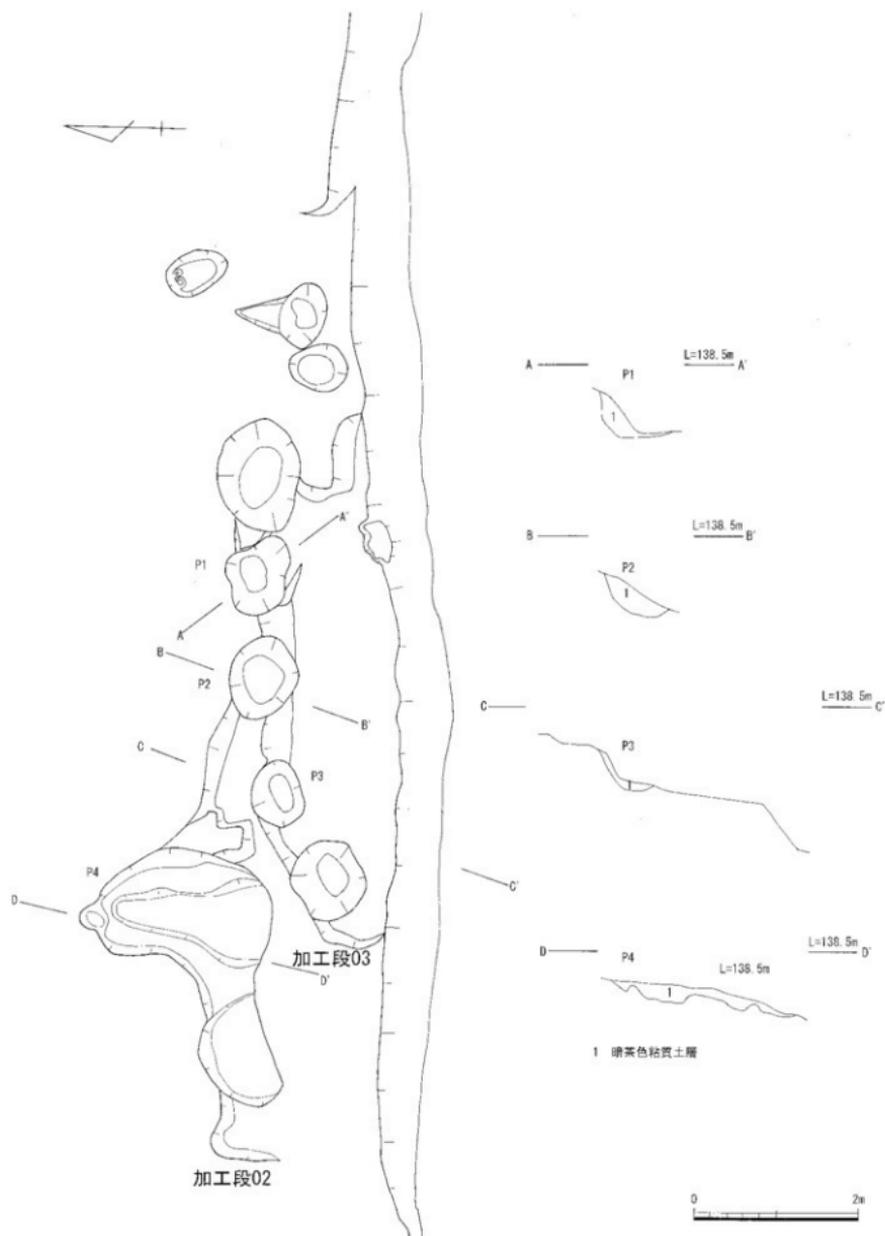
報告番号	平面形	上面	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	主軸	出土遺物
		底面	長軸 (cm)	短軸 (cm)			
01	円形		19.00	18.00	15.00	N-77.9° -W	
			14.00	14.00			
02	円形		38.00	34.00	15.00	N-80.0° -E	土師器
			20.00	14.00			



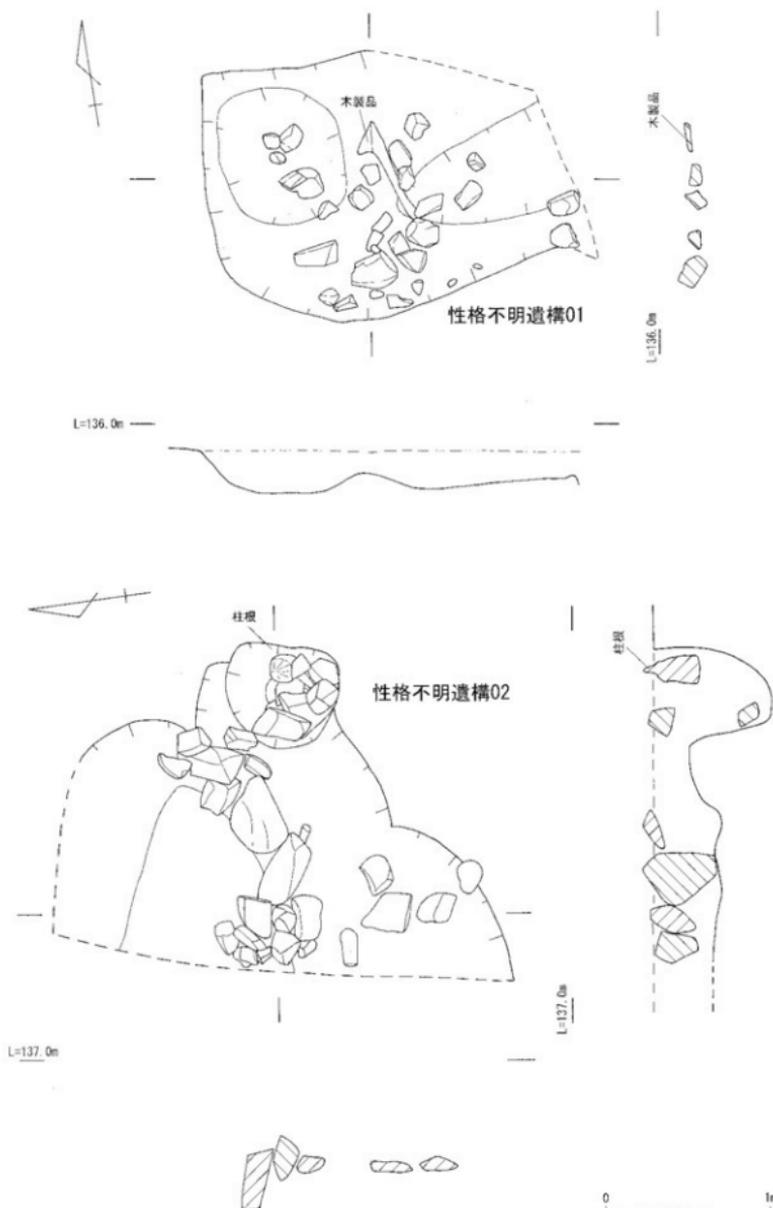
第17図 I-B区・II-D区西侧 遺構配置図 S=1/200

第18图 I-B区土壤图 S II 1/80





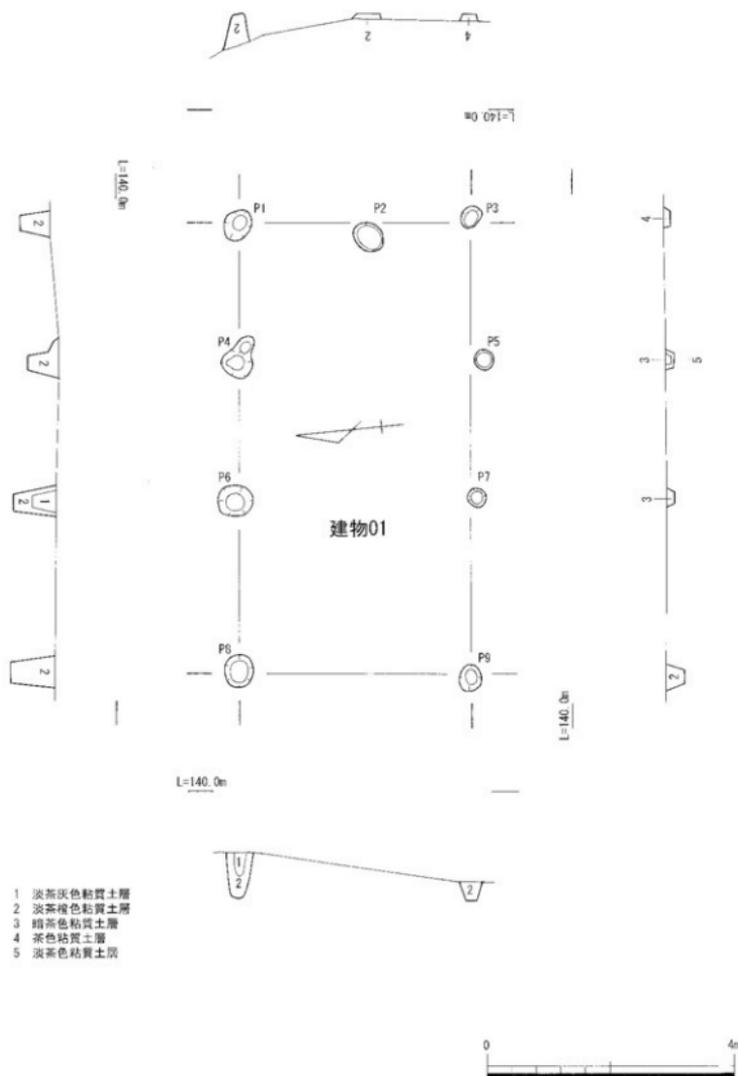
第19図 I-B区 加工段02・03 実測図 S=1/60



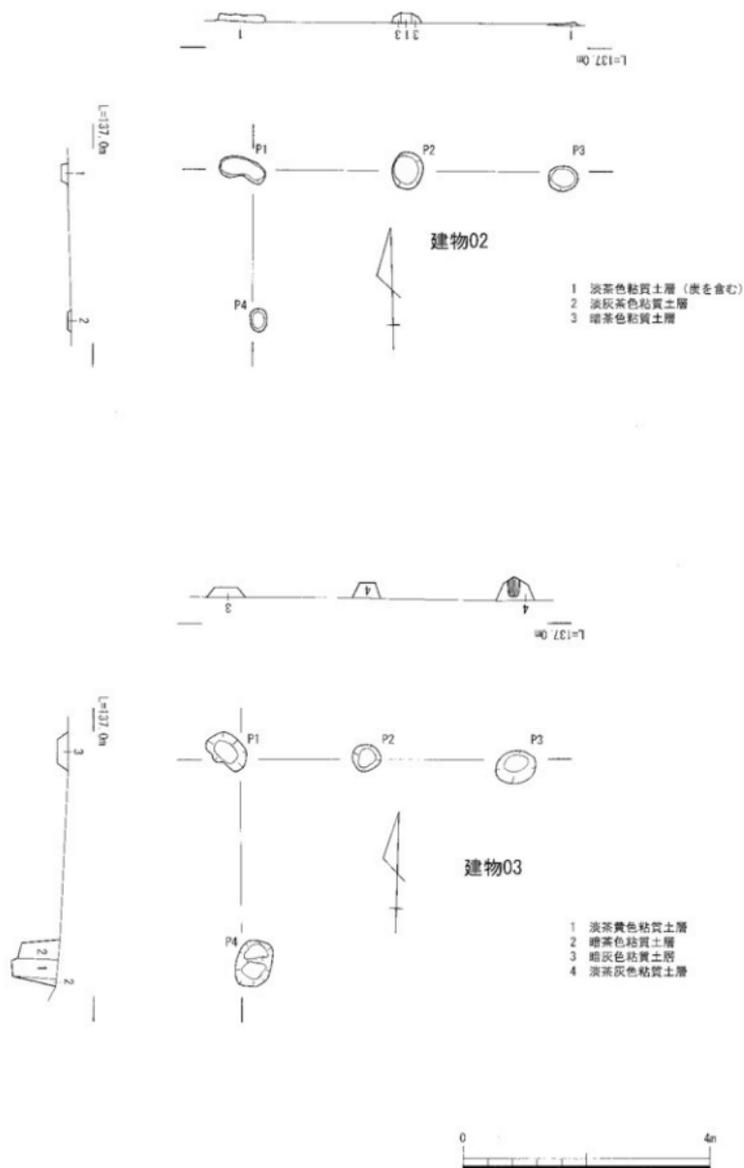
第20図 I-B区 性格不明遺構01・02 実測図 S=1/30



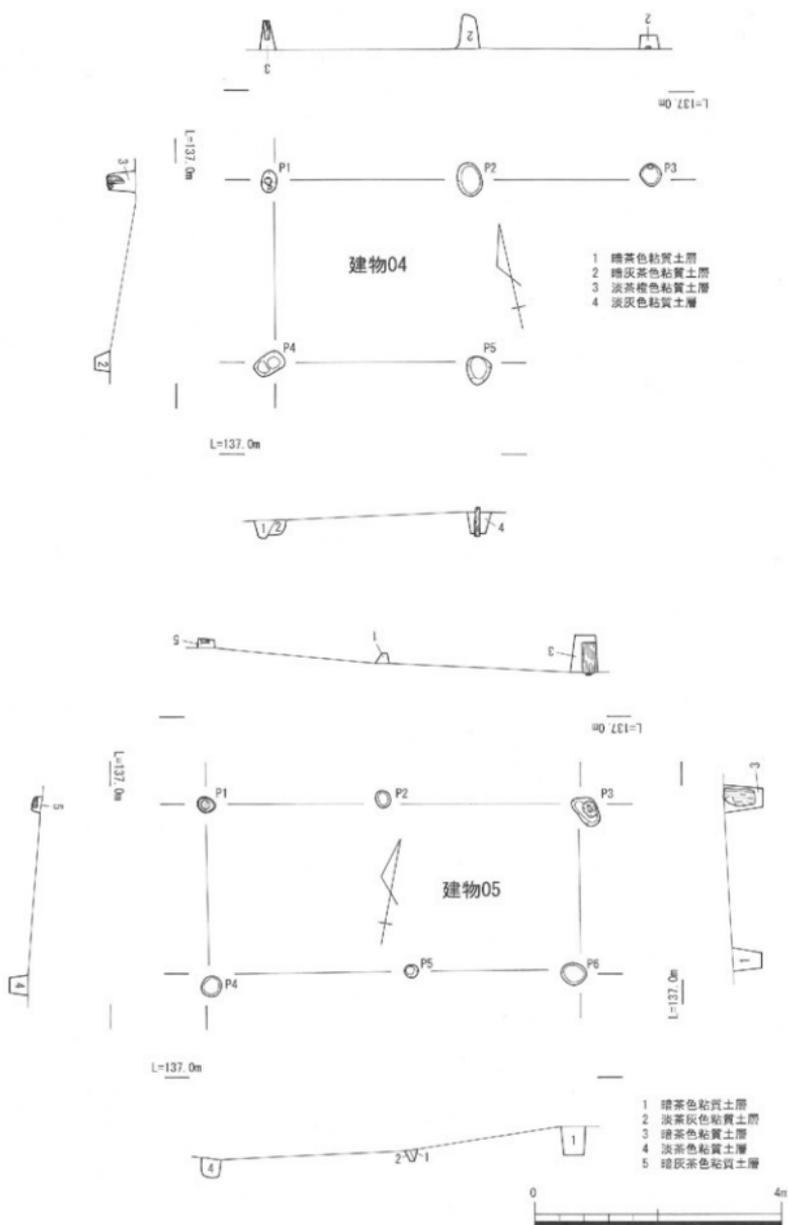
第21図 I-B区 遺構配置図 S=1/100



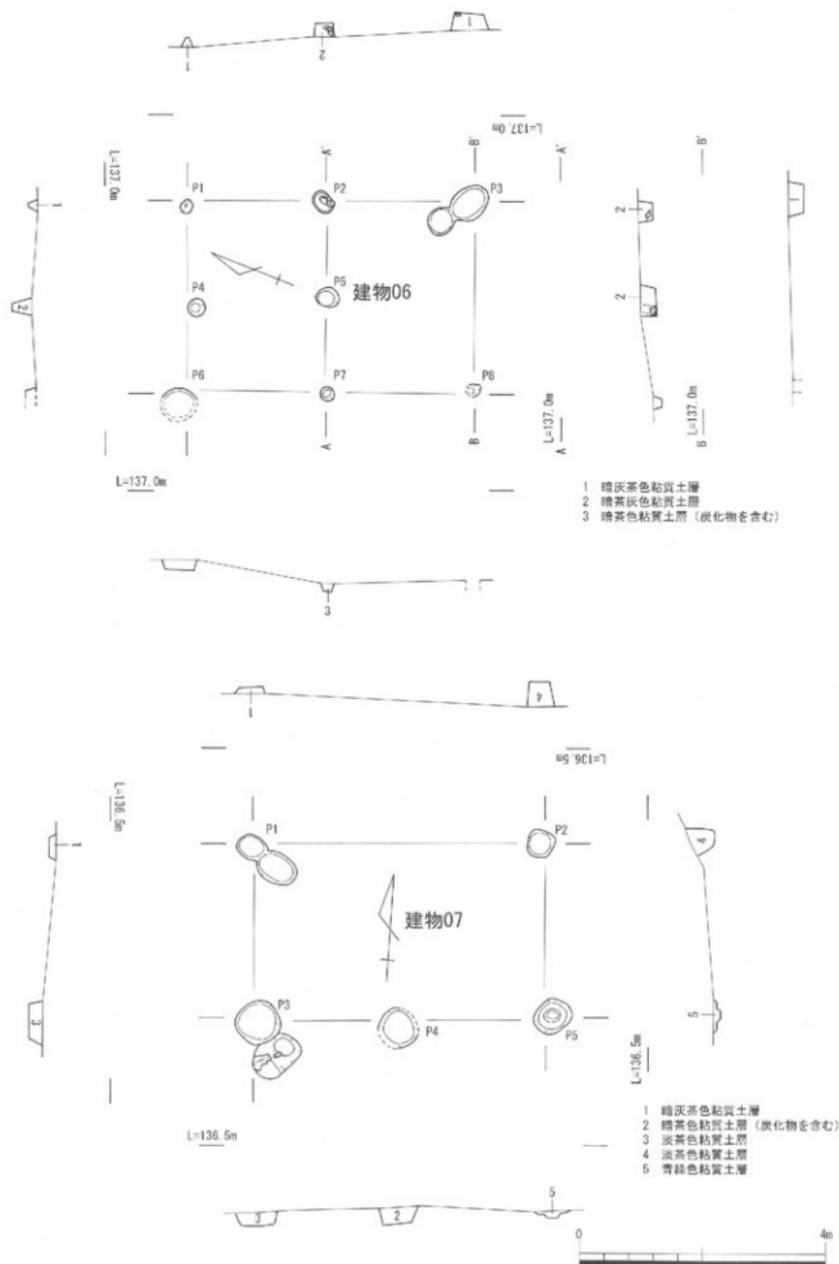
第22図 I-B区 建物01 実測図 S=1/80



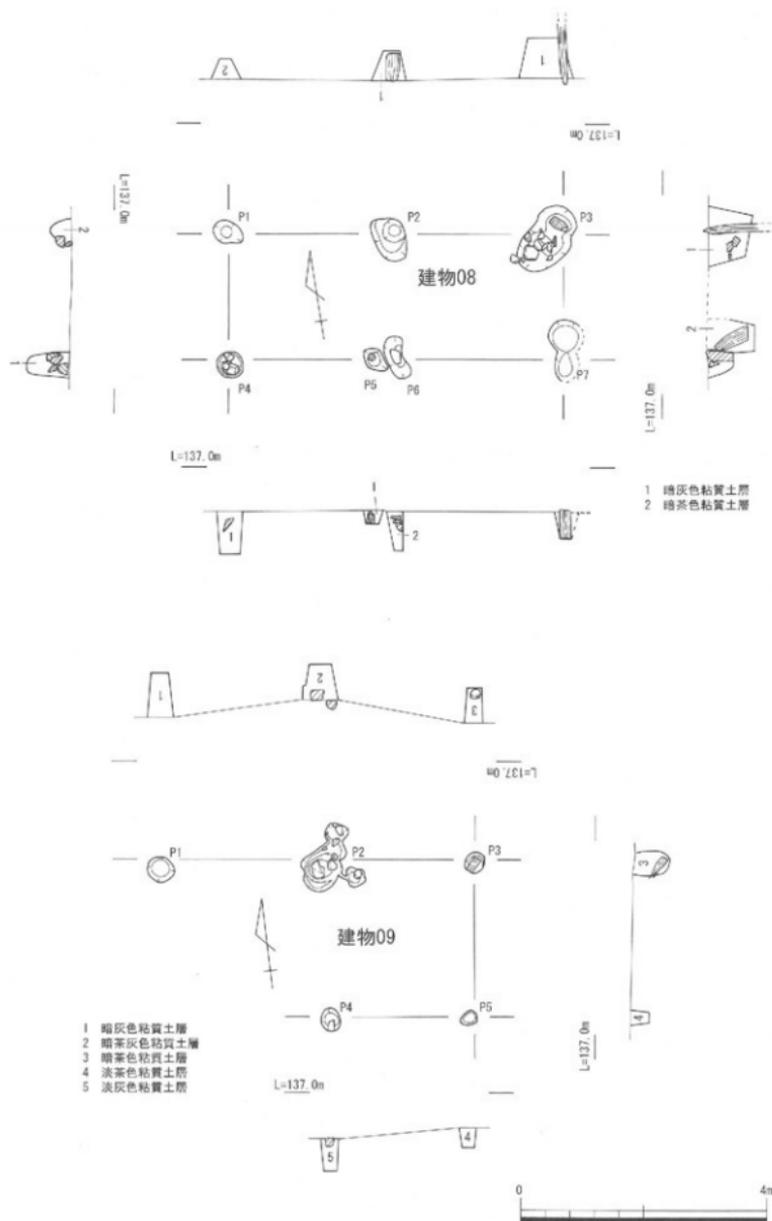
第 23 図 II-D 区西側 建物 02・03 実測図 S = 1/80



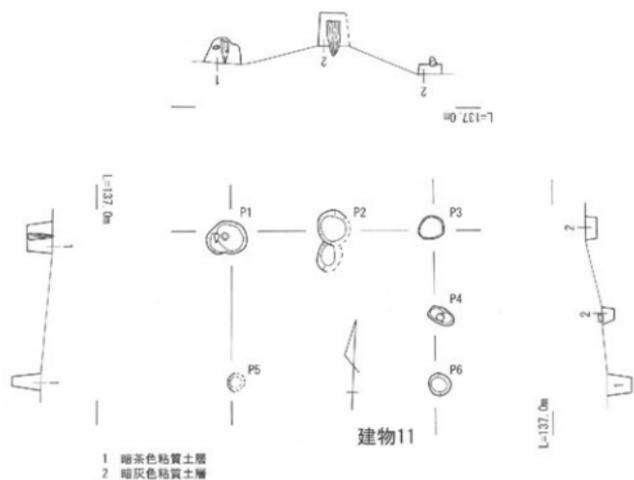
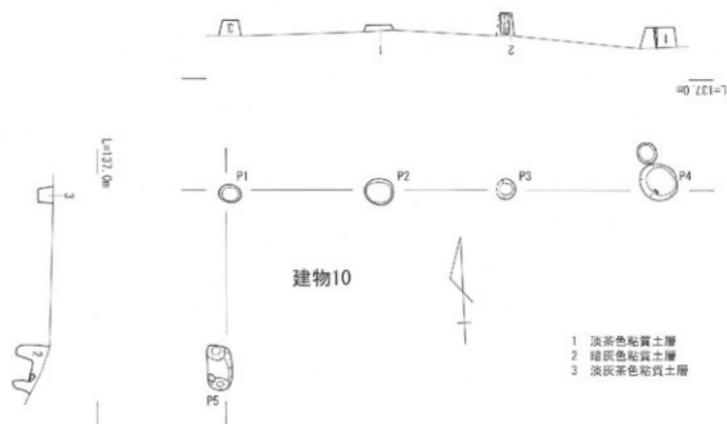
第24図 I-B区 建物04・05 実測図 S=1/80



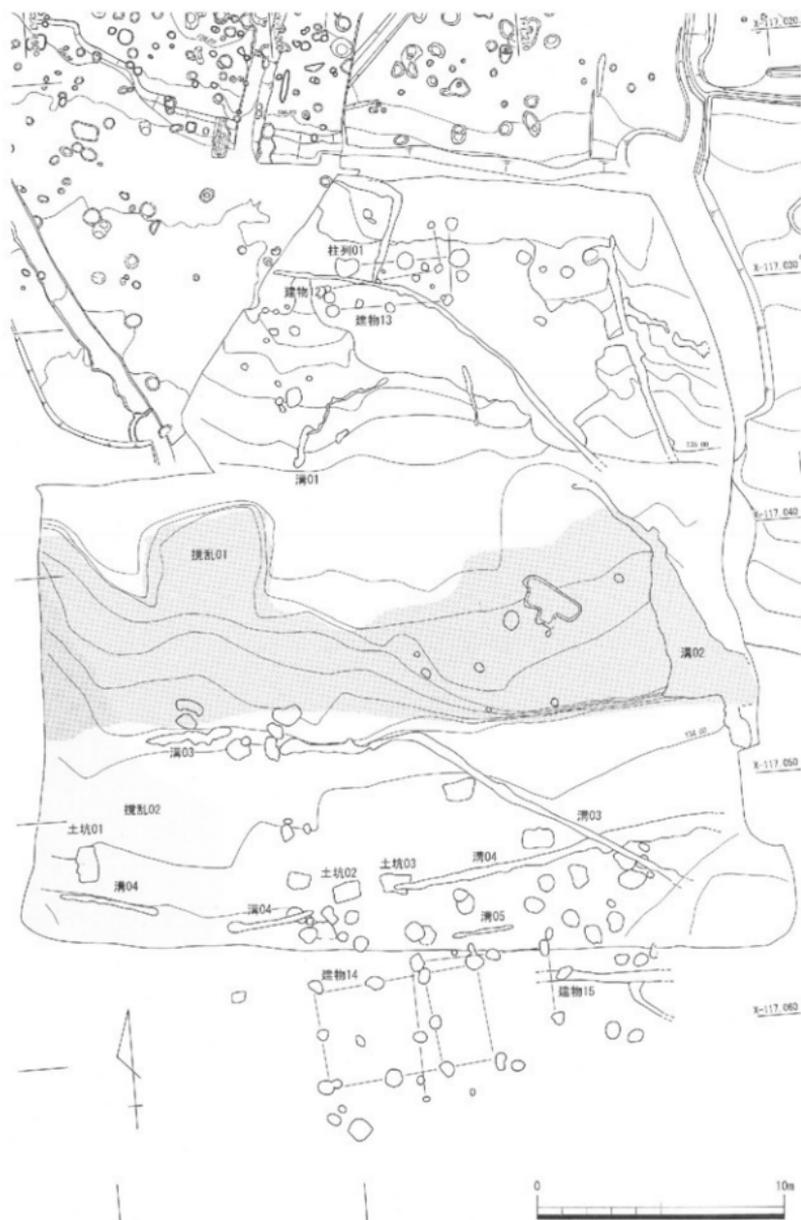
第25図 I-B区 建物06・07 実測図 S=1/80



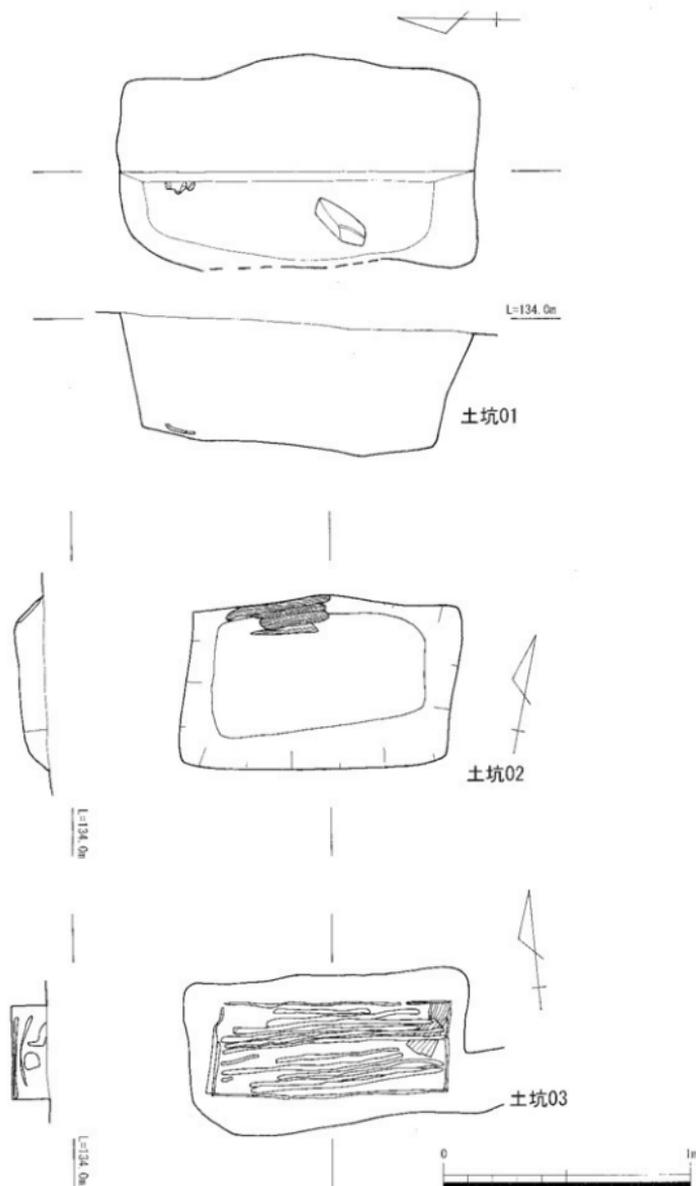
第 26 図 I - B 区 建物 08・09 実測図 S = 1/80



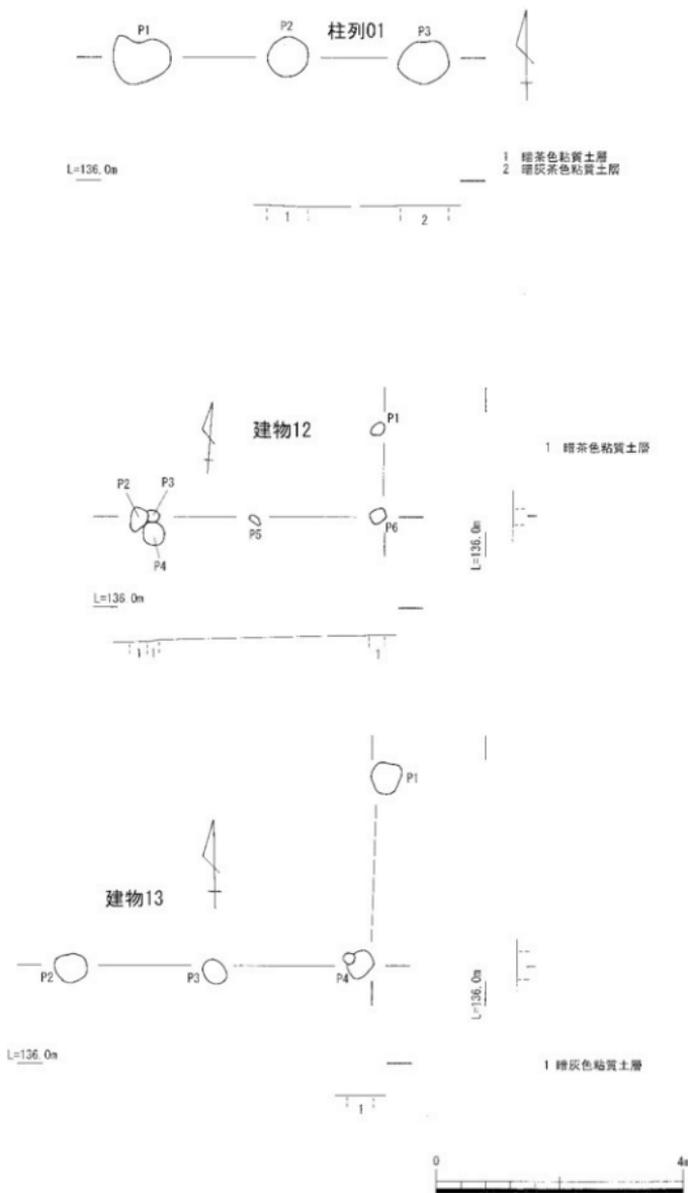
第27図 I-B区 建物10・11 実測図 S=1/80



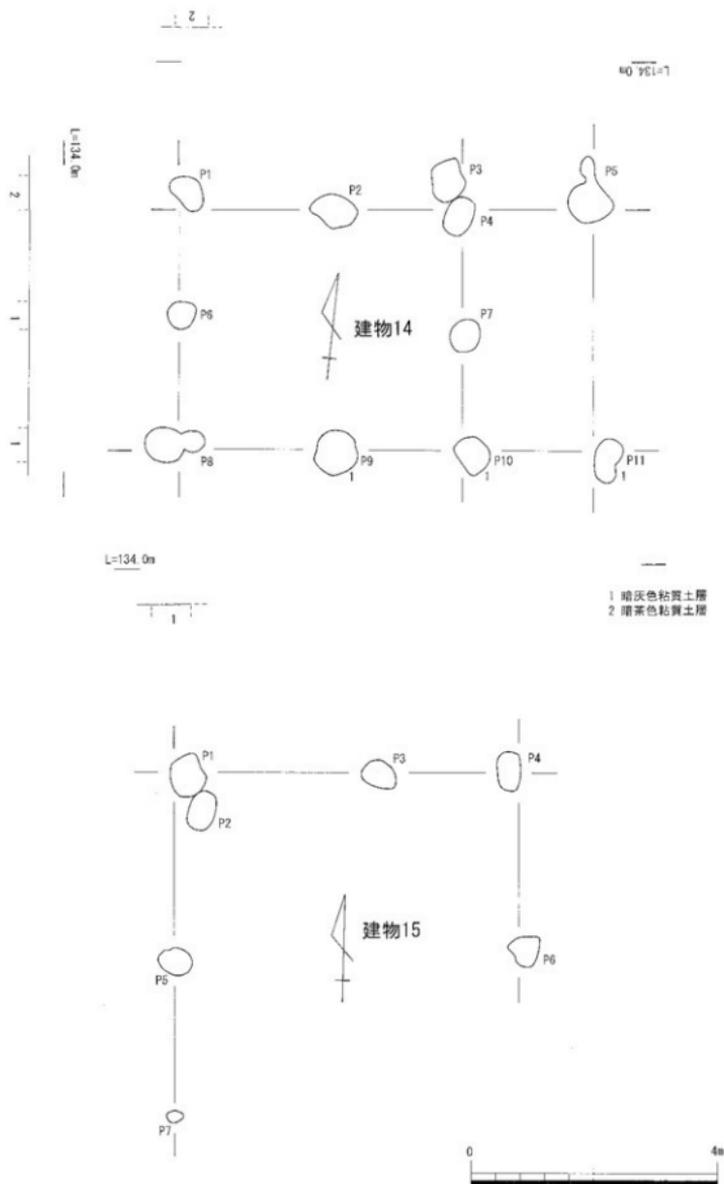
第28図 II-E区西側・F区西側・G区 遺構配置図 S=1/200



第29図 II-F区西側 土坑01~03 実測図 S=1/20



第30図 II-E区西側 柱列01・建物12・13 実測図 S=1/80



第31区 II-F区西側・G区 建物14・建物15 実測図 S=1/80



第32図 II-D区・E区・F区 遺構配置図 S=1/200

X-117.016

X-117.020

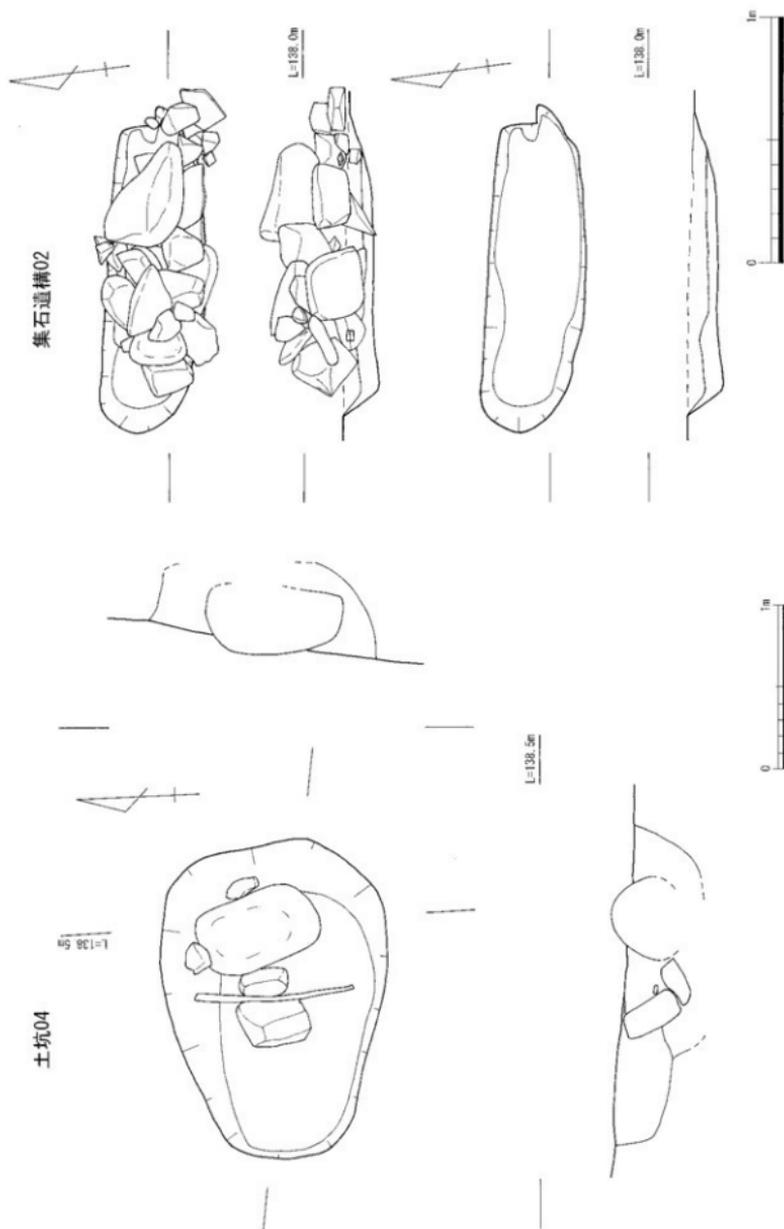
X-117.030

X-117.040

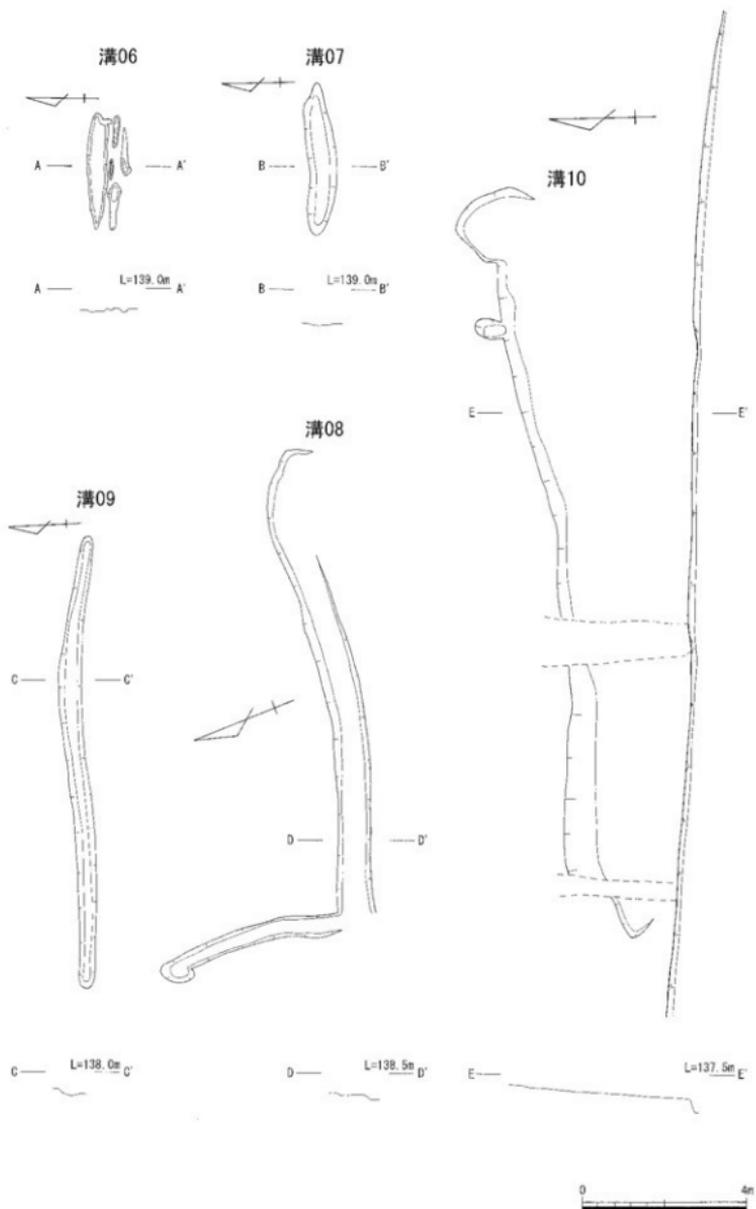
X-117.050



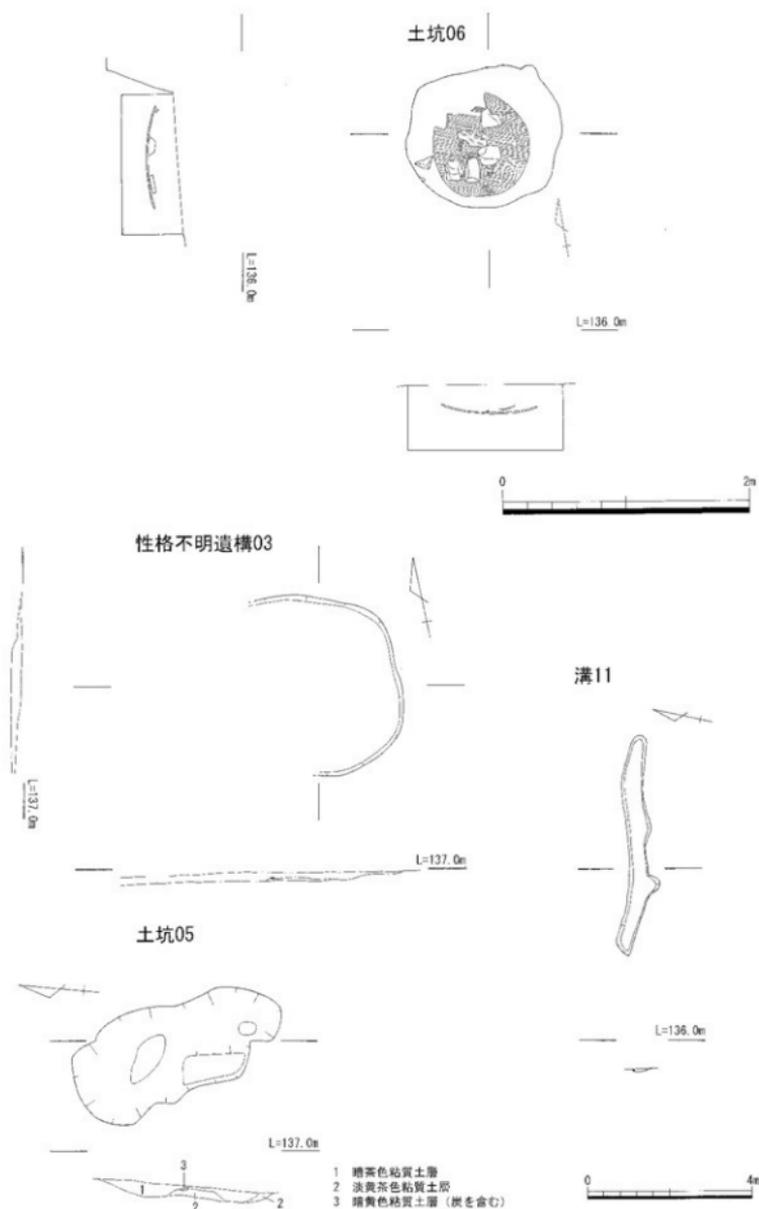
第34図 II-F区 トレンチ06 集水遺構及び遺物出土状況 S=1/30



第35図 II-D区 集石遺構02 実測図 S=1/20 土坑04 実測図 S=1/30



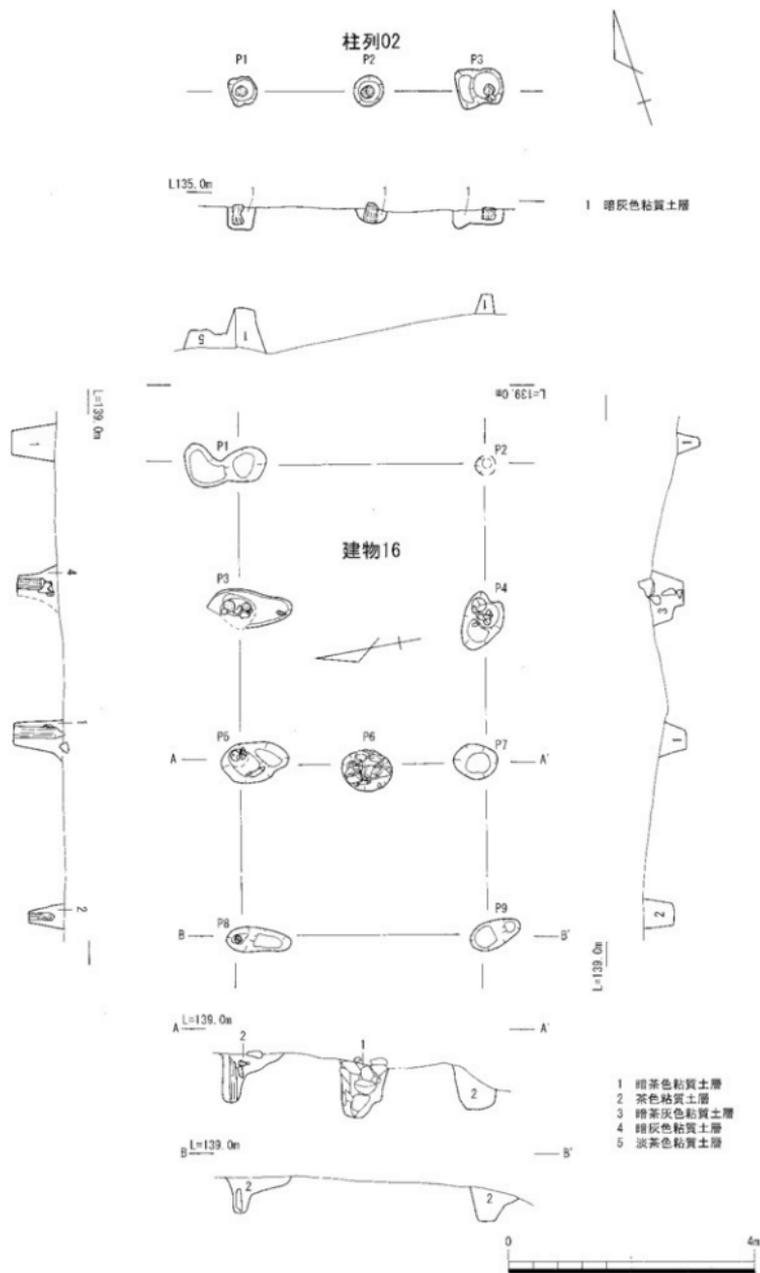
第36図 II-D区 溝06~10 実測図 S=1/120



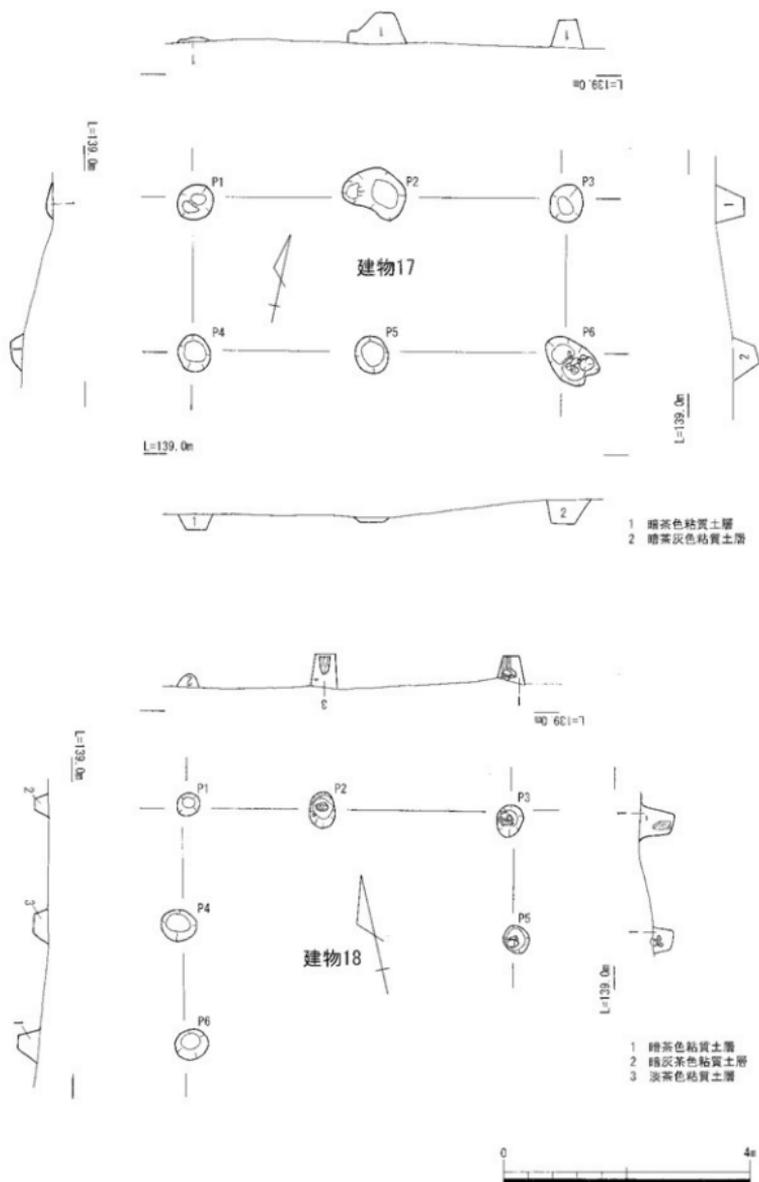
第 37 図 II 区 性格不明遺構 03 土坑 05・06 溝 11 実測図 S = 1/120 (土坑 06 は S = 1/40)



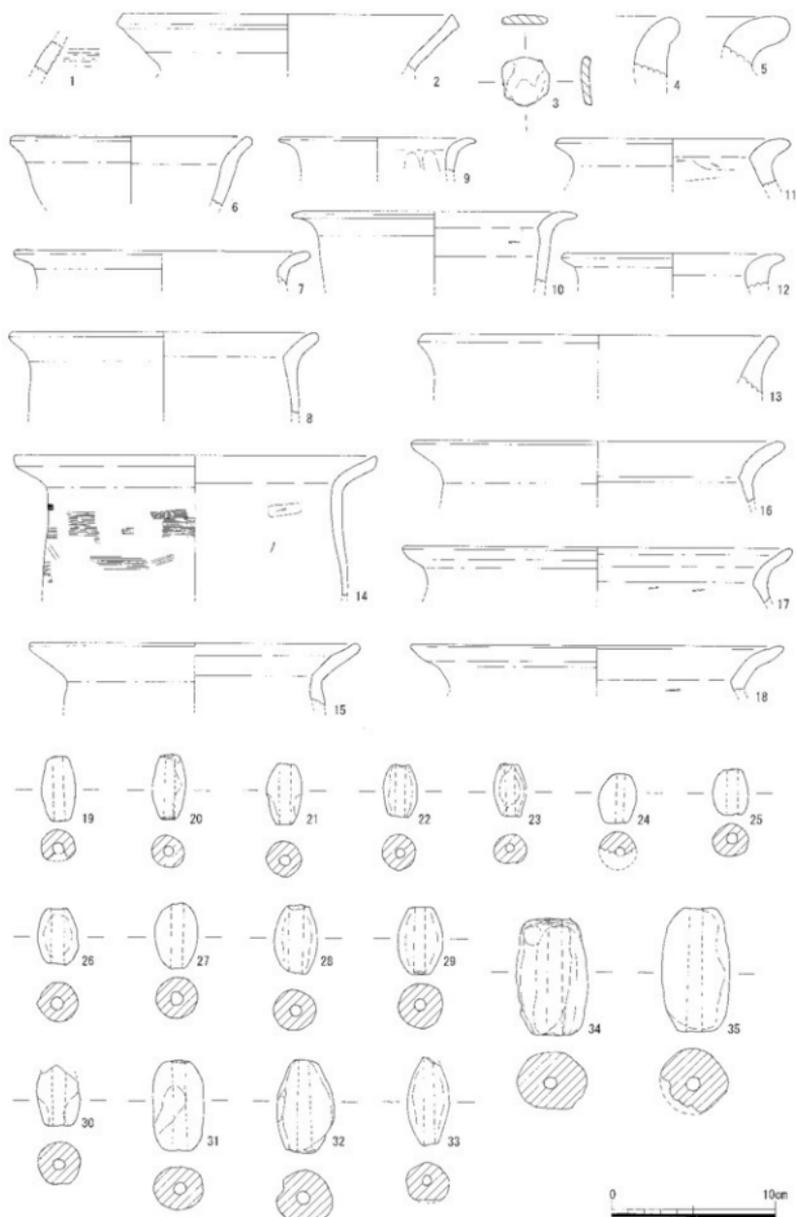
第38図 II-D区 建物配置図 S=1/100



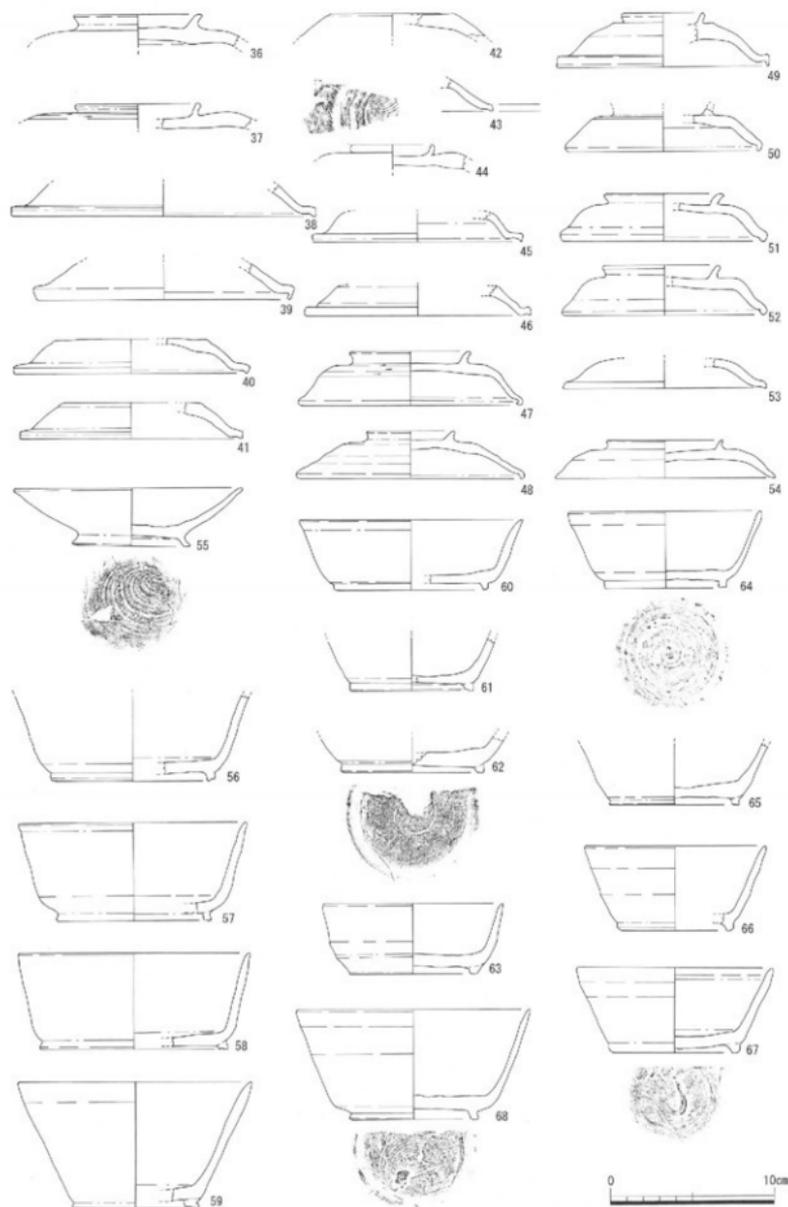
第39図 II-D区 建物16 実測図 S=1/80 II-F区 柱列02 実測図 S=1/80



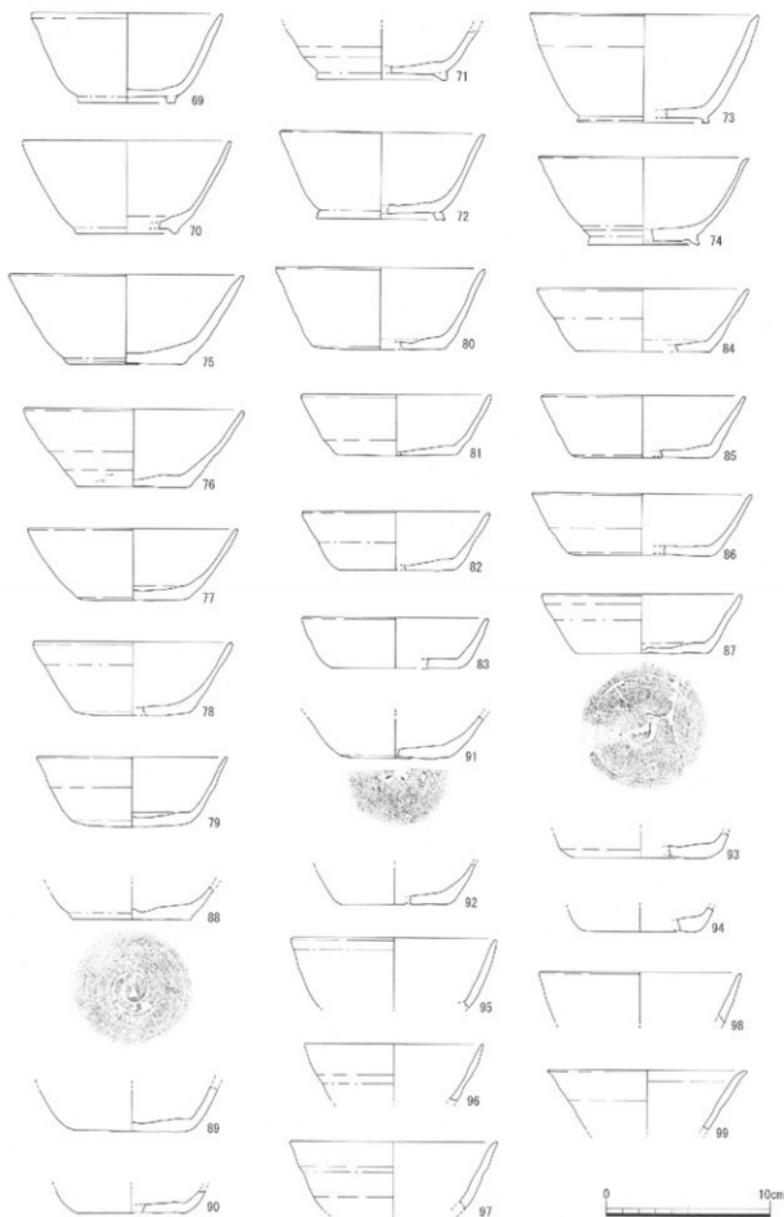
第40図 II-D区 建物17・18 実測図 S=1/80



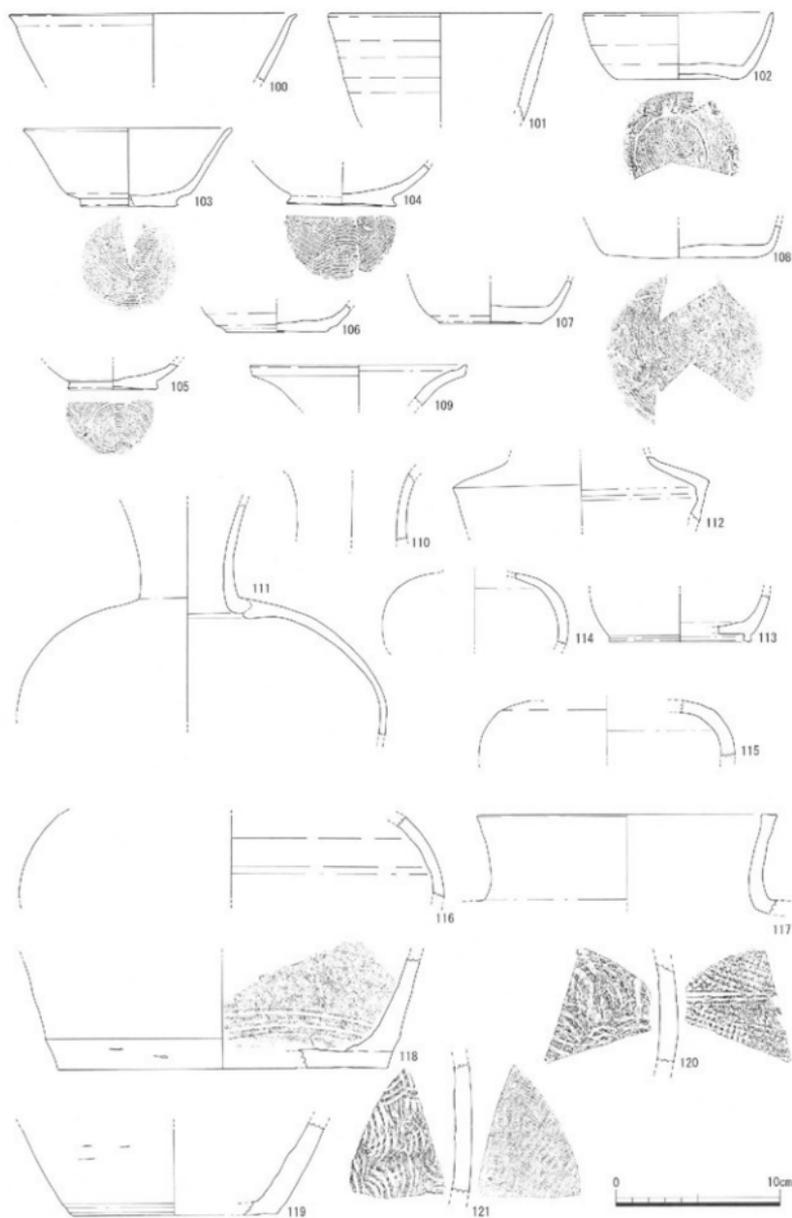
第41図 カミヤ遺跡出土物実測図1 S = 1/3



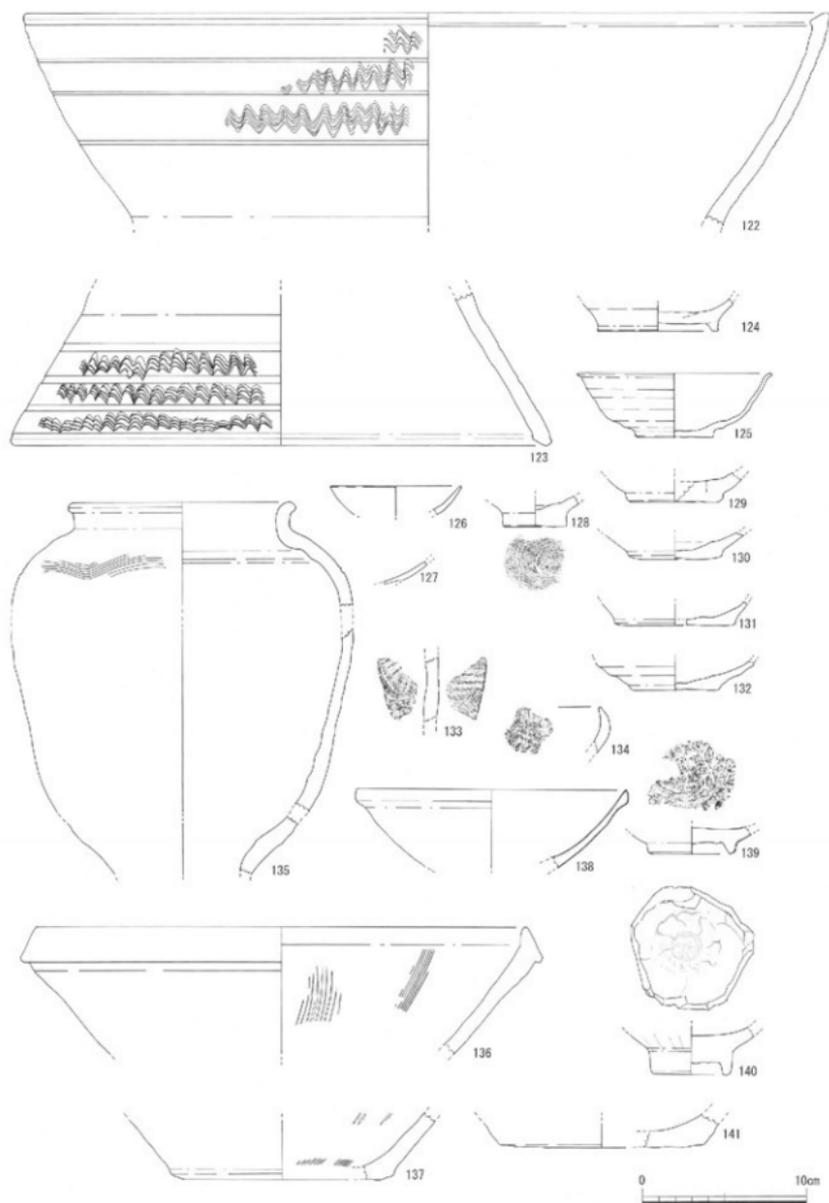
第42図 カミヤ遺跡出土遺物実測図2 S=1/3



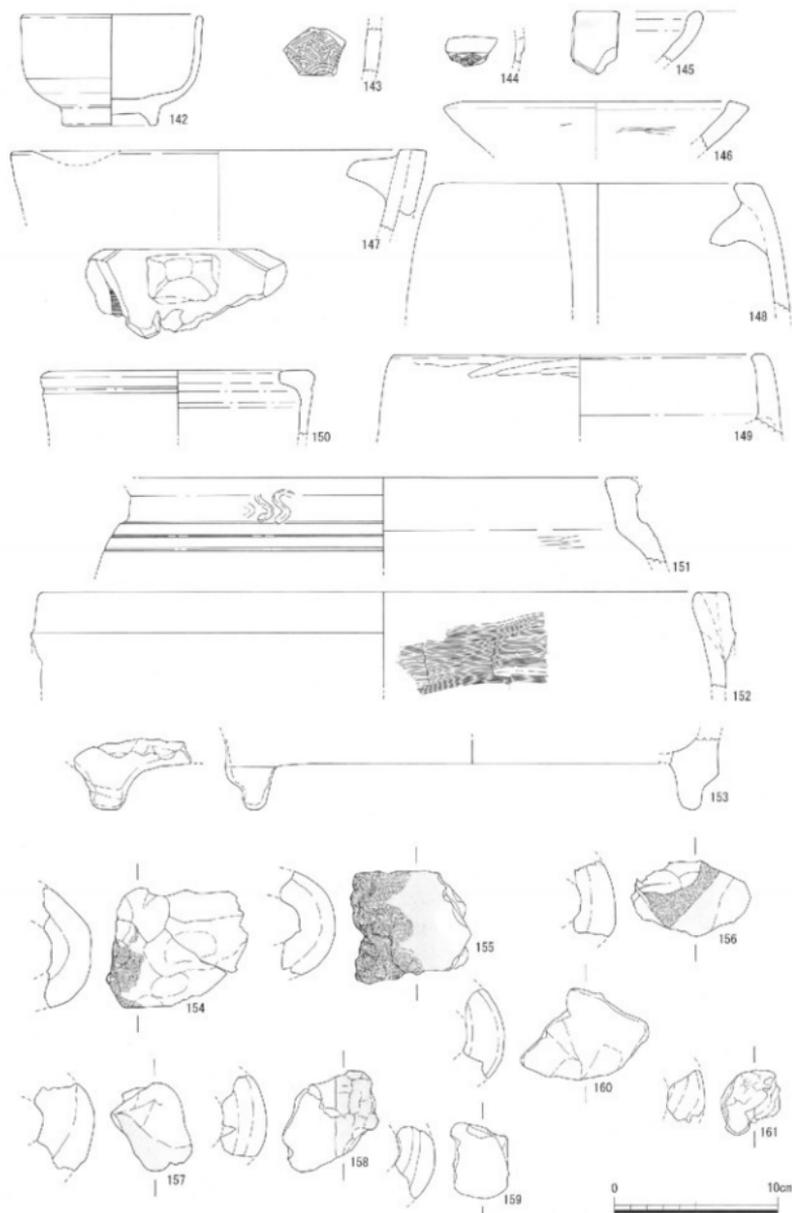
第43図 カミヤ遺跡出土遺物実測図3 S = 1/3



第44図 カミヤ遺跡出土遺物実測図4 S=1/3



第45図 カミヤ遺跡出土遺物実測図5 S = 1/3



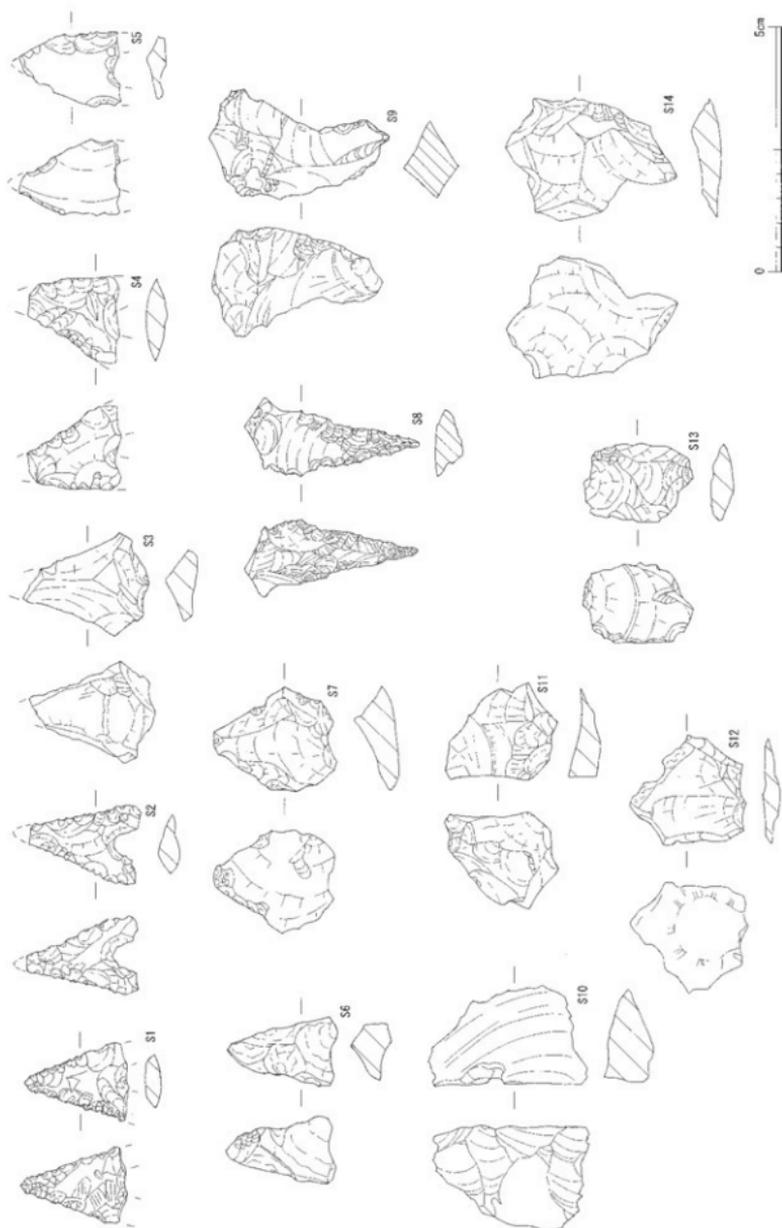
第46図 カミヤ遺跡出土遺物実測図6 S=1/3



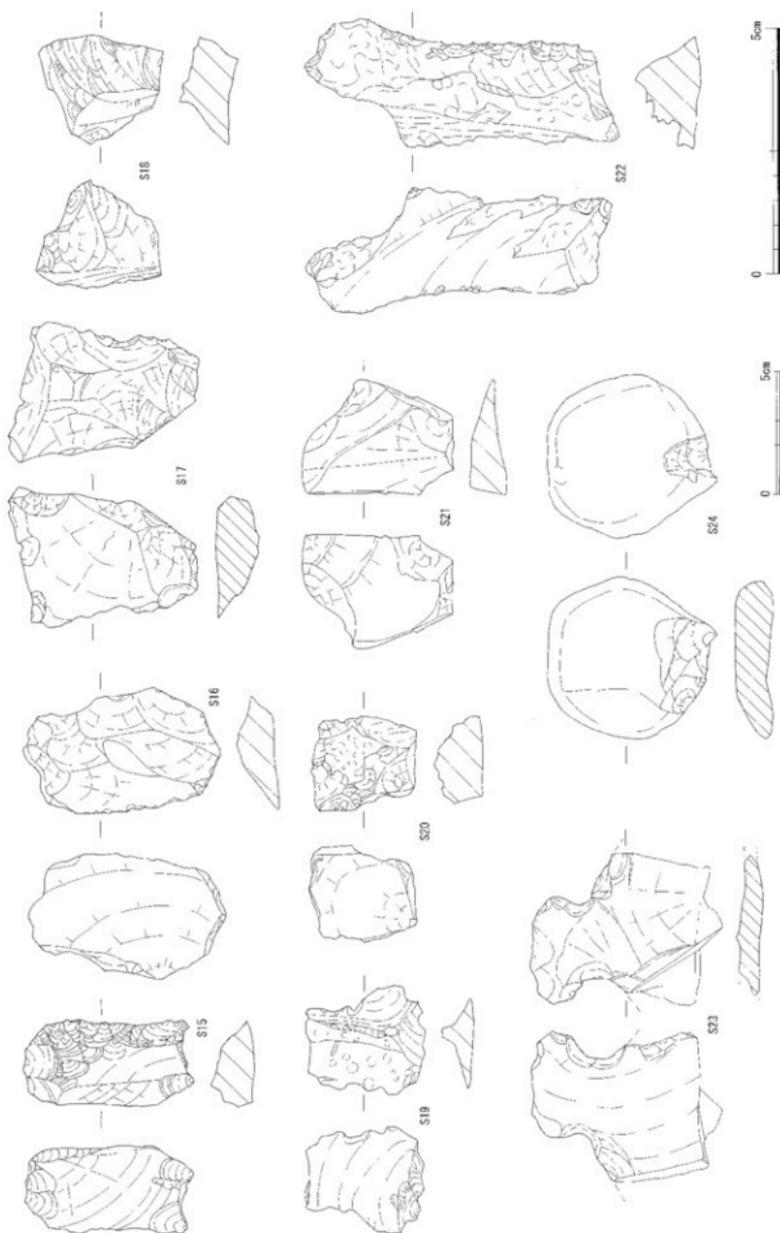
第47図 カミヤ遺跡出土遺物実測図7 S=1/6 (172・173はS=1/3)



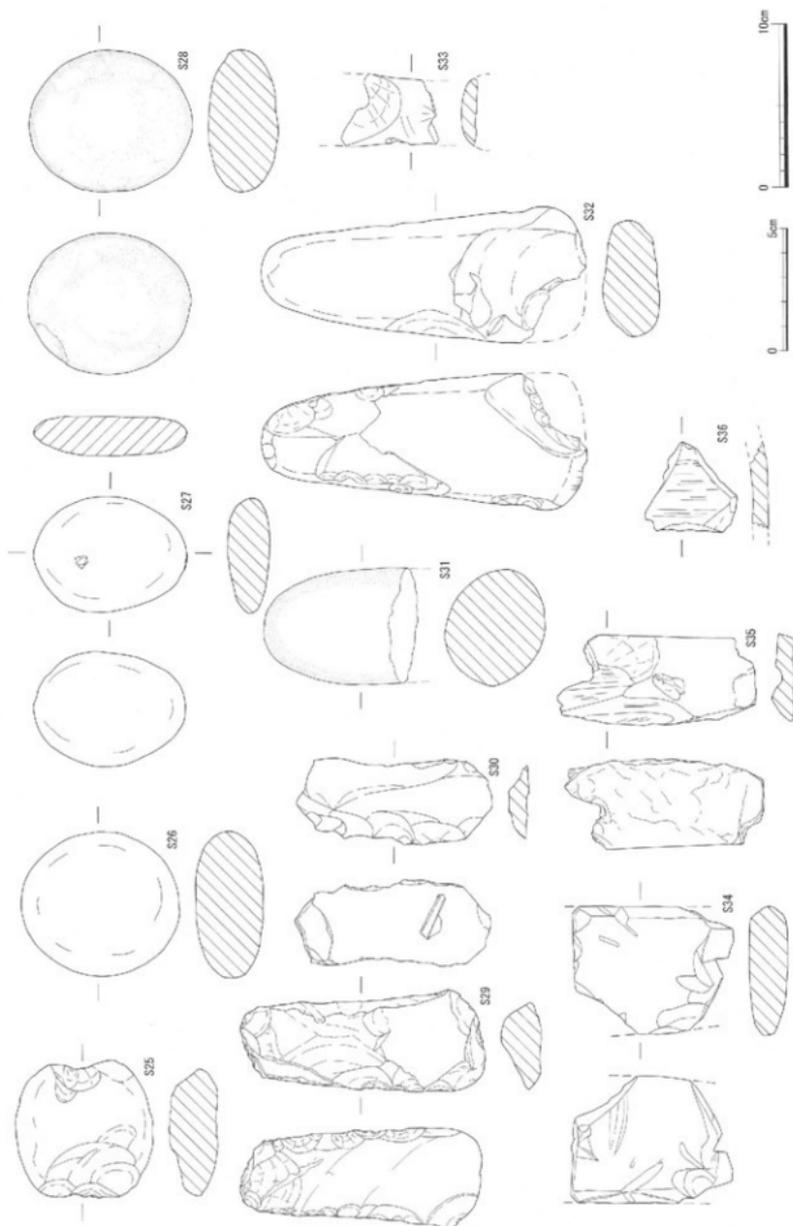
第48図 カミヤ遺跡出土遺物実測図8 S=1/3



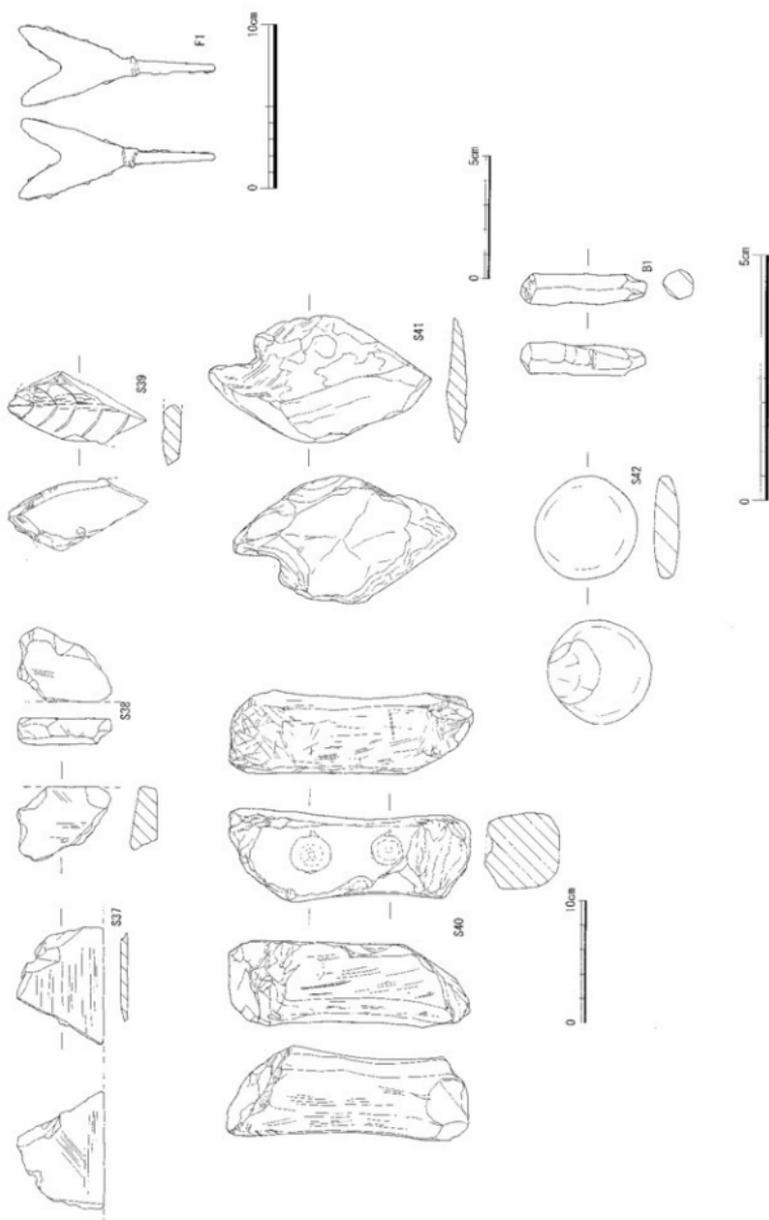
第49図 カミヤ遺跡出土遺物実測図9 S=1/1



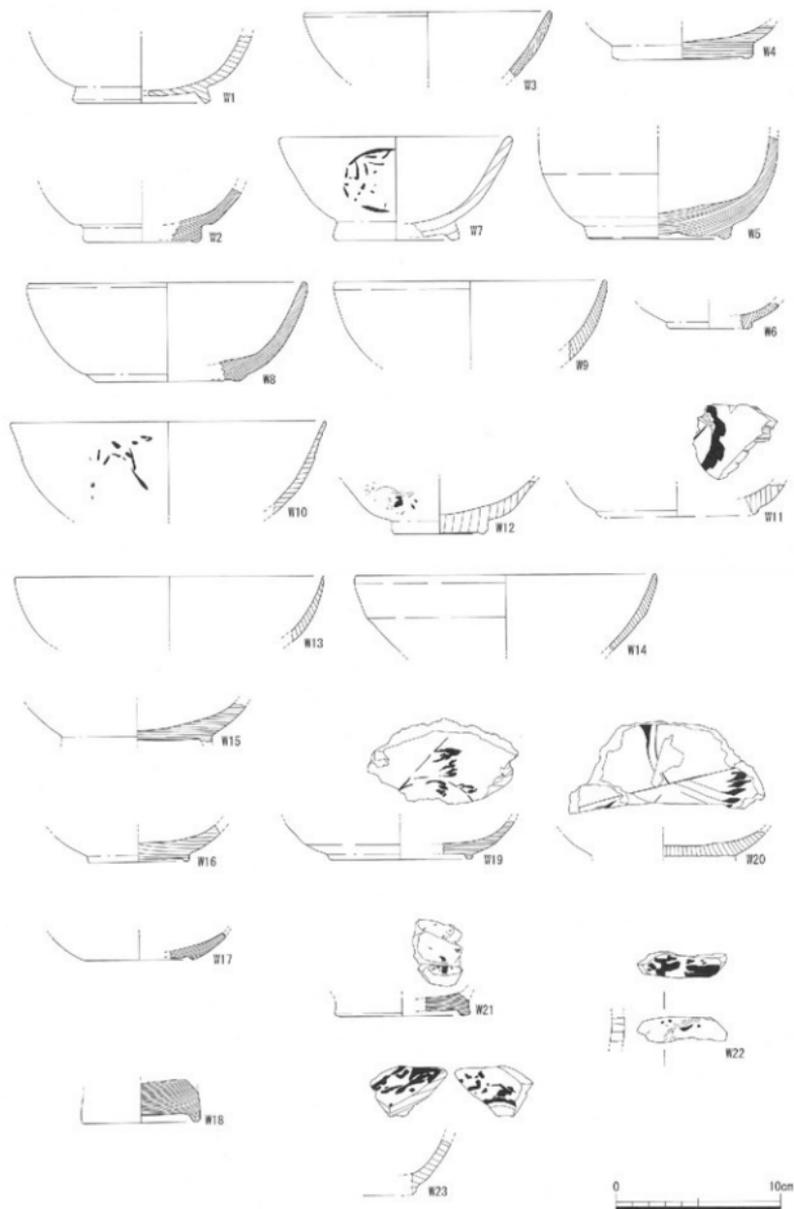
第50図 カミヤ遺跡出土遺物実測図10 S = 1/1 (S24はS = 1/2)



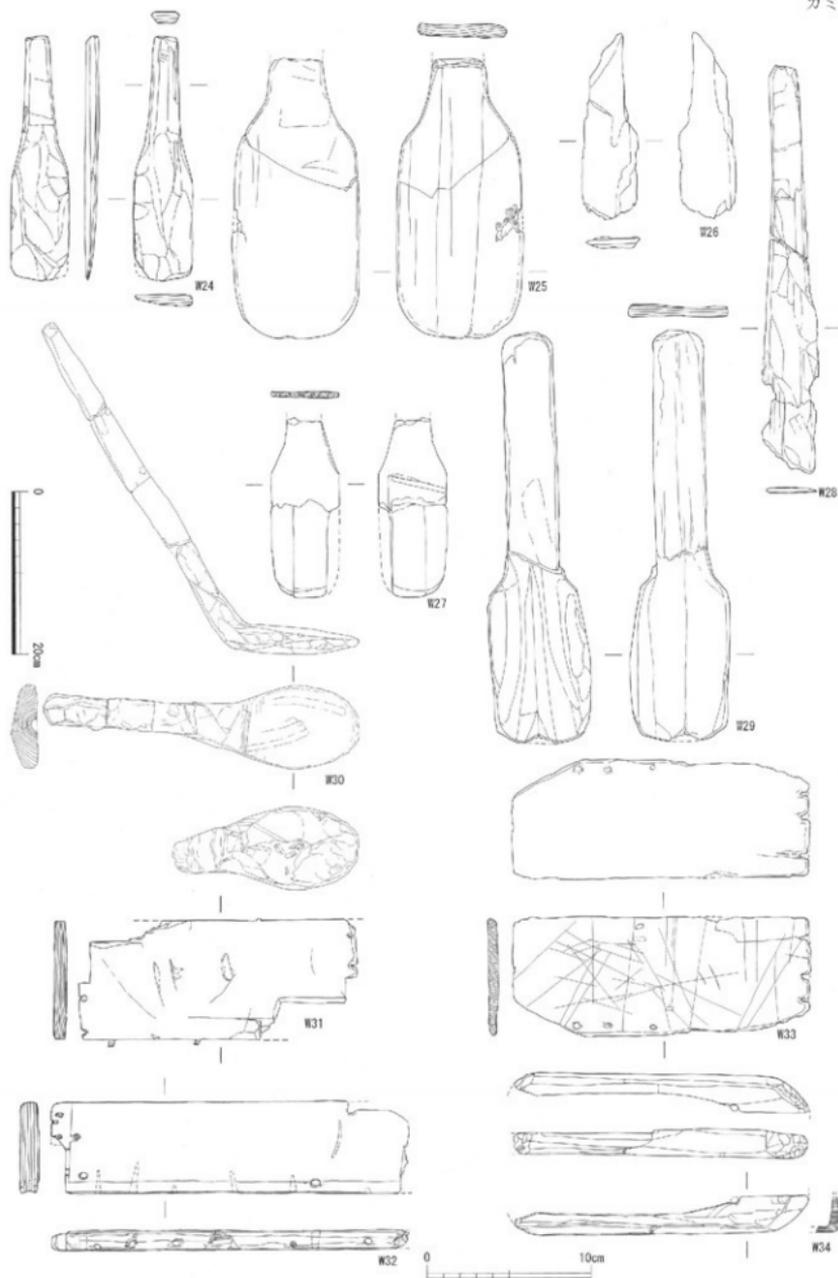
第51図 カミヤ遺跡出土遺物実測図11 S = 1/2 (S26・S28はS = 1/3)



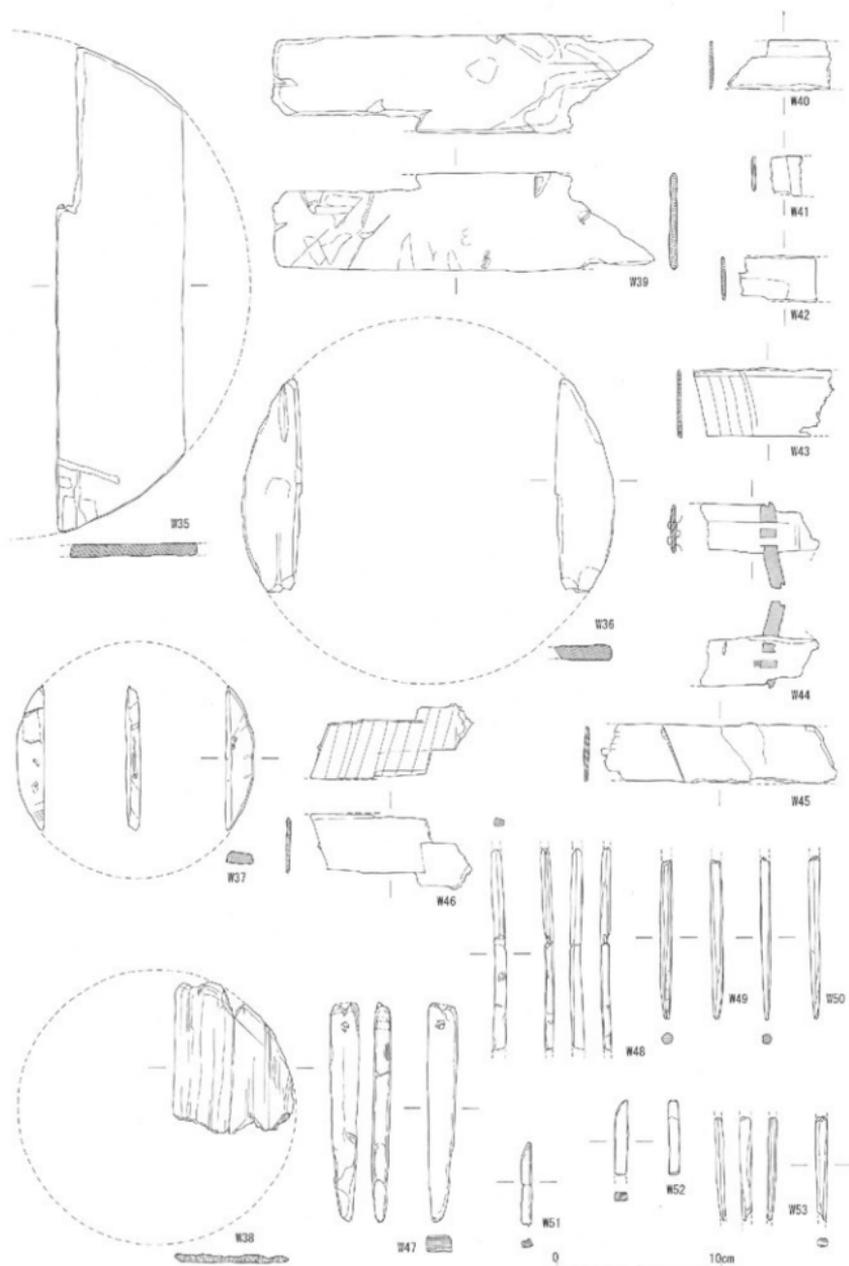
第 52 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 12 S = 1/2 (S40 は S = 1/4 S42・B1 は S = 1/1 F1 は S = 1/3)



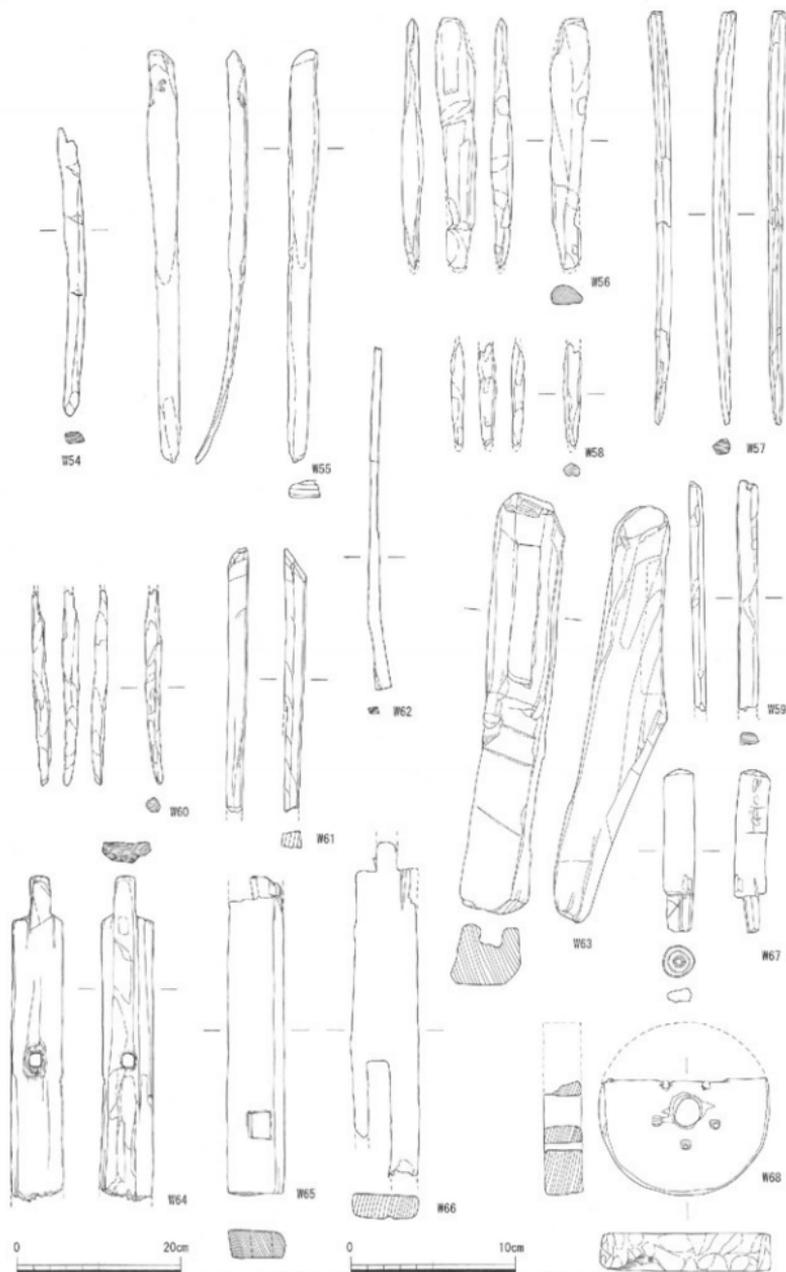
第 53 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 13 S = 1/3



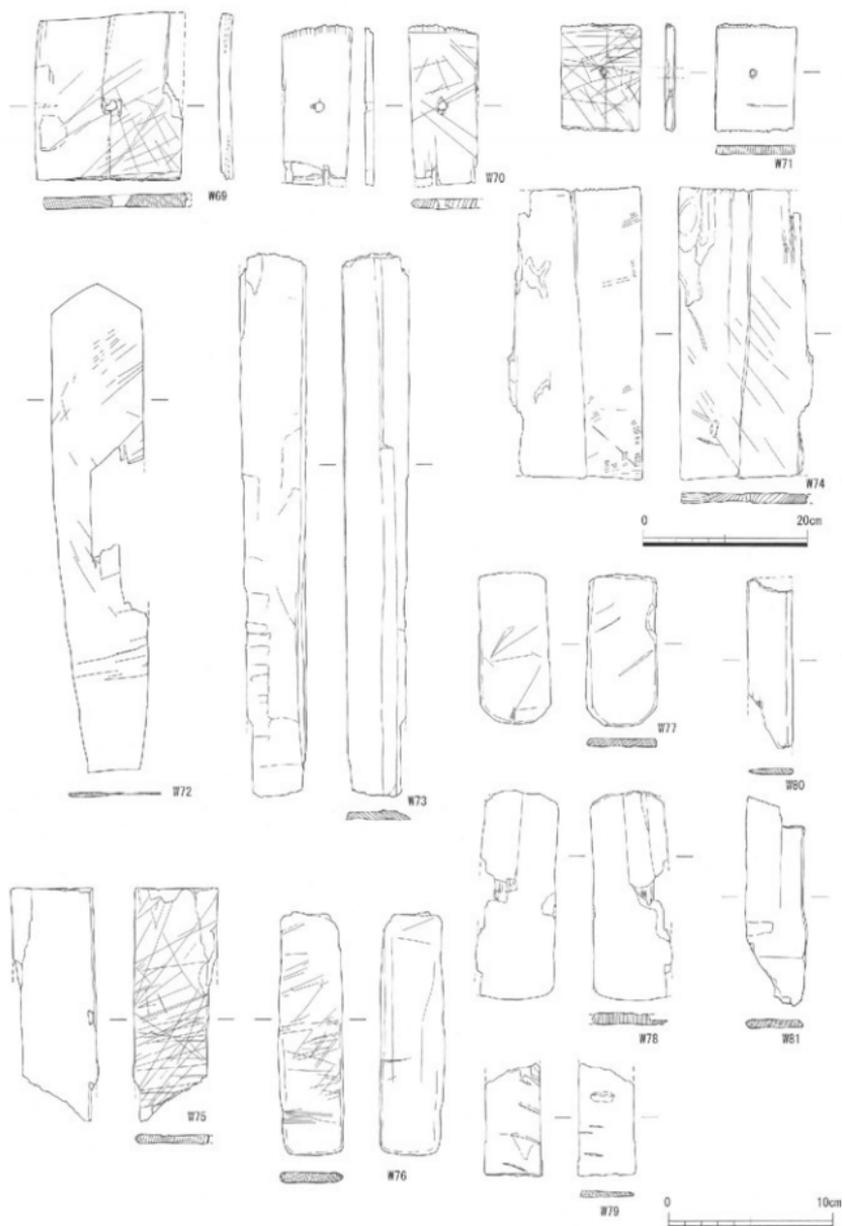
第54図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 14 S = 1/3 (W30はS = 1/6)



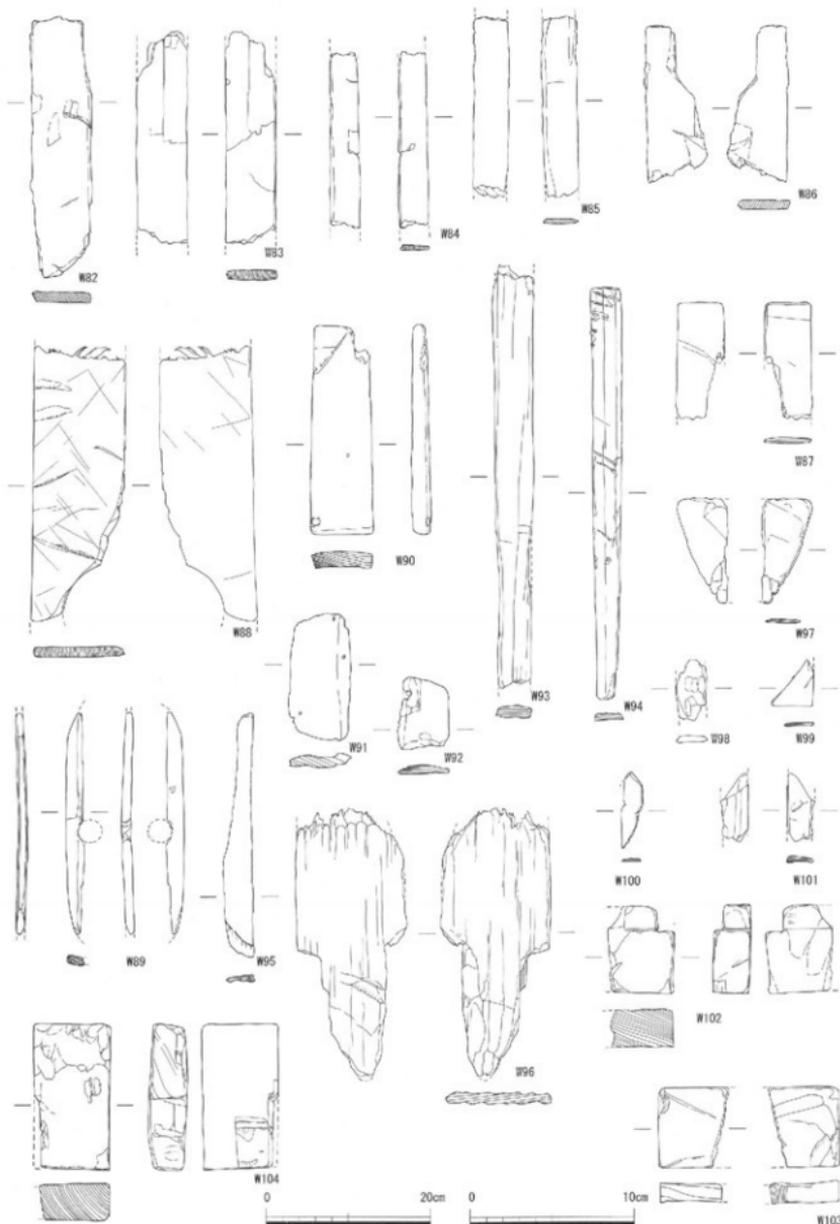
第55図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 15 S = 1/3



第56図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 16 S = 1/3 (W62は S = 1/6)



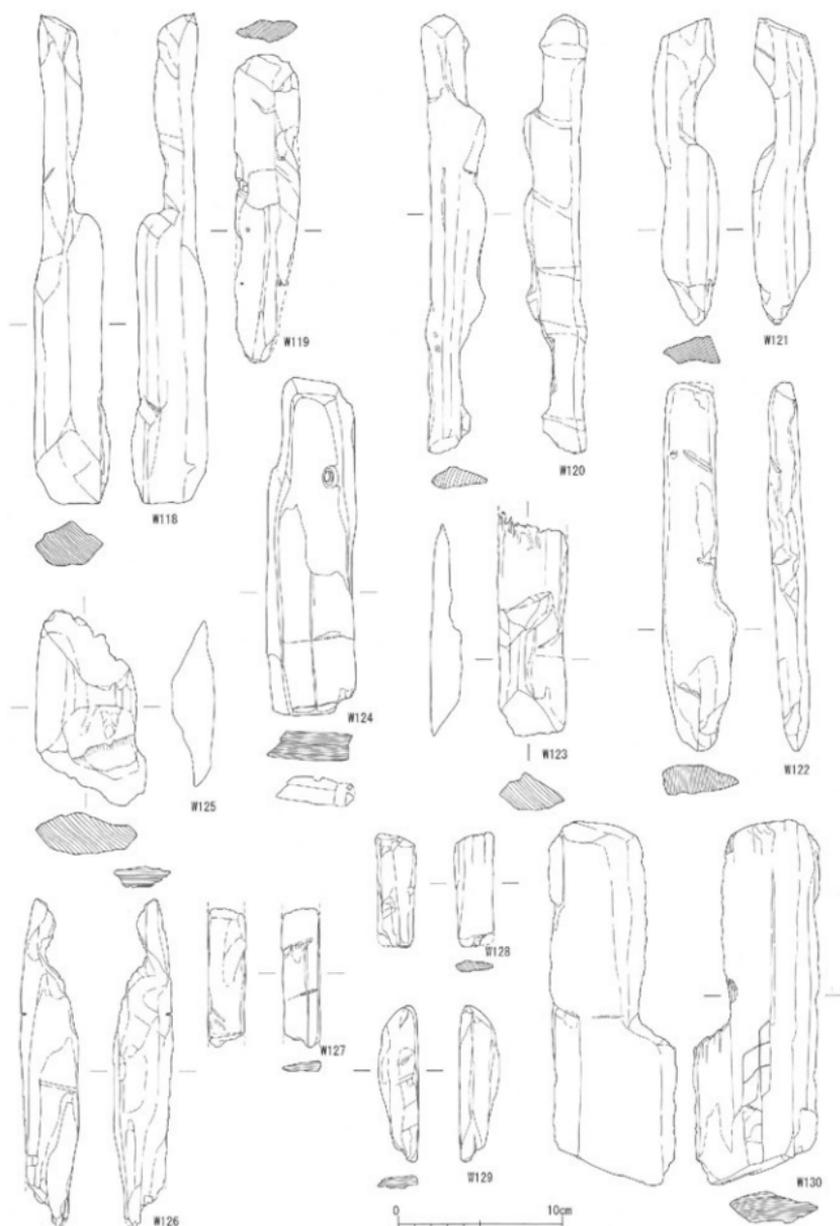
第57図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 17 S = 1/3 (W74はS = 1/6)



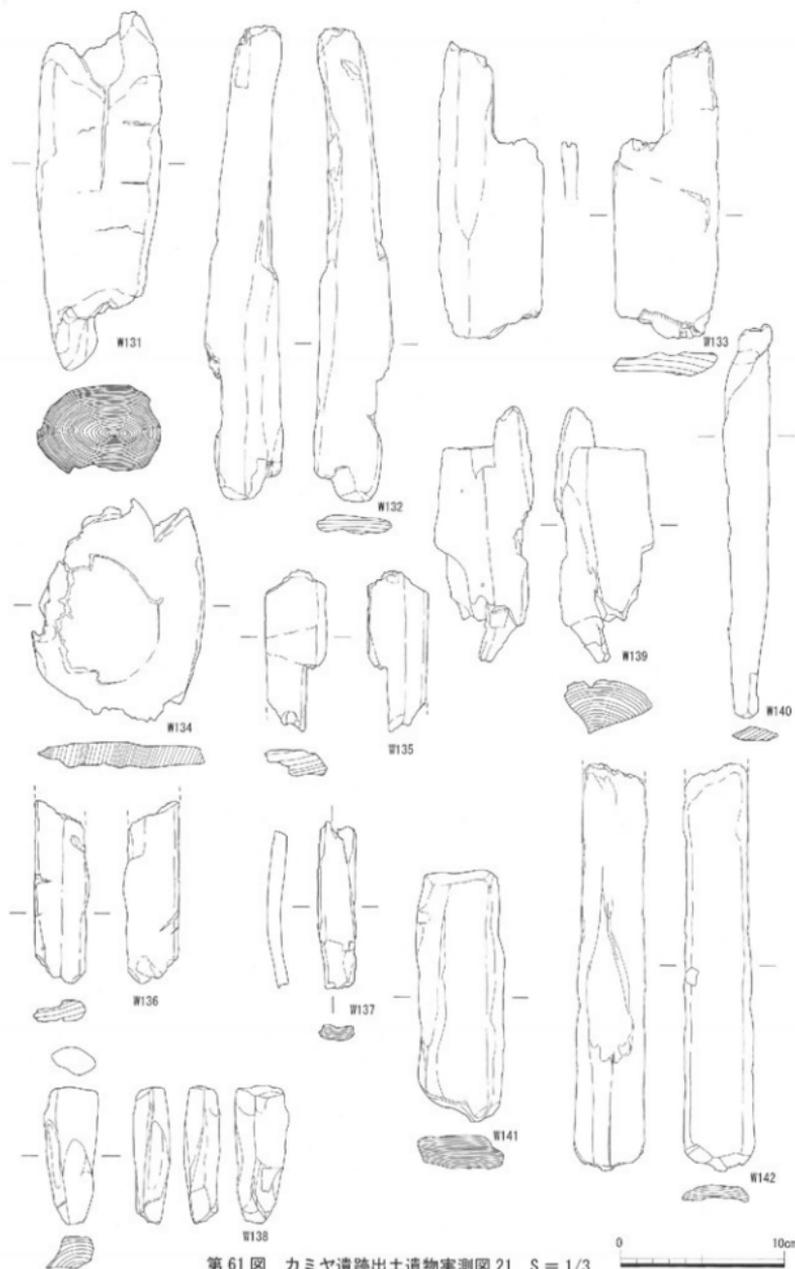
第58図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 18 S = 1/3 (W94はS = 1/6)



第59図 カミヤ遺跡出土遺物実測図19 S=1/3



第60図 カミヤ遺跡出土遺物実測図20 S=1/3



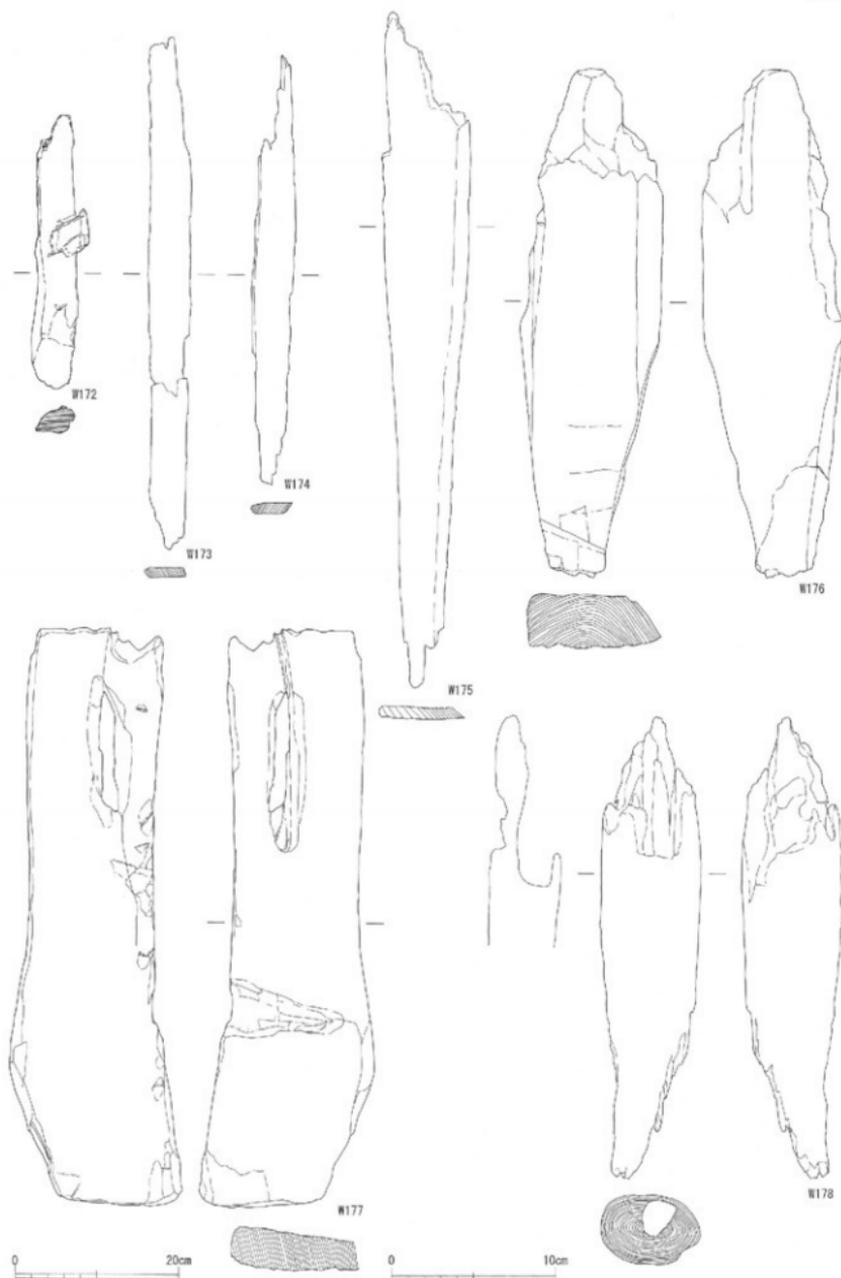
第 61 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 21 S = 1/3



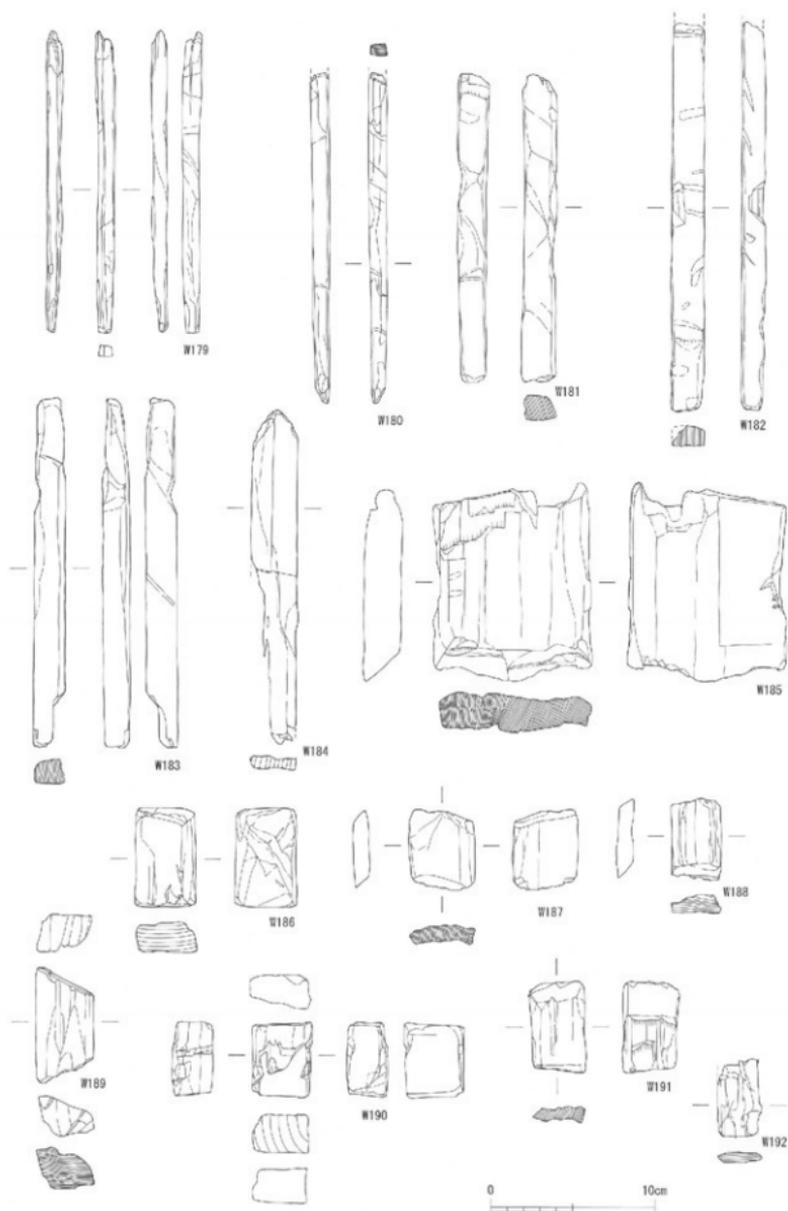
第62図 カミヤ遺跡出土遺物実測図22 S=1/3



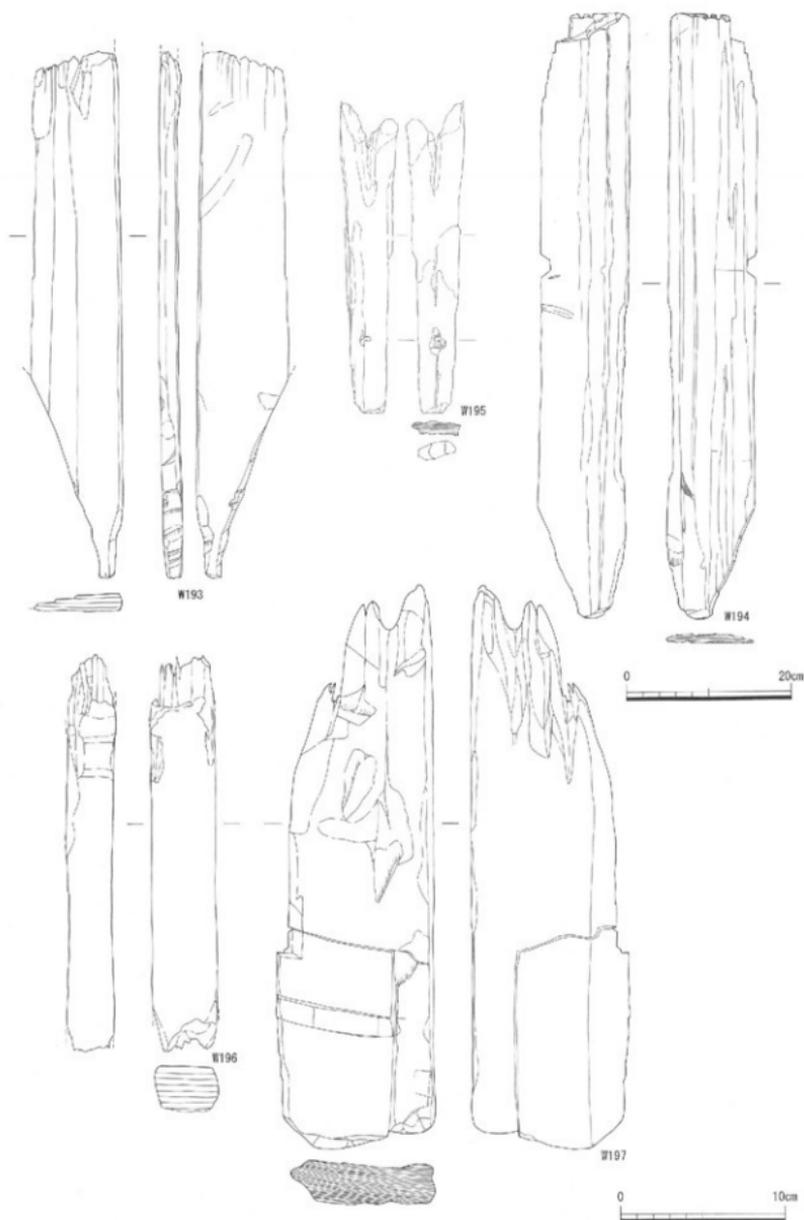
第 63 図 カミヤ遺跡出土土遺物実測図 23 S = 1/3



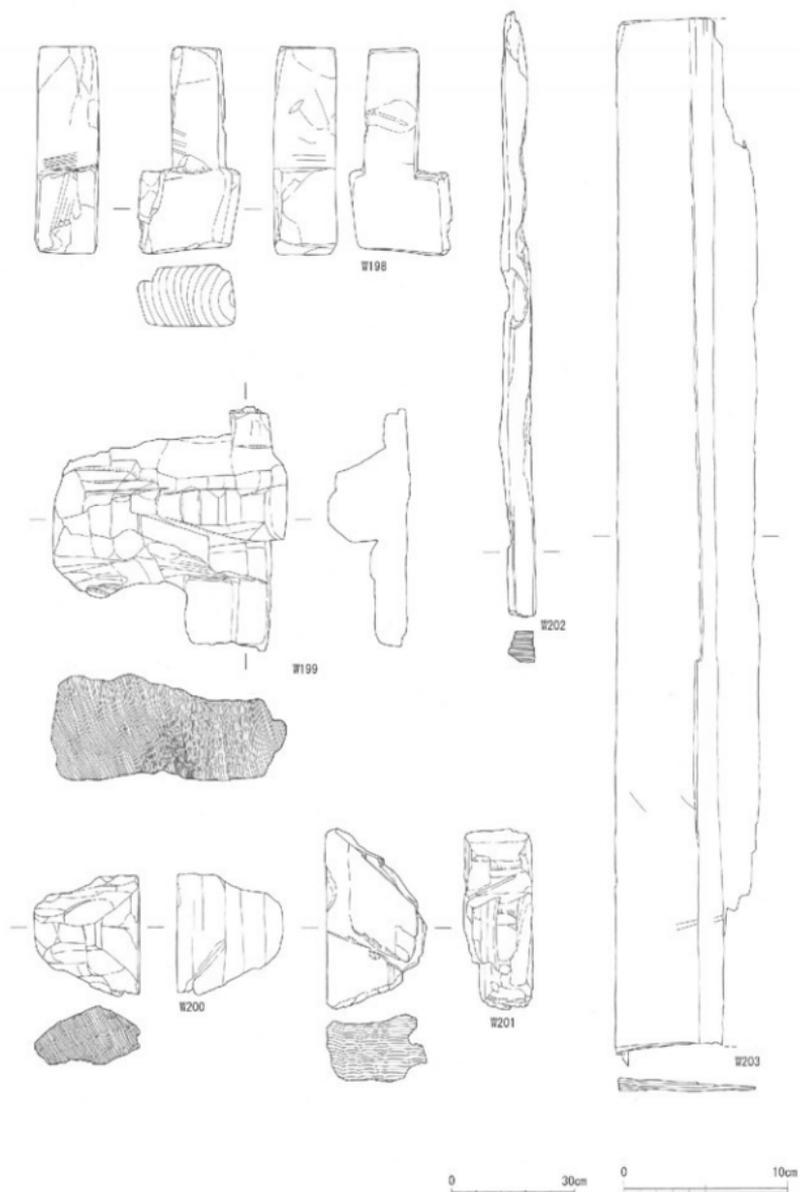
第64図 カミヤ遺跡出土遺物実測図24 S = 1/6 (W176・W178はS = 1/3)



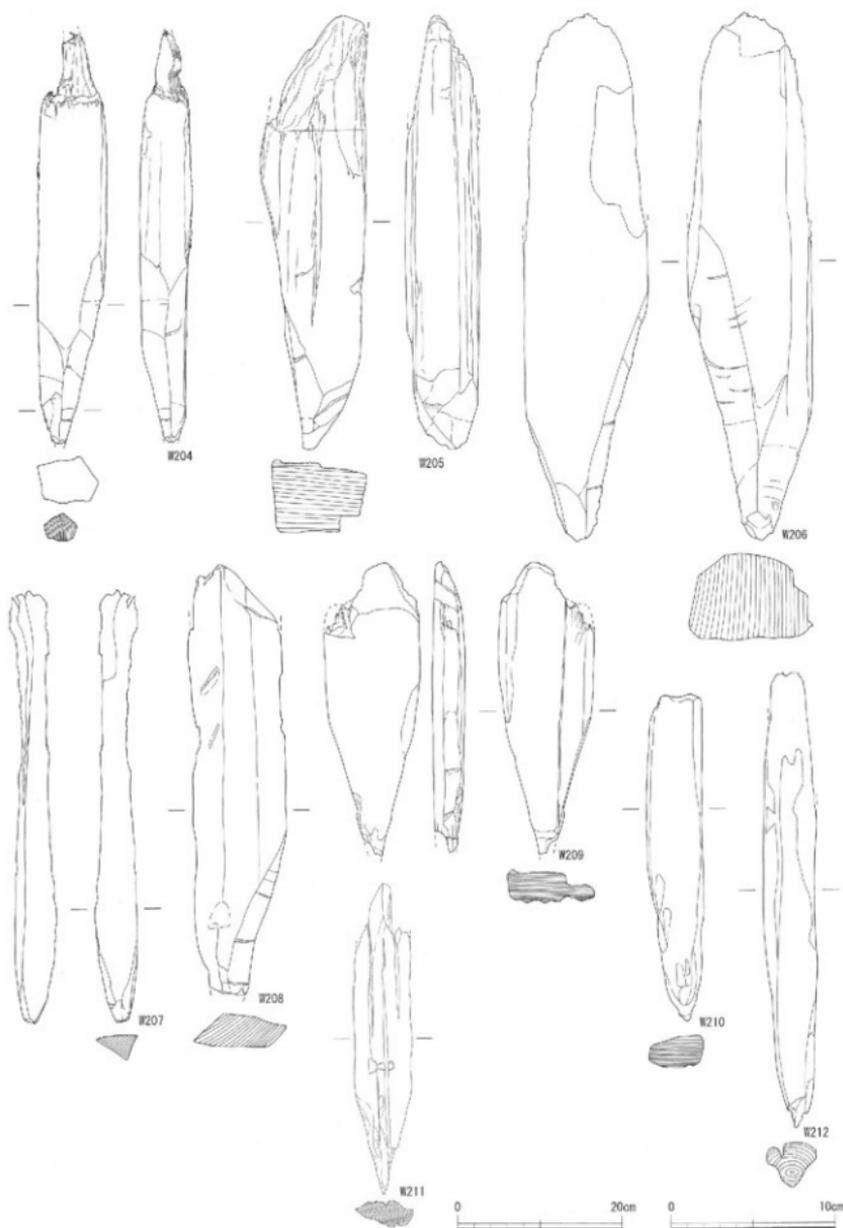
第 65 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 25 S = 1/3



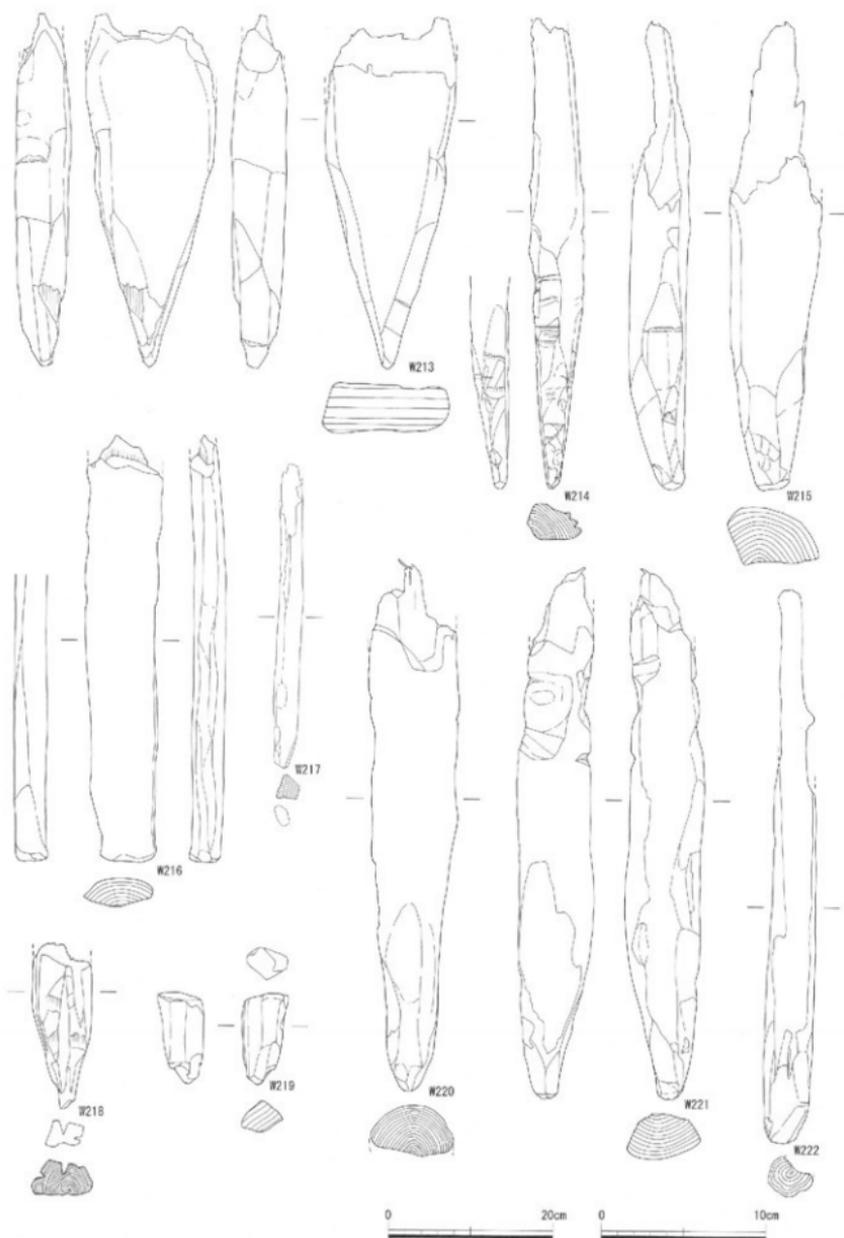
第66図 カミヤ遺跡出土遺物実測図26 S = 1/3 (W194・W195はS = 1/6)



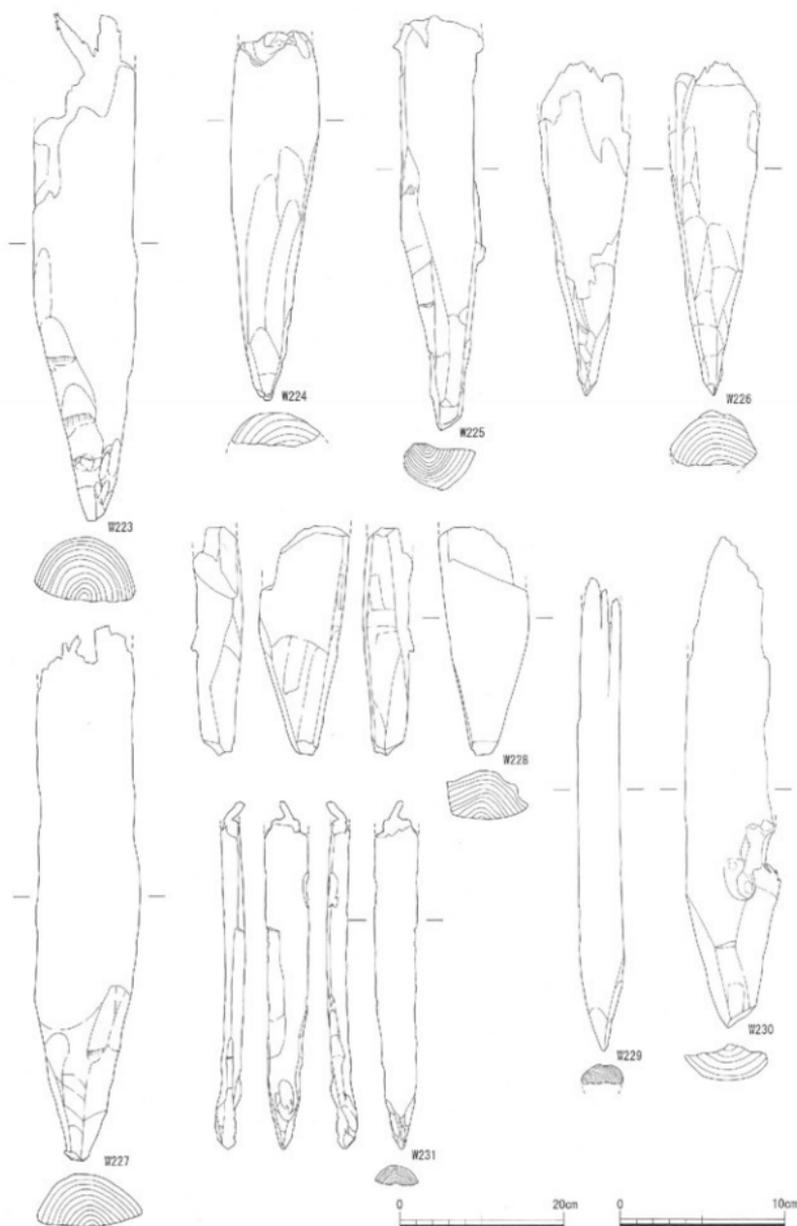
第 67 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 27 S = 1/3 (W202 は S = 1/12)



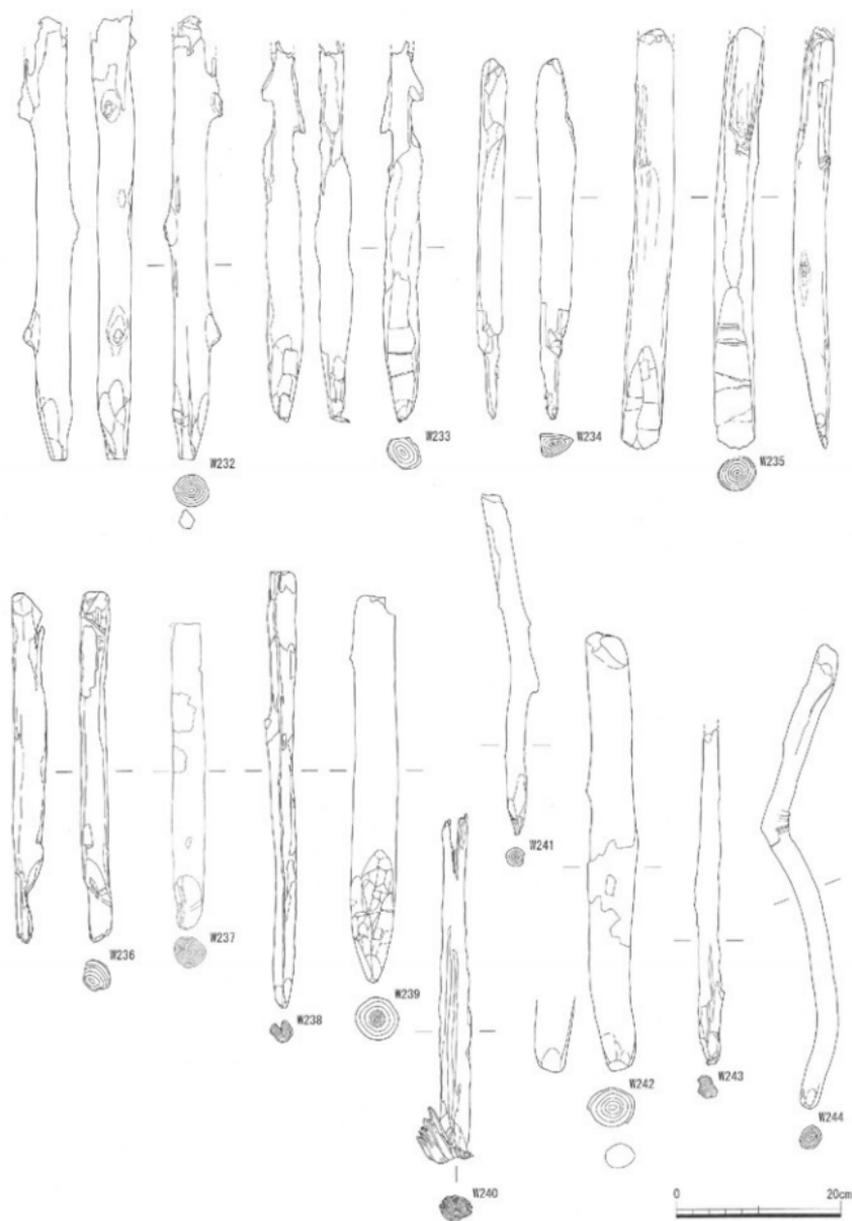
第 68 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 28 S = 1/3 (W204・W207・W211 は S = 1/6)



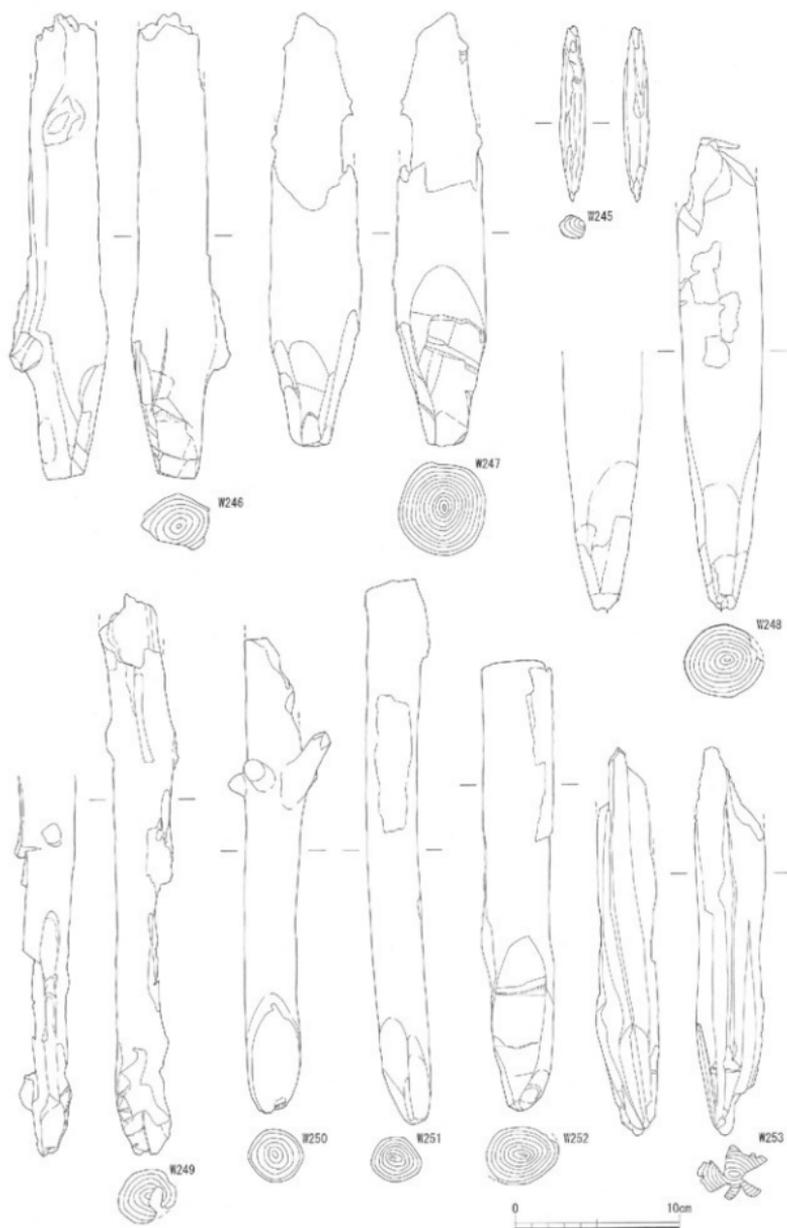
第 69 図 カミヤ遺跡出土遺物実測図 29 S = 1/3 (W214・W217 は S = 1/6)



第70図 カミヤ遺跡出土遺物実測図30 S = 1/3 (W231はS = 1/6)



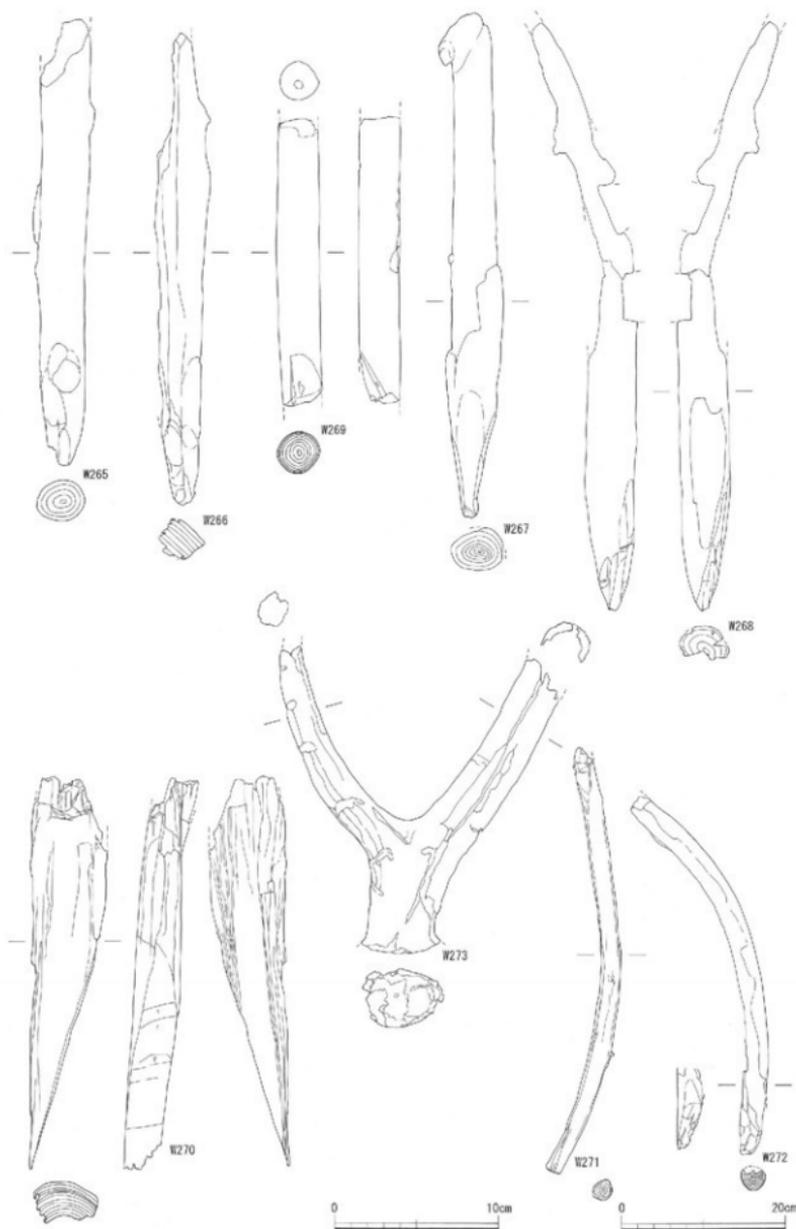
第71図 カミヤ遺跡出土遺物実測図31 S=1/6



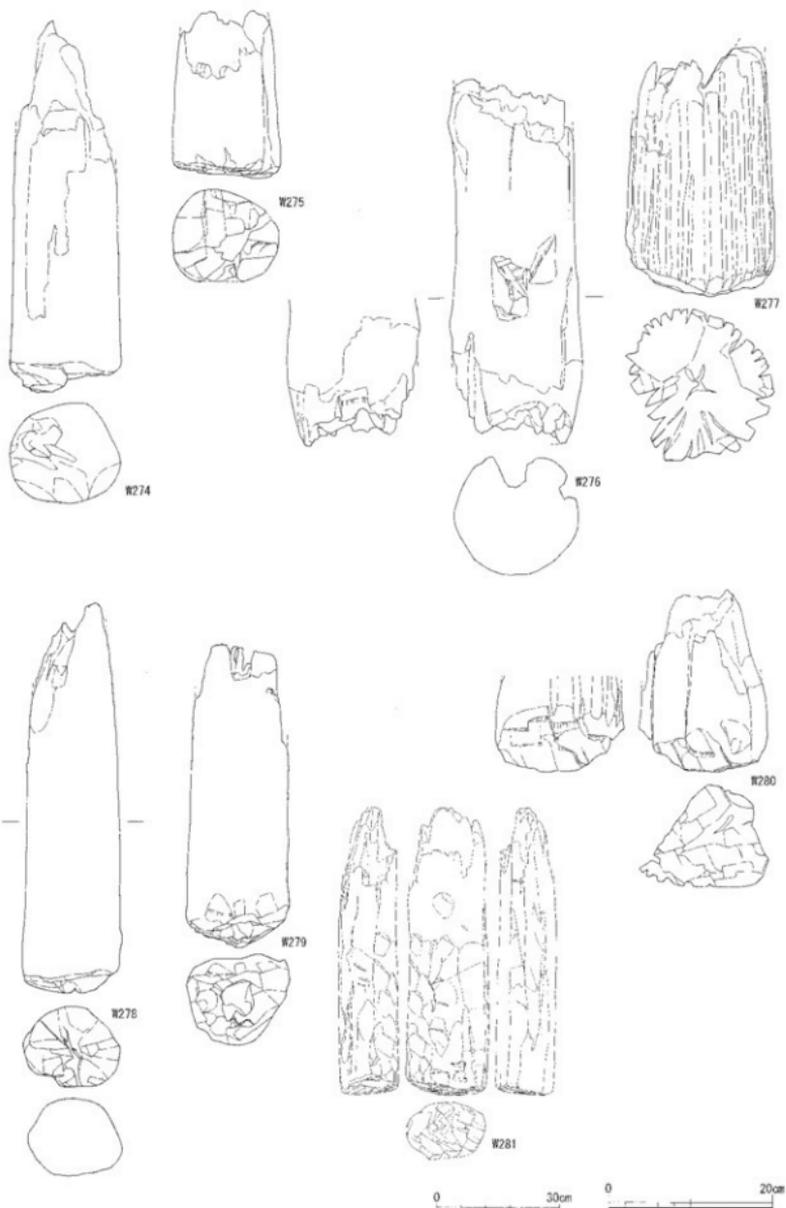
第72図 カミヤ遺跡出土遺物実測図32 S=1/3



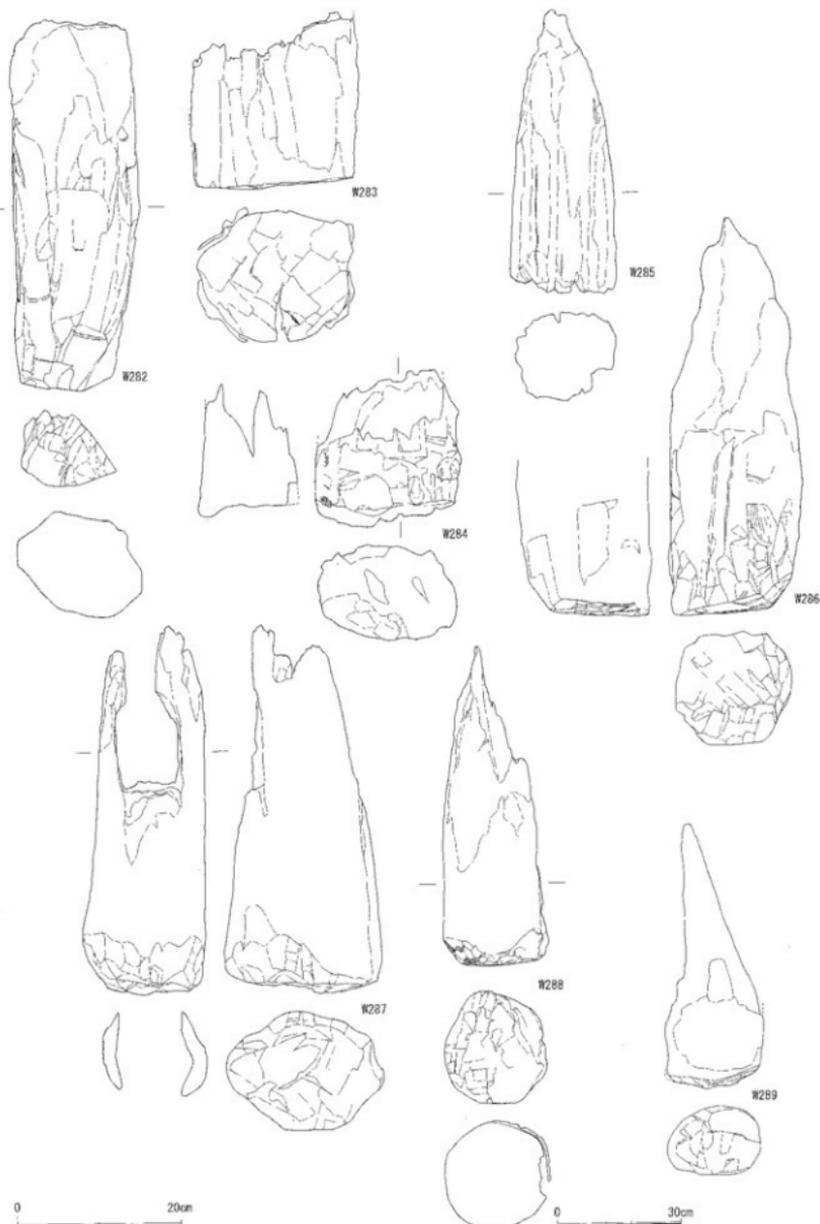
第73図 カミヤ遺跡出土物実測図33 S = 1/3 (W256・W259～262はS = 1/6)



第74図 カミヤ遺跡出土遺物実測図34 S = 1/3 (W271・W272はS = 1/6)



第75図 カミヤ遺跡出土遺物実測図35 S = 1/6 (W281はS = 1/12)



第76図 カミヤ遺跡出土遺物実測図36 S = 1/6 (W288はS = 1/12)